B5FK-3191-02

FUJITSU Tablet ARROWS Tab

ARROWS Tab Q704/H

製品ガイド

本書をお読みになる前に
1 各部名称
2 取り扱い
3 周辺機器
4 ソフトウェア
5 BIOS
6 お手入れ
7 トラブル シューティング
8 仕様

目次

本書をお読みになる前に 8

安全にお使いいただくために 8
本書の表記 8
Windowsの操作 10
商標および著作権について 12

第1章　各部名称

1.1 パソコン本体前面 14
1.2 パソコン本体右側面 15
1.3 パソコン本体左側面 16
1.4 パソコン本体背面 17
1.5 キーボード 18
1.6 クレードル 20
1.7 スリムキーボード 21
1.8 キーボード・ドッキングステーション 22

第2章　取り扱い

2.1 フラットポイント 25
2.1.1 注意事項 25
2.1.2 基本操作 26
2.1.3 高度な操作 26
2.1.4 フラットポイントの設定を変更する 27
2.1.5 フラットポイントの有効／無効を切り替える 27
2.2 マウス 28
2.2.1 注意事項 28
2.2.2 マウスの基本設定を変更する 28
2.3 タッチパネル 29
2.3.1 注意事項 29
2.3.2 キャリブレーション 31
2.3.3 基本操作 33
2.3.4 文字を入力する 34
2.3.5 タッチパネルの補助機能を使う 35
2.3.6 タッチパネルの設定を変更する 35

2.4 ディスプレイ 36
2.4.1 注意事項 36
2.4.2 キーボードで明るさを変更する 36
2.4.3 「Windowsモビリティセンター」で明るさを変更する 36
2.4.4 「電源オプション」で明るさを変更する 37
2.4.5 解像度を変更する 37
2.4.6 拡大表示設定を変更する 38
2.4.7 ディスプレイ省電テクノロジー 39
2.5 マルチディスプレイ機能 40
2.5.1 マルチディスプレイ機能とは 40
2.5.2 注意事項 41
2.5.3 マルチディスプレイ機能を設定する 41
2.5.4 表示方法を切り替える 42
2.6 画面表示の回転 44
2.6.1 注意事項 44
2.6.2 手動で画面表示の向きを変える 44
2.6.3 状態が変わったときの動作を設定する 45
2.7 サウンド 47
2.7.1 全体の再生音量を調節する 47
2.7.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する 48
2.7.3 機器や項目ごとの音量を調節する 48
2.7.4 オーディオ端子の機能を切り替える 50
2.7.5 既定のオーディオ機器を選択する 50
2.7.6 スピーカーの音圧を調節する 50
2.8 省電力 51
2.8.1 省電力状態 51
2.8.2 電源を切る 54
2.8.3 本パソコンの節電機能 55
2.8.4 省電力設定 56
2.8.5 ピークシフト 57
2.8.6 ECO Sleep 58
2.8.7 「ディスプレイの電源を切る」 58
2.9 バッテリ 59
2.9.1 注意事項 59
2.9.2 バッテリを充電する 60
2.9.3 バッテリの残量を確認する 60
2.9.4 バッテリの充電モードを変更する 61
2.9.5 バッテリの状態を確認する 62
2.10 通信 63
2.10.1 有線LAN 63
2.10.2 無線LAN 63
2.10.3 無線WAN 64
2.10.4 Bluetoothワイヤレステクノロジー 64
2.10.5 無線通信機能の電波を発信する／停止する 68

2.11 ステータスパネルスイッチ 70
2.11.1 注意事項 70
2.11.2 ステータスパネルスイッチでモードを切り替える 71
2.11.3 各モードの設定を変更する 72
2.12 ダイレクト・メモリースロット 73
2.12.1 注意事項 73
2.12.2 使用できるメモリーカード 73
2.12.3 メモリーカードをセットする 74
2.12.4 メモリーカードを取り出す 74
2.13 タブレットボタン 75
2.13.1 タブレットボタンを使う 75
2.14 暗号化機能付フラッシュメモリディスク 76
2.15 セキュリティチップ 77
2.16 Webカメラ 78
2.16.1 注意事項 78
2.16.2 Webカメラの設定を変更する 78
2.17 防水性能 79
2.17.1 防水性能でできること 79
2.17.2 防水性能を維持するために 80
2.17.3 防水性能をお使いになるうえでの注意 81
2.17.4 水抜き 82
2.17.5 充電のときの注意 83

第3章 周辺機器

3.1 周辺機器を取り付ける前に 85
3.1.1 注意事項 85
3.2 クレードル 86
3.2.1 注意事項 86
3.2.2 クレードルを取り付ける 86
3.2.3 クレードルを取り外す 87
3.3 キーボード・ドッキングステーション 88
3.3.1 注意事項 88
3.3.2 キーボード・ドッキングステーションを取り付ける 89
3.3.3 キーボード・ドッキングステーションを取り外す 90
3.3.4 キーボード・ドッキングステーションのバッテリを充電する 91
3.3.5 キーボード・ドッキングステーションのバッテリの残量を確認する 92
3.4 スリムキーボード 93
3.4.1 スリムキーボードをお使いになるうえでの注意 93
3.4.2 スリムキーボードを取り付ける 94
3.4.3 スリムキーボードを取り外す 95

3.5 ドコモminiUIMカード 96
3.5.1 注意事項 96
3.5.2 ドコモminiUIMカードを取り付ける 96
3.5.3 ドコモminiUIMカードを取り外す 97
3.6 アタッチメント／ストラップ 98
3.6.1 注意事項 98
3.6.2 アタッチメントを取り付ける 99
3.6.3 ハンドストラップを取り付ける 99
3.6.4 ショルダーストラップを取り付ける 100
3.7 コネクタの接続／取り外し 101
3.7.1 注意事項 101
3.7.2 ディスプレイコネクタ 101
3.7.3 USBコネクタ 102
3.7.4 オーディオ端子 103
3.7.5 LANコネクタ 103

第4章 ソフトウェア

4.1 ソフトウェアの紹介 105
4.1.1 一覧表の見かた 105
4.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア 106
4.1.3 サポート関連のソフトウェア 107
4.1.4 ユーティリティ 108
4.1.5 CD/DVD関連のソフトウェア 110
4.1.6 メールソフト 110
4.1.7 Office製品 111
4.2 インストール 112
4.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール 112
4.2.2 「マカフィー マルチアクセス」のインストール 113
4.2.3 「i-フィルター」のインストール 114
4.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール 114
4.2.5 Office製品のインストール 114
4.3 アンインストール 115
4.3.1 注意事項 115
4.3.2 アンインストール方法 115

第5章　BIOS

5.1 BIOSセットアップ 117
5.2 BIOSセットアップの操作のしかた 118
5.2.1 BIOSセットアップを起動する 118
5.2.2 BIOSセットアップ画面 119
5.2.3 BIOSセットアップメニュー 119
5.2.4 BIOSセットアップを終了する 120
5.2.5 起動メニューを使用する 121
5.3 設定事例集 122
5.3.1 BIOSのパスワード機能を使う 122
5.3.2 起動デバイスを変更する 125
5.3.3 セキュリティチップの設定を変更する 126
5.3.4 パスワードの代わりに指紋認証を使う 127
5.3.5 Wakeup on LANを有効にする 128
5.3.6 イベントログを確認する 128
5.3.7 イベントログを消去する 129
5.3.8 ご購入時の設定に戻す 129
5.4 ME BIOS Extension 130
5.4.1 初期パスワードを変更する 131
5.4.2 MEセットアップを起動する 133
5.4.3 MEセットアップを終了する 134
5.4.4 メニュー詳細 135

第6章　お手入れ

6.1 日常のお手入れ 137
6.1.1 パソコン本体、キーボード・ドッキングステーション、スリムキーボード、クレードルの表面の汚れ 137
6.1.2 液晶ディスプレイ／タッチパネル 138

第7章　トラブルシューティング

7.1 トラブル発生時の基本操作 140
7.1.1 状況を確認する 140
7.1.2 以前の状態に戻す 140
7.1.3 セーフモードで起動する（Windows 7の場合） 141
7.1.4 トラブルシューティングで調べる 142
7.1.5 Windowsのヘルプで調べる 142
7.1.6 インターネットで調べる 142
7.1.7 診断プログラムを使用する 142
7.1.8 サポートの窓口に相談する 144

7.2 よくあるトラブルと解決方法 145
7.2.1 トラブル一覧 145
7.2.2 起動・終了時のトラブル 146
7.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル 149
7.2.4 ハードウェア関連のトラブル 151
7.2.5 エラーメッセージ一覧 160
7.3 それでも解決できないときは 166
7.3.1 お問い合わせ先 166

第8章 仕様

8.1 本体仕様 169
8.1.1 Q704/H 169
8.2 CPU 174
8.3 ディスプレイ 177
8.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度 177
8.3.2 クローン表示の解像度 179

廃棄・リサイクル 180

付録1 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意 181

パソコンの廃棄・譲渡時の
フラッシュメモリディスク上のデータ消去に関する注意 181
フラッシュメモリディスクデータ消去 182

付録2 Windowsの新規インストールについて 184

注意事項 184
新規インストールの準備 184
新規インストール手順 185

付録3 認定および準拠について 187

索引 188

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2014年6月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をタップし、「システム」をタップし、「デバイスマネージャー」をタップする操作

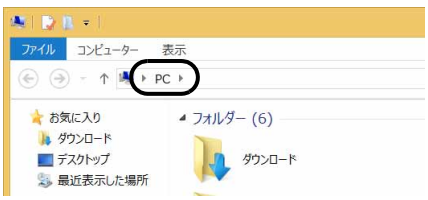
↓

「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」の順にタップします。

■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



↓

「PC」ウィンドウ

↓

「システム」ウィンドウ

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。
操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。
使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

ディスク名称
リカバリデータディスク
トラブル解決ナビディスク［リカバリ起動ディスク］
ドライバーズディスク

ご購入時の構成によっては、これらのディスクは添付されていません。
本パソコンに格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

重要

- **ご購入時にディスクが添付されている場合、「リカバリデータ」と「トラブル解決ナビ」は1枚のディスクに格納されています。**
  本文中に「リカバリデータディスク」および「トラブル解決ナビディスク」と記載されている箇所は、「トラブル解決ナビ＆リカバリデータディスク」を使用してください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。
あらかじめご了承ください。
なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="3">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>Windows 8.1 Pro 64ビット版</td><td rowspan="2">Windows 8.1（64ビット版）</td><td rowspan="2">Windows 8.1</td><td rowspan="4">Windows</td></tr>
<tr><td>Windows 8.1 64ビット版</td></tr>
<tr><td>Windows 7 Professional 64ビット版</td><td>Windows 7（64ビット版）</td><td rowspan="2">Windows 7</td></tr>
<tr><td>Windows 7 Professional 32ビット版</td><td>Windows 7（32ビット版）</td></tr>
<tr><td>Windows Internet Explorer 11</td><td colspan="3" rowspan="2">Internet Explorer</td></tr>
<tr><td>Windows Internet Explorer 10</td></tr>
<tr><td>Microsoft Office Professional 2013</td><td colspan="2">Office Professional 2013</td><td rowspan="3">Office</td></tr>
<tr><td>Microsoft Office Home and Business 2013</td><td colspan="2">Office Home and Business 2013</td></tr>
<tr><td>Microsoft Office Personal 2013</td><td colspan="2">Office Personal 2013</td></tr>
<tr><td>Windows Media® Player 12</td><td colspan="3">Windows Media Player</td></tr>
<tr><td>Windows Live® メール</td><td colspan="3">Windows Liveメール</td></tr>
<tr><td>AirCard® Watcher™</td><td colspan="3">AirCard Watcher</td></tr>
<tr><td>Adobe® Reader®</td><td colspan="3">Adobe Reader</td></tr>
<tr><td>Bluetooth®</td><td colspan="3">Bluetooth</td></tr>
<tr><td>i-フィルター® 6.0</td><td colspan="3">i-フィルター</td></tr>
<tr><td>Roxio Creator LJ</td><td colspan="3">Roxio Creator</td></tr>
<tr><td>マカフィー® マルチアクセス
-インターネットセキュリティ</td><td colspan="3">マカフィー マルチアクセス</td></tr>
</table>

Windowsの操作

■ アプリ画面（Windows 8.1）

インストールされている、すべてのプログラムを表示させる画面です。
次の操作で表示することができます。

1 **スタート画面で上方向にスライドします。**

■ チャーム（Windows 8.1）

「チャーム」とは、必要なときに表示させて使う縦長のバーのことです。
画面の右端を左方向に画面の外から中へスワイプすると表示されます。

■「コントロールパネル」ウィンドウ

「コントロールパネル」ウィンドウの開き方が、Windows 8.1とWindows 7で異なります。
次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

□Windows 8.1の場合

1 アプリ画面（→P.10）を表示し、「Windows システム ツール」の「コントロールパネル」をタップします。

□Windows 7の場合

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。

■ Windowsのヘルプ

本書で説明されていないWindowsの機能については、次の操作で表示されるWindowsのヘルプをご覧ください。

- Windows 8.1の場合
  1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「Windows システム ツール」の「ヘルプとサポート」をタップします。

- Windows 7の場合
  1. 「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」の順にタップします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

デスクトップ画面の通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の をタップします。

■ Windowsモビリティセンター

本パソコンのいくつかの機能は、「Windowsモビリティセンター」で操作できます。
「Windowsモビリティセンター」は次の操作で起動します。
デスクトップ画面右下の通知領域にある「電源」アイコン を右タップし、「Windowsモビリティセンター」をタップします。

POINT

- Windows 8.1の場合は、次の操作でも表示することができます。
  1. 画面左下隅の「スタートボタン」を右タップし、「モビリティセンター」をタップします。
     スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせるとWindowsのマークが表示されます。

商標および著作権について

インテル、Intel、インテル Core、インテル vProおよびIntel SpeedStepは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
Phoenixは、米国Phoenix Technologies社の登録商標です。
Adobe、Readerは、合衆国および／またはその他の国におけるアドビシステムズ社の登録商標または商標です。
AirCard® Watcher™は、Sierra Wireless, Inc.の商標または登録商標です。
Bluetooth®は、Bluetooth SIGの商標であり、富士通へライセンスされています。
Roxio、Roxioのロゴ、Roxio CreatorはCorel Corporationおよびその関連会社の商標または登録商標です。
FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。
HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
McAfee、マカフィーは、米国法人McAfee, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。

SDXCロゴは SD-3C, LLC. の商標です。

Xi、FOMAはNTTドコモの商標または登録商標です。
Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS, the Symbol, & DTS and the Symbol together are registered trademarks, and DTS Boost is a trademark of DTS (BVI) Limited (in Hong Kong and China) and DTS, Inc. (outside of Hong Kong and China). ©DTS, Inc. All Rights Reserved.

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。
その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2013-2014

本パソコンは、VCCI 自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合した文言、またはマークを画面に電子的に表示しています。
表示の操作方法は、「付録3 認定および準拠について」（→P.187）をご覧ください。

本パソコンは、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合し、技適マークを画面に表示することができます。
表示の操作方法は、「付録3 認定および準拠について」（→P.187）をご覧ください。

1

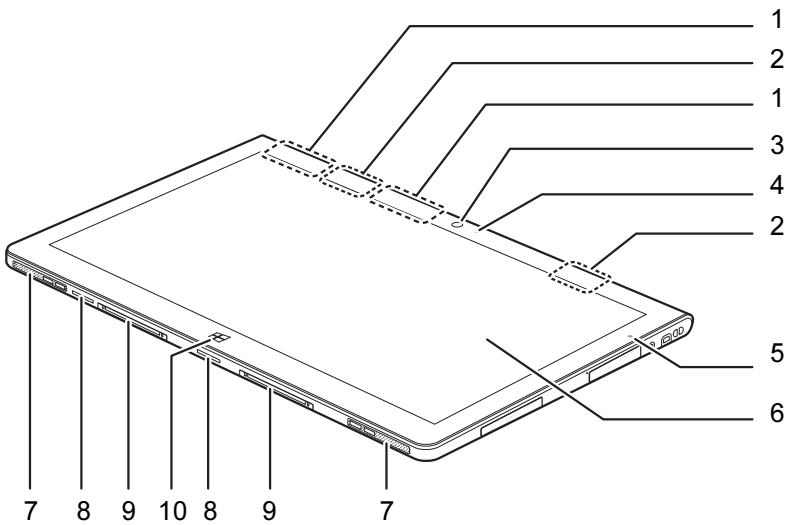
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1 パソコン本体前面 14
1.2 パソコン本体右側面 15
1.3 パソコン本体左側面 16
1.4 パソコン本体背面 17
1.5 キーボード 18
1.6 クレードル 20
1.7 スリムキーボード 21
1.8 キーボード・ドッキングステーション 22

1.1 パソコン本体前面



1 ワイヤレスアンテナ
無線LAN・Bluetoothワイヤレステクノロジー兼用のアンテナが内蔵されています。

2 無線WANアンテナ
無線WANのアンテナが内蔵されています。

3 インWebカメラ
自分を撮影するときなどに使います。

4 インWebカメラ状態表示LED
インWebカメラが動作しているときに点灯します。

5 照度センサー
周囲の明るさを感知して、液晶ディスプレイを最適な輝度に自動で調整します。
次の手順で設定の変更ができます。

1. ショートカットボタンを押します。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。
2. 「自動画面輝度調整」ボタンをタップします。
ボタンをタップするたびに、ON／OFFが切り替わります。

6 液晶ディスプレイ／タッチパネル
（→P.36）／（→P.29）

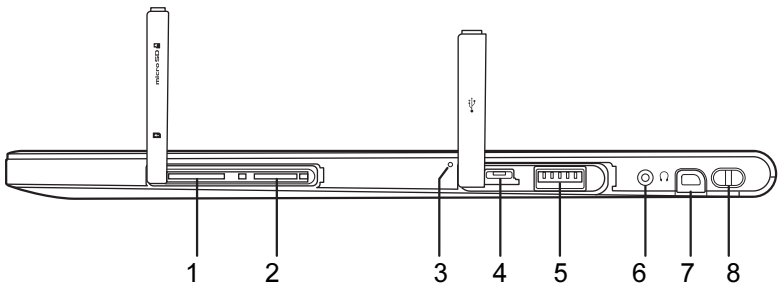
7 スピーカー

8 吸気孔

9 ドッキングコネクタ
（→P.86）／（→P.89）／（→P.94）

10 Windowsボタン
Windows 8.1の場合：スタート画面または直前のアプリを表示します。
Windows 7の場合：「スタート」メニューを表示します。

1.2 パソコン本体右側面



1 ドコモminiUIMカードスロット
（無線WAN搭載機種）
（→P.96）

2 ダイレクト・メモリースロット
microSDメモリーカードを差し込みます。
（→P.73）

3 内蔵マイク

4 microUSBコネクタ
USB変換ケーブル を接続します。
（→P.102）

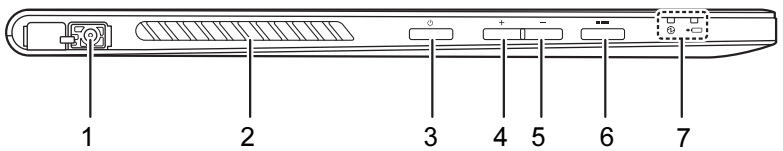
5 USB 3.0コネクタ
（→P.102）

6 マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子（防水）
（→P.103）

7 ペンホルダー（ペン）

8 ペンひも取り付け用穴

1.3 パソコン本体左側面



1 DC-INコネクタ

2 排気孔

3 電源ボタン
パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.51）にしたりします。

4 ボリュームアップボタン（＋）
音量を大きくします。（→P.47）

5 ボリュームダウンボタン（－）
音量を小さくします。（→P.47）

6 ショートカットボタン
・短く押したとき
「ステータスパネルスイッチ」（→P.70）を起動
・長く押したとき
画面をキャプチャし、選択したアプリケーションで開く

7 状態表示LED

⏻	・電源ランプ 電源の状態を表示します。（→P.16）
	・ワイヤレス通信ランプ 無線通信機能の状態を表示します。（→P.16）
➡▭	・バッテリ充電ランプ パソコンがACアダプタやクレードルに接続されている場合に、バッテリの充電状態を表示します。（→P.60）

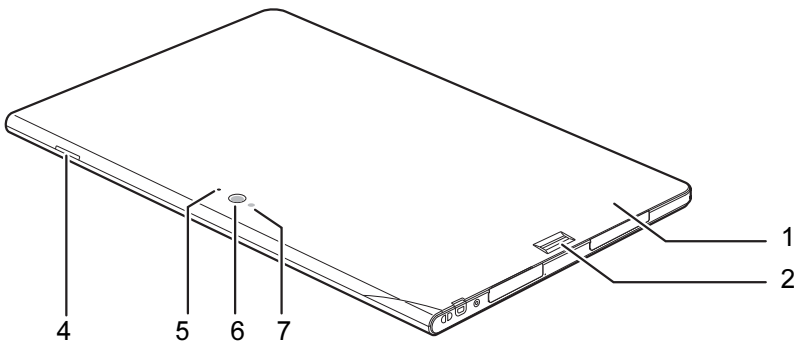
■ 電源ランプ／ワイヤレス通信ランプの状態

電源ランプ／ワイヤレス通信ランプは、パソコンの状態によって次のように動作します。

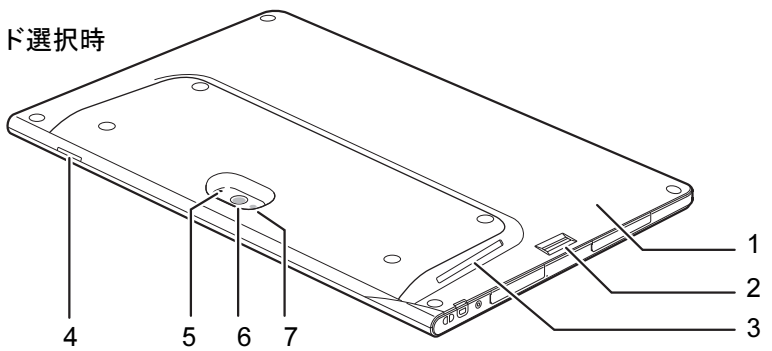
LEDランプ	パソコンの状態	
	電源	無線通信機能
青色点灯	パソコンの電源が入っている	※注
青色と白色が交互に点滅	スリープ	発信
青色点滅		停止
白色点滅	・休止状態 ・パソコンの電源が切れている	発信
消灯		停止

注 ： 無線通信機能の状態は、「2.10.5 無線通信機能の電波を発信する／停止する」（→P.68）をご覧になり、確認してください。

1.4 パソコン本体背面



■スマートカード選択時



1 NFCポート

2 指紋センサー

3 スマートカードスロット
（スマートカード搭載機種）
Windowsの起動、ソフトウェアのサインイン（ログオン）時に、スマートカード認証によるセキュリティを設定できます。
スマートカードのICチップを下（パネル）側にして挿入してください。
IDやパスワードなどのセキュリティ情報は、スマートカードに格納します。詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

4 吸気孔

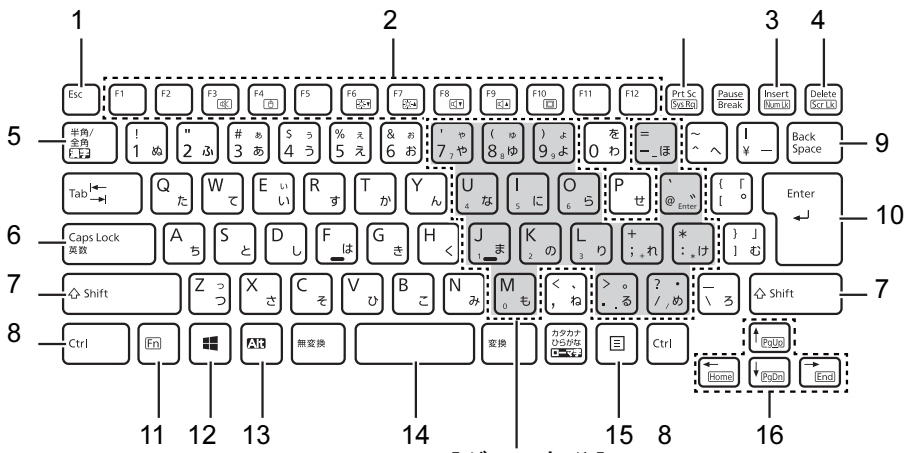
5 アウトWebカメラ状態表示LED
静止画や動画を撮影するときに使用します。アウトWebカメラ状態表示LEDアウトWebカメラが動作しているときに点灯します。

6 アウトWebカメラ

7 カメラ用ライト

1.5 キーボード

対 象　キーボード・ドッキングステーション／スリムキーボード搭載機種



1【Esc】キー

2 ファンクションキー（【F1】～【F12】）

3【Insert】キー／【Num Lk】キー

【Insert】キー	入力する文字の挿入／上書きを切り替える
【Num Lk】キー	テンキーモード（→P.19）のオン／オフを切り替える

4【Delete】キー／【Scr Lk】キー

【Delete】キー	カーソルの右側にある1文字を削除する
【Scr Lk】キー	【Fn】キーと組み合わせて使う

5【半角／全角】キー
日本語入力のオン／オフを切り替えます。

6【Caps Lock】キー
【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。

7【Shift】キー

8【Ctrl】キー

9【Back Space】キー

10【Enter】キー

11【Fn】キー
【Fn】キーを押しながら、青い刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用できます。

【Fn】＋【F3/ 🔇】	スピーカーやヘッドホンのオン／オフを切り替える
【Fn】＋【F4/ 🖱】	フラットポイントの有効と無効を切り替える
【Fn】＋【F6/ ☼▼】	液晶ディスプレイを暗くする
【Fn】＋【F7/ ☼▲】	液晶ディスプレイを明るくする
【Fn】＋【F8/ 🔉▼】	音量を小さくする
【Fn】＋【F9/ 🔊▲】	音量を大きくする
【Fn】＋【F10/ ▭】	外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替えます。
【Fn】＋【←/Home】	カーソルを行の最初に移動する
【Fn】＋【Ctrl】＋【←/Home】	文章の最初に移動する
【Fn】＋【↑/Pg Up】	前の画面に切り替える

【Fn】＋【↓/Pg Dn】	次の画面に切り替える
【Fn】＋【→/End】	カーソルを行の最後に移動する
【Fn】＋【Ctrl】＋【→/End】	文章の最後に移動する

12 **【⊞】（Windows）キー**
Windows 8.1の場合：スタート画面を表示します。
Windows 7の場合：「スタート」メニューを表示します。

13 **【Alt】キー**

14 **【Space】キー**

15 **【▤】（アプリケーション）キー**
選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスなどの右クリックと同じ役割をします。

16 **カーソルキー**

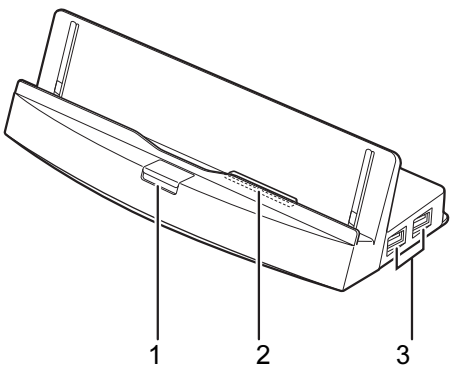
■ テンキーモード

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態のことを「テンキーモード」といいます。【Num Lk】キーを押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LEDのNum Lockランプが点灯します。

1.6 クレードル

■ ターボモード用拡張クレードル

□ 前面



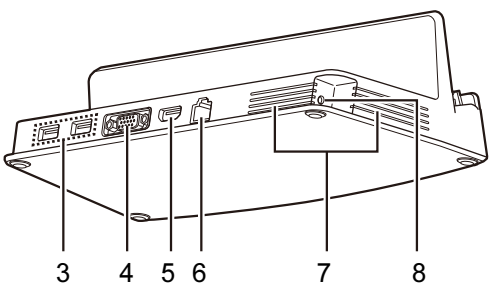
1 取り外しボタン
クレードルをパソコン本体から取り外す場合に押します。（→P.87）

2 本体接続コネクタ
パソコン本体にあるドッキングコネクタを接続します。（→P.86）

3 USB3.0コネクタ
（→P.102）

4 アナログディスプレイコネクタ
（→P.101）
パソコン本体を拡張クレードルに接続した場合は、パソコン本体のmicroUSBコネクタは使用できません。
拡張クレードルのUSBコネクタおよびディスプレイコネクタを使用してください。

□ 背面



5 デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）
（→P.101）
パソコン本体を拡張クレードルに接続した場合は、パソコン本体のmicroUSBコネクタは使用できません。
拡張クレードルのUSBコネクタおよびディスプレイコネクタを使用してください。

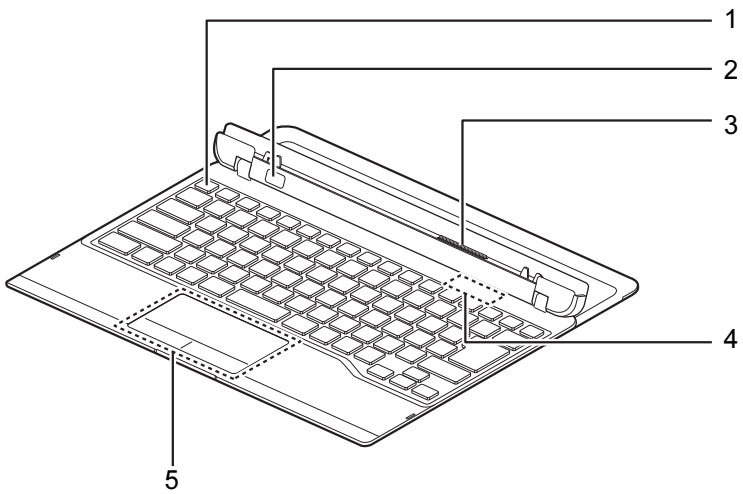
6 LANコネクタ
（→P.103）

7 吸気孔

8 DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続します。

1.7 スリムキーボード

対 象　スリムキーボード搭載機種



1 キーボード
（→P.18）

2 取り外しボタン
スリムキーボードをパソコン本体から取り外す場合に押します。（→P.95）

3 本体接続コネクタ
パソコン本体を接続します。（→P.94）

4 状態表示LED

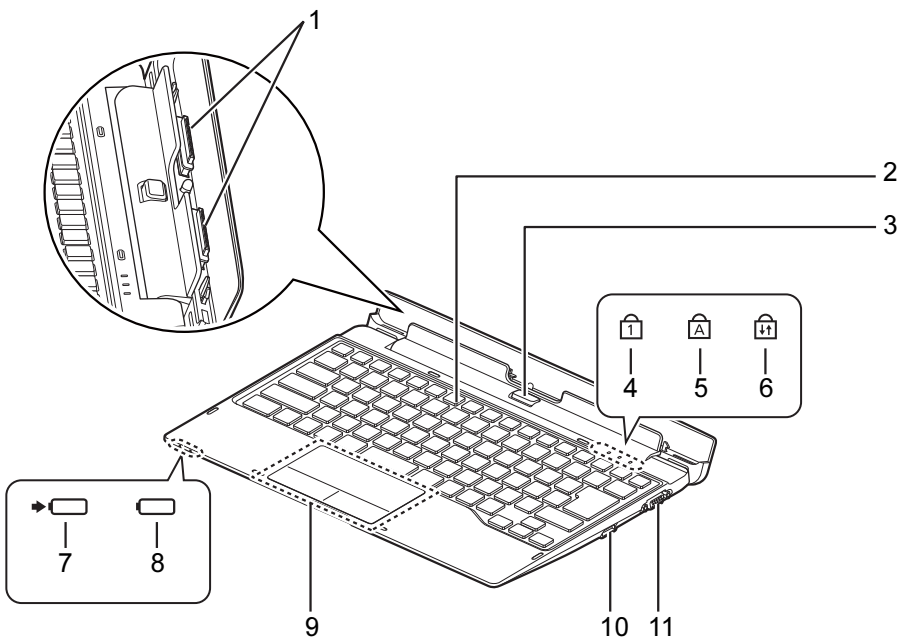
	Num Lockランプ キーボードがテンキーモード（→P.19）のときに点灯します。
	Caps Lockランプ アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。
	Scroll Lockランプ 【Fn】＋【Scr Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。 点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

5 フラットポイント
（→P.25）

1.8 キーボード・ドッキングステーション

対 象　キーボード・ドッキングステーション搭載機種

■ 上面



1 本体接続コネクタ
パソコン本体を接続します。（→P.89）

2 キーボード
（→P.18）

3 取り外しボタン
キーボード・ドッキングステーションをパソコン本体から取り外す場合に押します。
（→P.90）

4 Num Lockランプ
キーボードがテンキーモード（→P.19）のときに点灯します。

5 Caps Lockランプ
アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

6 Scroll Lockランプ
【Fn】＋【Scr Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。
点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

7 バッテリ充電ランプ
（→P.91）

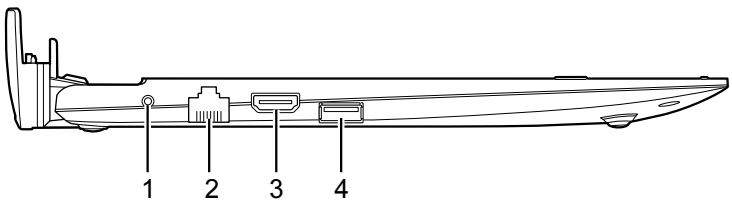
8 バッテリ残量ランプ
（→P.92）

9 フラットポイント
（→P.25）

10 USB3.0コネクタ
（→P.102）

11 アナログディスプレイコネクタ
（→P.101）
パソコン本体をキーボード・ドッキングステーションに接続した場合は、パソコン本体のmicroUSBコネクタは使用できません。キーボード・ドッキングステーションのUSBコネクタおよびディスプレイコネクタを使用してください。

■ 左側面



1 DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続します。

2 LANコネクタ
（→P.103）

3 デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）
（→P.101）
パソコン本体をキーボード・ドッキングステーションに接続した場合は、パソコン本体のmicroUSBコネクタは使用できません。キーボード・ドッキングステーションのUSBコネクタおよびディスプレイコネクタを使用してください。

4 USB3.0コネクタ
（→P.102）

2

第2章

取り扱い

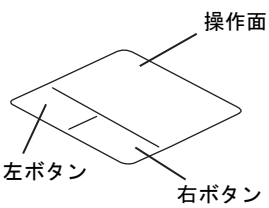
本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1 フラットポイント 25
2.2 マウス 28
2.3 タッチパネル 29
2.4 ディスプレイ 36
2.5 マルチディスプレイ機能 40
2.6 画面表示の回転 44
2.7 サウンド 47
2.8 省電力 51
2.9 バッテリ 59
2.10 通信 63
2.11 ステータスパネルスイッチ 70
2.12 ダイレクト・メモリースロット 73
2.13 タブレットボタン 75
2.14 暗号化機能付フラッシュメモリディスク 76
2.15 セキュリティチップ 77
2.16 Webカメラ 78
2.17 防水性能 79

2.1 フラットポイント

対 象　キーボード・ドッキングステーション／スリムキーボード使用時

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできるポインティングデバイスです。
ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。



POINT

- 左右のボタンは操作面と一体になっていますが、独立したボタンとして動作します。
- ボタンを押すときは、左右のボタンの中央部分を押してください。

2.1.1　注意事項

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントは、その動作原理上、指先の乾燥度などにより、動作に若干の個人差が発生する場合があります。

2.1.2 基本操作

左ボタン／右ボタンを押すと、マウスの左クリック／右クリックの動作をします。またフラットポイントの操作面を軽く、素早くたたく（タップする）とマウスの左クリックの動作をします。
操作面を指先でなぞると、画面上のマウスポインターが移動します。マウスポインターが操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から指を離し、適当な場所に降ろしてからもう一度なぞってください。

POINT

- **指の先が操作面に接触するように操作してください。指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。**

■ フラットポイントの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などの設定を変更できます。

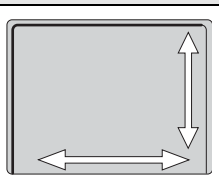
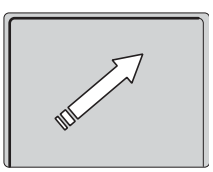
1 **コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。**
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

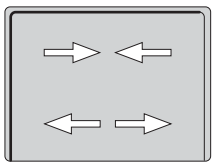
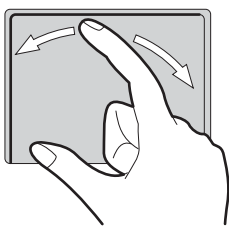
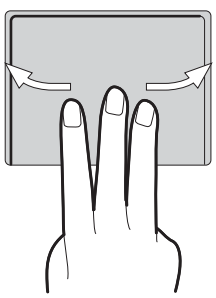
2 **それぞれのタブをタップし、設定を変更します。**

2.1.3 高度な操作

特定の操作をすることで、スクロールやズームといった機能を使用することができます。機能によっては、ご購入時は無効に設定されている場合があります。
設定方法については、「2.1.4 フラットポイントの設定を変更する」（→P.27）をご覧ください。

■ 主な機能

機能	フラットポイントの操作	
上下または左右のスクロール		1本の指で操作する場合、右端や下端をなぞると、ウィンドウの表示がスクロールします。 2本の指で操作する場合、操作面の任意の位置に2本の指を置き、上下や左右になぞるとウィンドウの表示がスクロールします。
モーメンタム		素早くなぞると、マウスポインターがなぞった方向にしばらく動きます。

機能	フラットポイントの操作	
つまみズーム		2本の指でつまんだり開いたりする操作をすると、ウィンドウの表示が縮小、拡大します。 ・つまむ：縮小 ・開く　：拡大
TwistRotate（ツイスト ローテイト）		2本の指を置き、回転すると、画像などの表示が回転します。
3本指で弾く		フラットポイントの操作面に3本の指を置き、素早くはらいます。 右にはらうと、次の画像を表示したり、「Internet Explorer」などの「進む」と同様の動きをしたりします。 左にはらうと、前の画像を表示したり、「Internet Explorer」などの「戻る」と同様の動きをしたりします。

2.1.4　フラットポイントの設定を変更する

1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

2 「Fujitsu Slim Keyboard with Touchpad」タブをタップします。

3 無効にしたい機能にチェックを付け、「OK」をタップします。

2.1.5　フラットポイントの有効／無効を切り替える

【Fn】＋【F4】キーを押すたびに、次のようにフラットポイントの設定が切り替わります。
無効 → 有効

2.2 マウス

対 象　マウス使用時

ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

2.2.1　注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2.2.2　マウスの基本設定を変更する

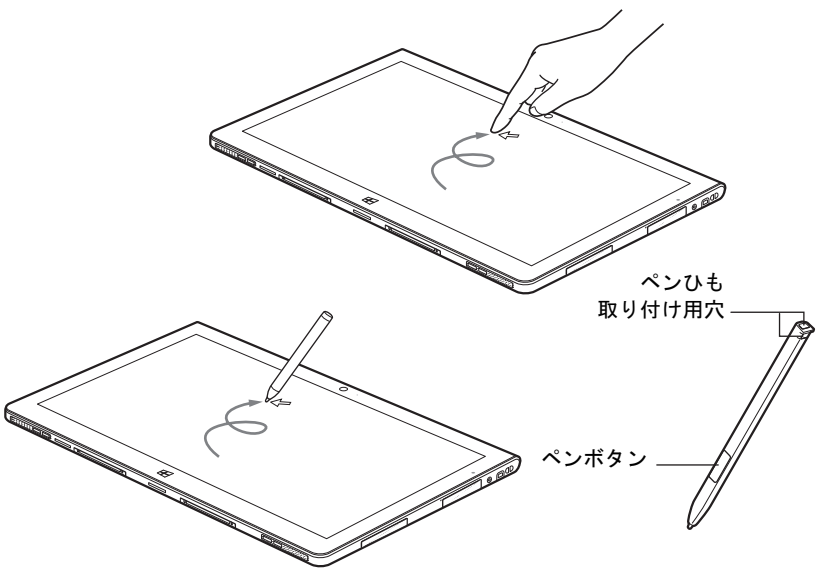
左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

1　**コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。**
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

2　**それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。**

2.3 タッチパネル

本パソコンのタッチパネルは、タッチ入力（静電容量方式）と専用ペンでの入力（電磁誘導方式）に対応しています。タッチ入力では指で画面をタッチするだけで、専用ペンでの入力はペンを画面に近づけるだけで、マウスポインターを操作することができます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。



POINT

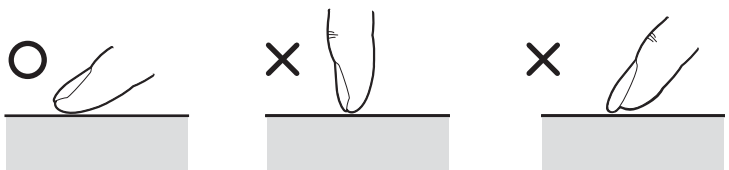
- 本パソコンのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチして操作することができます。
- ペンボタンを押しながらタップすると右クリック機能となります。

2.3.1　注意事項

- 液晶ディスプレイの表面は指紋が付きにくい加工が施されています。このため、液晶ディスプレイを下にして置くと、滑りやすくなりますので、ご注意ください。
- 液晶ディスプレイの表面をこすると帯電する場合がありますので、ご注意ください。
- 次のようなときに、画面にムラが発生する場合があります。
  ・表示面・天板面にかかわらず、液晶ディスプレイに強い圧力を加えたとき
  ・パソコン本体の側面や裏面を押したり、強い圧力を加えたりしたとき

■ 指による操作

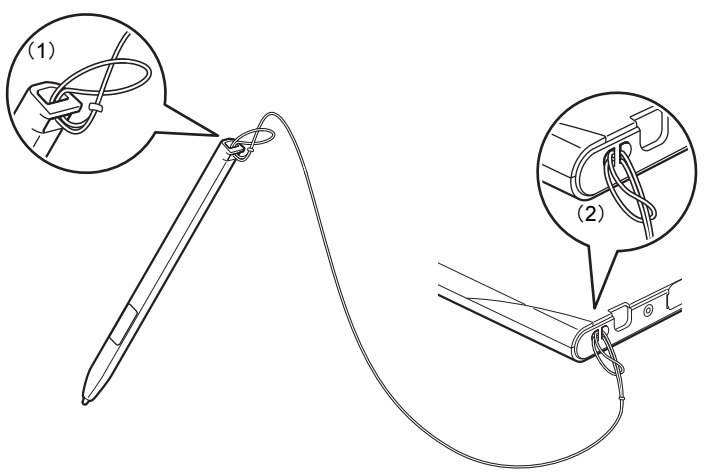
- 画面を強く押さないでください。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。



- 同時にペンで操作したり、ペンを手に持って操作したりしないでください。

■ ペンによる操作

- 力を入れて画面をなぞる必要はありません。画面に近づけて移動させるだけでマウスポインターを操作できます。
- 必ず添付のペンで操作してください。
- Windows 8.1で「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合、一時的にペンが使えなくなることがあります。ペンをいったん画面から放すと、その後は使えるようになります。
- ペンで画面を押すと、ペン先の周囲に影が発生する場合がありますが、故障ではありません。
- ペンの紛失を防ぐために、必ず添付のペンひもでペンとパソコン本体をつないでください。ペンひもは、必ず（1）ペン側（2）パソコン本体側の順に取り付けてください。



- ペンを破損したり紛失したりしたときは、本パソコンに対応しているペンをご購入ください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- ペンを使用しないときは、ペンホルダーに戻してください。

2.3.2　キャリブレーション

キャリブレーションとは、画面上で実際にタップした位置とパソコンが「タップされた」と認識する位置とを一致させるための作業です。入力位置がずれてきた場合にはキャリブレーションを行ってください。

POINT

- キャリブレーションを行うときに、調整ポイントが言語バーの下に隠れる場合があります。言語バーを最小化しておくことをお勧めします。

■ 指によるキャリブレーション

1. コントロールパネルの「タブレット PC設定（Tablet PC設定）」を開きます。
   「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC設定（Tablet PC設定）」
2. 「画面」タブの「調整」をタップします。
3. 「タッチ入力」をタップします。
4. 画面の「＋」マークの交点を正確に指でタップします。
   「＋」マークが次の調整ポイントに移動します。

   POINT

   - 指の皮膚の部分でタップしてください。つめや手袋をした指での操作はできません。
5. 同様に「＋」マークを順番にタップします。
6. 「はい」をタップします。

   POINT

   - キャリブレーションを行ってずれが生じてしまった場合は、次の手順でご購入時の設定に戻すことができます。
     1. コントロールパネルの「タブレット PC設定（Tablet PC設定）」を開きます。
        「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC設定（Tablet PC設定）」
     2. 「画面」タブで、「リセット」をタップします。
        ご購入時の設定に戻ります。

■ ペンによるキャリブレーション

1. コントロールパネルの「タブレット PC設定（Tablet PC設定）」を開きます。
   「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC設定（Tablet PC設定）」
2. 「画面」タブの「調整」をタップします。
3. 「ペン入力」をタップします。
4. 画面の「＋」マークの交点を正確にペンでタップします。
   「＋」マークが次の調整ポイントに移動します。

5 同様に「＋」マークを順番にタップします。

6 「OK」をタップします。

POINT

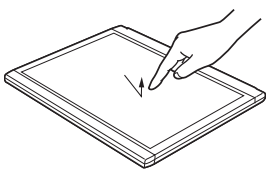
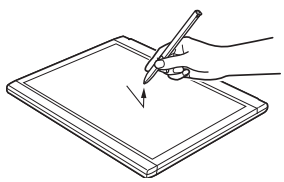
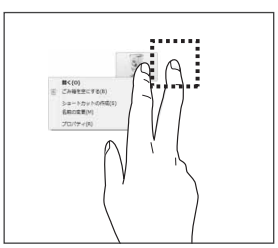
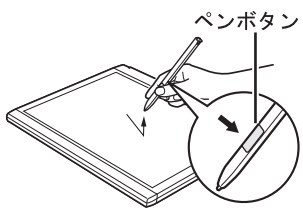
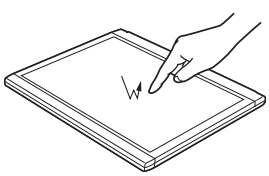
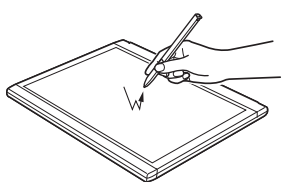
- 「タブレット PC設定（Tablet PC設定）」の「画面」タブにある「リセット」をタップしてもリセットはできません。

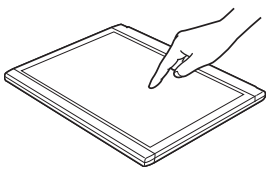
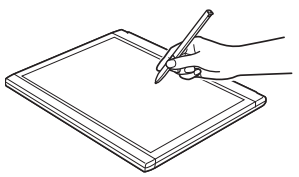
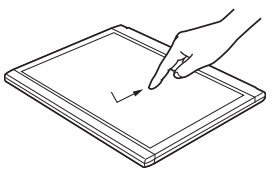
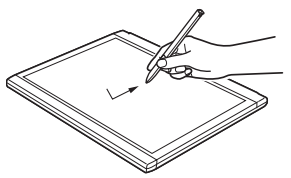
2.3.3　基本操作

画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）する場合は、指またはペン先で操作します。
マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

POINT

- Windows 7の場合、本パソコンに搭載されている「ゆったり設定mini」（→P.108）で、スクロールバーやタイトルバーなどを大きくすると指での操作がしやすくなります。
  ご購入時は指での操作に適した大きさに設定されています。次の操作で「ゆったり設定mini」を起動してください。
  1.「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ゆったり設定mini」→「ゆったり設定mini」の順にタップします。

機能	指の操作	ペンの操作
タップ	画面を1回軽くたたきます。 	画面を1回押して離します。 
右タップ	画面を押し、画面に枠が表示されてから指を離します。 ・Windows 7の場合 1本の指で画面を押しながら、もう1本の指で画面の別の場所を1回軽くたたいても、右タップになります。 	ペンボタン1を押しながら画面を押して離します。  画面を長押ししてから離しても、右タップになります。
ダブルタップ	画面を素早く2回連続して軽くたたきます。 	画面を素早く2回連続で押して離します。 

機能	指の操作	ペンの操作
ポイント	画面に軽く触れます。 	画面に近づけるか軽く触れます。 
ドラッグ	画面に軽く押しつけながらなぞります。 	画面に軽く押しつけながらなぞります。 

2.3.4 文字を入力する

キーボードを使わずに文字を入力するには、「タッチ キーボード（Tablet PC入力パネル）」を使用します。

■ 注意事項

- Windowsにサインイン（ログオン）していない状態では「タッチ キーボード（Tablet PC入力パネル）」は使用できません。

■「タッチ キーボード（Tablet PC入力パネル）」を使う

「タッチ キーボード（Tablet PC入力パネル）」では、手書きパッドおよびタッチ キーボードによる文字の入力ができます。

「タッチ キーボード（Tablet PC入力パネル）」を表示するには、Windows 8.1の場合は、テキスト入力領域をタップします。Windows 7の場合は、テキスト入力領域をタップして表示された「入力パネル」アイコンをタップするか、画面の左端に表示された「入力パネル」アイコンのタブをタップします。

詳しい使い方については、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。

- Windows 8.1の場合
  アプリ画面（→P.10）で「ヘルプとサポート」をタップしてWindowsのヘルプを表示し、「ヘルプを参照」→「はじめに」→「タッチキーボードを使用する方法」の順にタップします。
- Windows 7の場合
  「ツール」メニュー→「トピックの検索」の順にタップします。

POINT

- Windows 8.1で「タッチ キーボード」が表示されない場合は、次の操作を行ってください。
  1. デスクトップ画面のタスクバーを右タップし、「ツール バー」→「タッチ キーボード」の順にタップします。
     タスクバーに「キーボード」のアイコンが表示されます。
  2. 「キーボード」のアイコンをタップします。
     画面に「タッチ キーボード」が表示されます。

2.3.5　タッチパネルの補助機能を使う

対 象　Windows 7

■ Finger Zoom

画面上のアイコンが小さくタップしづらい場合などに、「Finger Zoom」を使うと、画面の一部を拡大することができます。
「Finger Zoom」には、2つの使い方があります。

- 拡大して一度だけ操作したい場合
  1. タスクバーにある「Finger Zoom」アイコンをタップします
  2. 拡大したい場所をタップします。
  3. もう一度タップすると「Finger Zoom」を終了します。
- 拡大したまま続けて操作したい場合
  1. タスクバーにある「Finger Zoom」アイコンをタップします
  2. 拡大したい領域をドラッグして選択します。
  3. 「終了」をタップすると、「Finger Zoom」を終了します。

POINT

- **タスクバーに「Finger Zoom」アイコンが表示されていない場合は、次の操作で表示させることができます。**
  1. **「スタートボタン」→「すべてのプログラム」→「Finger Zoom」→「タスクバーにピン留めする」の順にタップします。**

■ OnScreen Touchpad

本パソコンに搭載されている「OnScreen Touchpad」は、タッチパネルの一部をマウスやテンキーのように使ったり、あらかじめ登録しておいたソフトウェアやフォルダーをタップするだけで開いたりできるソフトウェアです。
「OnScreen Touchpad」を起動するには、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「OnScreen Touchpad」→「OnScreenTouchpad」の順にタップします。

「OnScreen Touchpad」の詳しい使い方は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「OnScreen Touchpad」→「使い方」の順にタップして表示されるマニュアルをご覧ください。

2.3.6　タッチパネルの設定を変更する

ペンやペンボタンの機能は、「ペンタブレットのプロパティ」で設定します。

1 **コントロールパネルの「ペンタブレットのプロパティ」を開きます。**
「ハードウェアとサウンド」→「ペンタブレットのプロパティ」

2 **「ペン」タブをタップし、設定を変更します。**

2.4 ディスプレイ

ここでは、本パソコンの液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。
複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.40）をご覧ください。

2.4.1 注意事項

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.4.2 キーボードで明るさを変更する

対 象　キーボード・ドッキングステーション／スリムキーボード使用時

本パソコンの液晶ディスプレイの明るさはキーボード操作で変更できます。

明るくする	【Fn】＋【F7】キーを押す
暗くする	【Fn】＋【F6】キーを押す

明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「2.4.4 「電源オプション」で明るさを変更する」（→P.37）をご覧ください。

2.4.3 「Windowsモビリティセンター」で明るさを変更する

本パソコンの液晶ディスプレイの明るさは、「Windowsモビリティセンター」（→P.11）で変更できます。
明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「2.4.4 「電源オプション」で明るさを変更する」（→P.37）をご覧ください。

2.4.4　「電源オプション」で明るさを変更する

現在選択されていない電源プランや、現在と異なる電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）の明るさの設定は、「電源オプション」で変更できます。

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。

3 明るさを変更し、「変更の保存」をタップします。

2.4.5　解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、発色数、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

1 次の操作を行います。
●Windows 8.1の場合
1. スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
2. デスクトップ画面で右タップし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

●Windows 7の場合
1. デスクトップ画面で右タップし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。

2 「ディスプレイ」アイコンをタップします。

3 「解像度」、「リフレッシュレート」を設定します。
設定可能な値は、「8.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.177）をご覧ください。

4 ウィンドウ上部の「色」をタップします。

5 「色深度」（発色数）を設定します。
設定可能な値は、「8.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.177）をご覧ください。

6 「適用」をタップします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4.6　拡大表示設定を変更する

ご購入時の解像度より小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

1 次の操作を行います。

●Windows 8.1の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
2. デスクトップ画面で右タップし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

●Windows 7の場合

1. デスクトップ画面で右タップし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。

2 「ディスプレイ」アイコンをタップします。

3 「スケーリング」を設定します。

・画像を中央揃えにする
画面は拡大されずに中央に表示されます。

・全画面のスケールにする
画面がディスプレイ全体に拡大されます。

・縦横比を保持する
画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。

・ディスプレイ・スケーリングを保持する
ディスプレイの拡大表示機能を使用します。

POINT

- ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。

4 「適用」をタップします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4.7 ディスプレイ省電テクノロジー

「ディスプレイ省電テクノロジー」は、見た目の画質を維持したままバックライトの省電力を行い、バッテリ駆動時間を延ばす機能です。

■ 注意事項

- バッテリ駆動時のみ動作します。
  ご購入時は次のように設定されています。
  ・ディスプレイ省電テクノロジー :「オン」
  ・レベル :「最長バッテリー駆動時間」
- ディスプレイ省電テクノロジーが動作しているときは、次のように表示される場合がありますが、故障ではありません。
  ・表示している画像を切り替えたときに画面の明るさや色調が徐々に変更される。
  ・画像のグラデーション部分に段差が見える。

■ ディスプレイ省電テクノロジーを設定する

1 **次の操作を行います。**

●Windows 8.1の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
2. デスクトップ画面で右タップし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

●Windows 7の場合

1. デスクトップ画面で右タップし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。

2 **「電源」をタップします。**

3 **「バッテリー駆動」をタップします。**

4 **「ディスプレイ省電テクノロジー」を設定します。**

・動作させる場合は、「オン」をタップし、動作レベルのバーを設定します。
バーを左に設定するほど画質が優先され、バーを右に設定するほどバッテリ駆動時間が優先される設定になります。
・動作させない場合は、「オフ」をタップするか、「最高画質」に設定します。

5 **「適用」をタップします。**

「適用」をタップすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
この場合は、画面の指示に従って操作してください。

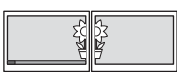
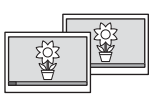
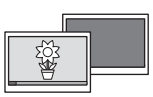
6 **画面右上の「閉じる」ボタンをタップして、画面を閉じます。**

2.5 マルチディスプレイ機能

本パソコンに外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。
ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.7.2 ディスプレイコネクタ」（→P.101）をご覧ください。

2.5.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windows 8.1の場合は、Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。ただし、通知領域のアイコンと、日時の表示はプライマリディスプレイにのみ表示されます。 Windows 7の場合は、Windowsのタスクバーは1つのディスプレイにのみ表示され、このディスプレイをプライマリディスプレイと呼び、もう1つのディスプレイをセカンダリディスプレイと呼びます。 それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

画面表示の設定を「Fujitsu Display Manager」のプロファイルに保存したり、呼び出したりするには、「2.5.4 表示方法を切り替える」（→P.42）をご覧ください。

2.5.2　注意事項

- お使いのディスプレイと本パソコンの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するソフトウェアは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。Windowsが起動するまでの間は、BIOSセットアップの設定が有効になります。起動設定は、『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- ディスプレイに表示されるまで、しばらく時間がかかることがあります。

2.5.3　マルチディスプレイ機能を設定する

1 **次の操作を行います。**

●Windows 8.1の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をタップします。
2. デスクトップ画面で右タップし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

●Windows 7の場合

1. デスクトップ画面で右タップし、「グラフィックス・プロパティー」をタップします。

「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。

2 **「ディスプレイ」アイコンをタップします。**

3 **ウィンドウ左上の「ディスプレイ」をタップし、「マルチ・ディスプレイ」をタップします。**

4 **「ディスプレイ・モードの選択」を設定します。**

・シングル表示にする場合、「シングル」を選択します。
・クローン表示にする場合、「クローン」を選択します。
・拡張デスクトップにする場合、「拡張」を選択します。必要に応じて、表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。「1」と表示されているのがプライマリディスプレイです。

5 **「適用」をタップします。**

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- **画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。**

6 必要に応じて「解像度」、「リフレッシュレート」、「色」を設定します。

1. ウィンドウ左上の「ディスプレイ」をタップし、「ディスプレイの設定」をタップします。
2. 「ディスプレイの選択」から設定を変更するディスプレイを選択します。
3. 「解像度」、「リフレッシュレート」、「色」の設定方法は「2.4.5 解像度を変更する」（→P.37）をご覧ください。

設定可能な値は、「8.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.177）をご覧ください。

2.5.4　表示方法を切り替える

「Fujitsu Display Manager」に画面表示の設定をプロファイルとして登録しておくと、必要なときに登録した画面表示の設定を呼び出すことができます。
「Fujitsu Display Manager」の詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。

- Windows 8.1の場合
  1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「Fujitsu Display Manager」の「ヘルプ」をタップします。
- Windows 7の場合
  1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「ヘルプ」の順にタップします。

POINT

- スリムキーボードをお使いの場合、【⊞】＋【P】キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示することもできます。

■ 画面表示の設定を登録する

画面表示の設定を「Fujitsu Display Manager」に登録するには、次の操作を行います。

重要

- 「Fujitsu Display Manager」では、3画面でのマルチディスプレイ設定は登録できません。

1 あらかじめ登録したい画面表示にしておきます。

2 次の操作を行います。

●Windows 8.1の場合
1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「Fujitsu Display Manager」の「Fujitsu Display Manager」をタップします。

●Windows 7の場合
1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「Fujitsu Display Manager」の順にタップします。

3 「現在の画面表示設定をプロファイルに追加」をタップします。

4 プロファイル名を入力し、「OK」をタップします。
プロファイルが登録されます。

■ 登録した画面表示の設定を呼び出す

「Fujitsu Display Manager」に登録した画面表示の設定は、次の手順で呼び出します。

1 次の操作を行います。

●Windows 8.1の場合

1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「Fujitsu Display Manager」の「Fujitsu Display Manager」をタップします。

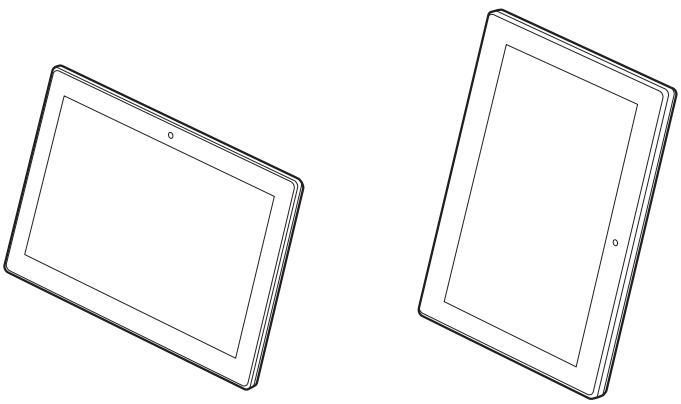
●Windows 7の場合

1.「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「Fujitsu Display Manager」の順にタップします。

2 呼び出すプロファイルを選択し、「OK」をタップします。

2.6 画面表示の回転

本パソコンは横向きでも縦向きでも操作できます。画面表示の向きは手動で変更したり（→P.44）、パソコン本体の向きを変えたときに自動的に変更するように設定できます（→P.45）。



2.6.1 注意事項

- 画面表示の向きの設定は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。

2.6.2 手動で画面表示の向きを変える

パソコン本体の向きにかかわらず手動で画面表示の向きを変更できます。

■ ホットキーで画面表示の向きを変更する

対 象　キーボード・ドッキングステーション／スリムキーボード使用時

ご購入時の設定では、カーソルキーの向きが画面表示の上の向きになります。

ホットキー	【Ctrl】＋【Alt】＋【↑】	【Ctrl】＋【Alt】＋【←】	【Ctrl】＋【Alt】＋【↓】	【Ctrl】＋【Alt】＋【→】
画面表示の向き	0°	90°	180°	270°

□ ホットキーの設定を変更する

ホットキーの設定を変更するには、次の操作を行います。

1 次の操作を行います。

●Windows 8.1の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をタップします。

2. デスクトップ画面で右タップし、「グラフィックス・オプション」→「ホットキー」の順にタップします。

●Windows 7の場合

1. デスクトップ画面で右タップし、「グラフィックス・オプション」→「ホットキー」の順にタップします。

2 「有効化」または「無効化」を選択します。

2.6.3　状態が変わったときの動作を設定する

次のようなときに自動的に本パソコンの画面表示の設定が変更されるようにできます。

- パソコン本体を傾けたとき（→P.46）
- パソコン本体をキーボード・ドッキングステーション、スリムキーボードまたはクレードルに取り付けたとき（→P.45）
- パソコン本体をキーボード・ドッキングステーション、スリムキーボードまたはクレードルから取り外したとき（→P.45）

■ ステータスパネルスイッチで設定を変更する

1 ショートカットボタンを押します。

「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

2 「ローテーションロック」ボタンをタップします。

Windows 8.1の場合は、ボタンを押すたびに、デスクトップ画面左上部に「自動回転オフ」「自動回転オン」と表示され、パソコン本体を傾けたときの画面の自動回転のオン／オフが切り替わります。

Windows 7の場合は、ボタンを押すたびに、「Auto Rotation Utility」（→P.46）の有効／無効が切り替わります。

POINT

- キーボード・ドッキングステーション、スリムキーボードまたはクレードルを接続している場合、自動回転はオフになり、オン／オフは切り替えられません。

■「Fujitsu Display Manager」の設定を変更する

本パソコンをキーボード・ドッキングステーション、スリムキーボードまたはクレードルに取り付け／取り外したときに、自動的に画面表示の設定が変更されるようにするには「Fujitsu Display Manager」を使用します。

POINT

- 「Fujitsu Display Manager」の詳しい使い方は、使いたい機能のタブで「ヘルプ」をタップして表示されるヘルプをご覧ください。

1 本パソコンを登録する状態にします。

・本パソコンをキーボード・ドッキングステーション、スリムキーボードまたはクレードルに取り付けるか取り外します。
「3.2 クレードル」（→P.86）
「3.3 キーボード・ドッキングステーション」（→P.88）
「3.4 スリムキーボード」（→P.93）

2 画面表示を登録する状態に設定します。

・「2.4 ディスプレイ」（→P.36）または「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.40）

3 コントロールパネルの「富士通タブレットコントロール」を開きます。

「ハードウェアとサウンド」→「富士通タブレットコントロール」

4 「ディスプレー表示」タブをタップします。

「Fujitsu Display Manager」ウィンドウの「ドック／アンドック」タブが表示されます。

5 「現在のディスプレイプロファイルを保存」をタップし、メッセージが表示されたら「OK」をタップします。

6 「OK」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。

■「Auto Rotation Utility」の設定を変更する（Widows 7の場合）

パソコン本体を傾けたときに、傾けた向きに応じて自動的に画面表示の向きが変更されるようにするには「Auto Rotation Utility」を使用します。
ご購入時の設定では「Auto Rotation Utility」は無効（一時停止）に設定されています。
「Auto Rotation Utility」の有効と無効の切り替えは、「■ ステータスパネルスイッチで設定を変更する」（→P.45）をご覧ください。

POINT

- デスクトップ画面右下の通知領域にある「Auto Rotation Utility」アイコンを右タップし、動作を選択することによっても切り替えることができます。
- 「Auto Rotation Utility」の詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
  1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Auto Rotation Utility」→「ヘルプ」の順にタップします。

□ 自動一時停止機能について

自動一時停止機能とは、手動で画面表示の向きを変えたときに「Auto Rotation Utility」の機能を一時停止（自動一時停止状態）にする機能です。これにより、「Auto Rotation Utility」を使用中でも一時的に画面表示の向きを固定できます。
自動一時停止状態は、現在の画面表示の向きとパソコン本体の傾きが一致すると自動的に解除されます。

2.7 サウンド

ここでは、音量の調節方法やオーディオ端子の機能の切り替え方法などについて説明しています。
オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.7.4 オーディオ端子」（→P.103）をご覧ください。

2.7.1 全体の再生音量を調節する

パソコン本体のスピーカーや、本パソコンに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

■ パソコン本体

□ ボリュームダウン／ボリュームアップボタンの場合

1. ボリュームダウンボタン、またはボリュームアップボタンを押します。
   音量の状態は、デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン で確認できます。

□ 通知領域アイコンの場合

1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン をタップします。
2. 音量を調節します。

■ キーボード

対 象　キーボード・ドッキングステーション／スリムキーボード使用時

上げる	【Fn】＋【F9】キーを押す
下げる	【Fn】＋【F8】キーを押す
ミュートする ミュートを解除する	【Fn】＋【F3】キーを押す

Windows 8.1の場合は、画面左上部に音量を示すインジケーターが表示されます。
Windows 7の場合は、「IndicatorUtility」（→P.108）がインストールされていると音量を示すインジケーターがしばらく表示されます。

2.7.2　ソフトウェアごとの再生音量を調節する

ソフトウェアごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

1. 音量を調節するソフトウェアを起動します。
2. デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン を右タップし、「音量ミキサーを開く」をタップします。
3. 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量を調節します。

2.7.3　機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。
調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」（→P.49）、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」（→P.49）をご覧ください。

1. 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
「3.7.4 オーディオ端子」（→P.103）
2. デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン を右タップし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をタップします。
3. 音量を調節したい機器を右タップし、「プロパティ」をタップします。
4. 「レベル」タブをタップします。
5. 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をタップします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
スピーカー	Realtek HD Audio output	パソコン本体のスピーカーや本パソコンに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
	マイク	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の再生音量（マイク入力設定時）
	ライン入力	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の再生音量（ライン入力設定時）
	Line Out	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から出力される音の再生音量（ライン出力設定時）
［ディスプレイ名］注1	インテル(R) ディスプレイ用 オーディオ HDMI 1	デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）に接続されたディスプレイから出力される音の再生音量

注1　：「[ディスプレイ名]」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
マイク	マイク	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の録音音量（マイク入力設定時）
	マイクブースト	マイクブーストのレベル
ライン入力	ライン入力	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の録音音量（ライン入力設定時）

2.7.4　オーディオ端子の機能を切り替える

オーディオ端子（マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子）の機能は、次の手順で切り替えます。

1. オーディオ端子に機器を接続します（→P.103）。
2. デスクトップ画面右下の通知領域にある「Realtek HDオーディオマネージャ」アイコンをダブルタップします。
   「Realtek HDオーディオマネージャ」ウィンドウが表示されます。
3. ウィンドウ右にあるオーディオ端子のアイコンをダブルタップします。
   機能を選択するウィンドウが表示されます。
4. 機能を選択し、「OK」をタップします。

2.7.5　既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数利用可能な場合、既定の機器を選択できます。

1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコンを右タップし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をタップします。
   「サウンド」ウィンドウが表示されます。
2. 既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をタップします。
3. 「OK」をタップします。

2.7.6　スピーカーの音圧を調節する

パソコンに内蔵されているスピーカーの音圧を、より詳細に調節することで迫力のある豊かな音を実現します。

重要

- DTS Boost™ の音圧レベルの調節は、内蔵スピーカーのみ対象となります。
  マイク・ラインイン・ヘッドフォン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子およびHDMI端子に接続した機器の音圧レベルの調節はできません。

1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「Realtek HDオーディオマネージャ」アイコンをダブルタップします。
   「Realtek HDオーディオマネージャ」ウィンドウが表示されます。
2. 「DTS Boost」タブをタップし、「有効にする」にチェックを付けます。
3. 「Loudness Levelling」にチェックを付け、つまみを左右にドラッグします。
   適切なレベルに調整できます。

2.8 省電力

ここでは、パソコンを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

2.8.1 省電力状態

Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。スリープ状態と休止状態があります。
スリープ状態ではメモリにWindowsの状態を保存するため、電力を少しずつ消費しますが、素早くレジュームできます。休止状態ではハードディスクにWindowsの状態を保存するため、電源が切れてもWindowsの状態を保存できます。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
  その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。

■ 省電力状態にする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す[注1]	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.56）
メニューから選択する	次の操作で選択したメニューの動作になります。 ・Windows 8.1の場合 1.「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。 2.「電源」をタップし、メニューを選択します。 ・Windows 7の場合 「スタート」メニューから選択します。
一定時間操作しない	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.56）
バッテリ残量が少なくなる	休止状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.56）

注1：電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本パソコンの電源が切れてしまいます。

■ 省電力状態からレジュームする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す	レジュームします。
USBキーボードやUSBマウスを操作する[注1]	無効に設定されています。 「■ USBデバイスによるレジュームの設定を変更する」（→P.53）
Wakeup on LAN（WoL）機能[注2]	無効に設定されています。 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.53）

注1：休止状態からはレジュームしません。
注2：クレードルに接続している場合に利用できます。

■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する

対 象　クレードル使用時

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本パソコンを起動・レジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からレジュームする機能があります。ここでは、省電力状態からレジュームするための設定について説明します。電源オフ状態から起動する機能については、「5.3.5 Wakeup on LANを有効にする」（→P.128）をご覧ください。

1. 管理者アカウントでサインイン（ログオン）します。
2. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
   「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
3. 「ネットワークアダプター」をダブルタップします。
4. 次のデバイスをダブルタップします。
   Intel(R) Ethernet Connection I218-LMまたは、Intel(R) Ethernet Connection I218-V
5. 「電源の管理」タブをタップします。
6. WoL機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。
   ・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
   ・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする

   POINT

   - マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にもチェックを付けます。
7. 「OK」をタップします。

■ USBデバイスによるレジュームの設定を変更する

USBキーボードやUSBマウスを操作してスリープ状態からレジュームする設定は、次の手順で変更します。

1. 「Windowsモビリティセンター」（→P.11）を起動します。
2. 「スリープ状態からの復帰」に表示されている現在の設定を確認し、必要に応じて「切り替える」をタップします。

2.8.2　電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

■ Windows 8.1の電源の切り方

次のいずれかの方法で、パソコン本体の電源を切ります。

□Windowsを終了する

1. 「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。
2. 「電源」をタップします。
3. 「シャットダウン」をタップします。

□完全に電源を切る

重要

- 次のような場合は、ここで説明している手順でパソコンの電源を切ってください。
  - ・トラブル解決ナビを起動する
  - ・BIOS セットアップを起動する
  - ・診断プログラムを使用する

1. 「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。
2. 「PC設定の変更」をタップします。
3. 画面左側のメニューで「保守と管理」をタップします。
4. 画面左側のメニューで「回復」をタップします。
5. 画面右側のメニューで「今すぐ再起動する」をタップします。
6. 「PCの電源を切る」をタップします。

■ Windows 7の電源の切り方

次の方法で、Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切ります。

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にタップします。

しばらくするとWindowsが終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます。

POINT

- 「スタート」ボタン→ シャットダウン の ▶ →「再起動」の順にタップすると、パソコン本体を再起動できます。

2.8.3　本パソコンの節電機能

本パソコンには、さまざまな節電機能が搭載されています。これらの機能と有効となるパソコンの状態との関係は次のとおりです。

	パソコンの状態		
	電源オン	スリープ状態	休止状態／電源オフ
省電力設定（→P.56）	パソコンの消費電力低減	―	―
ピークシフト（→P.57）	バッテリ運用（ピークタイムのみ）	―	―
ステータスパネルスイッチ（→P.70）	パソコンの消費電力低減	―	―
ECO Sleep（→P.58）	―	―	ACアダプタからの電力供給停止
ディスプレイの電源を切る（→P.58）	ディスプレイの消費電力低減	―	―

POINT

- パソコン節電設定
  パソコンの節電関連のユーティリティを、まとめてメニューから呼び出し設定することができます。設定できるユーティリティは次のとおりです。
  ・ピークシフト設定
  ・ステータスパネルスイッチ
  ・バッテリーユーティリティ ECO Sleep
  ・バッテリーユーティリティ 満充電量の設定
- パソコン節電設定の起動方法は次のとおりです。
  ・Windows 8.1の場合
  1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「FUJITSU - パソコン節電設定」の「設定」をタップします。

  ・Windows 7の場合
  1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FUJITSU - パソコン節電設定」→「設定」の順にタップします。

2.8.4　省電力設定

ご利用の状況にあわせて電源プランを切り替えることで、消費電力を節約することができます。

■ 電源プランを切り替える

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

2 お使いになる電源プランをタップします。

POINT

- 電源プランを作成するには、ウィンドウ左の「電源プランの作成」をタップし、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。

3 「詳細な電源設定の変更」をタップします。

4 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

5 「OK」をタップします。

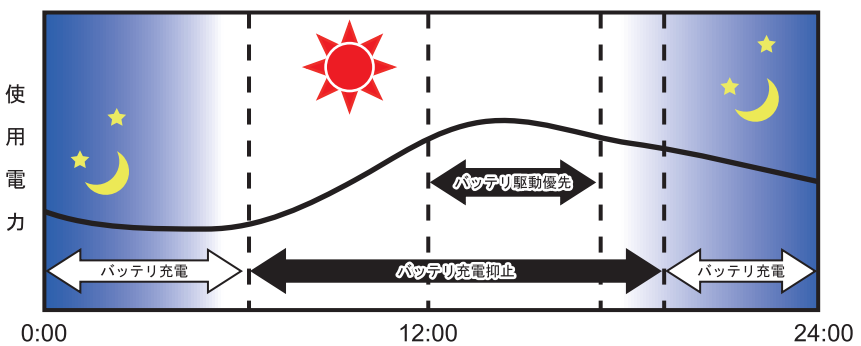
POINT

- 「Windowsモビリティセンター」（→P.11）で切り替えることもできます。

2.8.5　ピークシフト

設定した時間にあわせてACアダプタ運用とバッテリ運用を切り替えられる機能です。1日のうち電力需要のピークタイムをはさんでパソコンを連続してお使いになる場合に有効です。

● 使用例



重要

- バッテリは消耗品であり、充放電を繰り返すたびに少しずつ性能が劣化します。ピークシフトを利用するとバッテリの充放電回数が増えるため、性能劣化が早まる場合があります。なお、バッテリが劣化している場合には、バッテリ駆動時間が短くなり、充分な効果を得られないことがあります。
- キーボード・ドッキングステーションは、ピークシフトに対応していません。

■ ピークシフトを設定する

ピークシフトが動作する期間と、バッテリ駆動優先の時間帯、バッテリ充電抑止の時間帯を設定できます。一度設定を行うと、パソコンが起動するたびに、自動的に有効になります。

1 次の操作を行います。

●Windows 8.1の場合

1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「FUJITSU - ピークシフト設定」の「設定」をタップします。

●Windows 7の場合

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ピークシフト設定」→「設定」の順にタップします。

2 必要に応じて、設定を変更します。

POINT

- 「ピークシフト設定」では、2つの期間を設定することができます。
  例えば、設定1に夏季、設定2に冬季の設定を行うなどのように使用します。
- ピークシフトの詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
  - ・Windows 8.1の場合
    1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「FUJITSU - ピークシフト設定」の「ソフトウェア説明書」をタップします。
  - ・Windows 7の場合
    1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ピークシフト設定」→「ソフトウェア説明書」の順にタップします。

2.8.6　ECO Sleep

電源オフ状態や休止状態でバッテリの充電が完了している場合に、ACアダプタからの電力供給を止めることにより消費電力を抑える機能です。

■ ECO Sleepを有効にする

1 次の操作を行います。

●Windows 8.1の場合

1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」の「ECO Sleep」をタップします。

●Windows 7の場合

1.「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリーユーティリティ」→「ECO Sleep」の順にタップします。

2 「変更」をタップします。

3 ECO Sleepを有効にする場合は「低待機モード」を、ECO Sleepを無効にする場合は「通常モード」をタップし、「OK」をタップします。

2.8.7　「ディスプレイの電源を切る」

ディスプレイの電源を切り、消費電力を抑える機能です。マウスやキーボードを操作することで、すぐに元の画面に復帰できます。

■ 注意事項

- 映像を取り扱うソフトウェアを使用中は、「ディスプレイの電源を切る」を使用しないでください。
- Windowsの電源オプションと関係なく動作します。

■ デスクトップアイコンからディスプレイの電源を切る

1 デスクトップ画面にある「ディスプレイの電源を切る」アイコン をダブルタップします。

■ メニューからディスプレイの電源を切る

□Windows 8.1の場合

1 アプリ画面（→P.10）を表示し、「FUJITSU - ディスプレイの電源を切る」の「ディスプレイの電源を切る」をタップします。

□Windows 7の場合

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ディスプレイの電源を切る」→「ディスプレイの電源を切る」の順にタップします。

2.9 バッテリ

ここでは、バッテリを使用して本パソコンを使用する方法や注意事項について説明しています。
バッテリの充電時間や駆動時間など、バッテリの仕様については「8.1 本体仕様」（→P.169）をご覧ください。

2.9.1 注意事項

■ バッテリで運用するとき

- 本パソコンの使用中にバッテリの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリの残量に注意してお使いください。バッテリの残量を確認するには、「2.9.3 バッテリの残量を確認する」（→P.60）をご覧ください。
- 本パソコンの機能を多用したり負荷の大きいソフトウェアを使用したりすると、多くの電力を消費するためバッテリの駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
- 本パソコンを省電力モードにすることにより、バッテリ駆動時間を長くすることができます。詳しくは、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.70）をご覧ください。
- バッテリは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリ駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力が低下します。

■ 寿命について

- バッテリは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下し、バッテリ駆動時間が短くなります。バッテリの駆動時間が極端に短くなったり、満充電にならなくなったりしたらバッテリの寿命です。バッテリを取り外せる機種をお使いの場合は、新しいバッテリと交換するか、寿命になったバッテリを取り外してください。バッテリを取り外せない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは劣化します。
- 「バッテリーユーティリティ」でバッテリの満充電量を抑えることにより、バッテリの寿命を延ばすことができます。詳しくは、「2.9.4 バッテリの充電モードを変更する」（→P.61）をご覧ください。

2.9.2 バッテリを充電する

1 パソコン本体にACアダプタを接続します。

充電が始まります。バッテリの充電状態は、バッテリ充電ランプ（→P.16）で確認できます。

バッテリ充電ランプ	バッテリの充電状態
赤色	充電中
消灯	・充電完了[注] ・ACアダプタが接続されていない

注：ECO Sleep（→P.58）が動作中の場合、電源オフ状態や休止状態では点灯しません。

POINT

- バッテリを保護するため、次の場合は充電は始まりません。
  ・充電モードが「フル充電モード」で、バッテリの残量が90%以上の場合
  ・充電モードが「80%充電モード」で、バッテリの残量が70%以上の場合
  バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

2.9.3 バッテリの残量を確認する

バッテリの残量は、デスクトップ画面右下の通知領域にある「電源」アイコンで確認できます。

なお、表示されるバッテリの残量は、バッテリの特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により実際のバッテリの残量とは異なる場合があります。

POINT

- より詳しいバッテリの状態は「バッテリーユーティリティ」で確認できます。詳しくは、「2.9.5 バッテリの状態を確認する」（→P.62）をご覧ください。

■「バッテリが不足しています」というメッセージが表示されたら

バッテリの残量はわずかになっています。すみやかに次のいずれかの対処を行ってください。

- ACアダプタを接続する
- 本パソコンを休止状態にする
  「■ 省電力状態にする」（→P.52）
- 作業を終了して本パソコンの電源を切る
  「2.8.2 電源を切る」（→P.54）

ご購入時は、バッテリの残量が約10%になると自動的に休止状態になるように設定されています。設定を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.56）をご覧ください。

2.9.4　バッテリの充電モードを変更する

バッテリの充電モードを「80%充電モード」に変更しバッテリの満充電量を抑えることにより、バッテリの寿命を延ばすことができます。

重要

- 「80%充電モード」に設定すると、バッテリ駆動時間は「フル充電モード」よりも短くなります。

1 次の操作を行います。

●Windows 8.1の場合

1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」の「バッテリーの設定」をタップします。

●Windows 7の場合

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリーユーティリティ」→「バッテリーの設定」の順にタップします。

2 「変更」をタップします。

3 「フル充電モード（100%充電）」または「80%充電モード」を選択し、「OK」をタップします。

4 「OK」をタップします。

POINT

- Windows 7で「80%充電モード」を選択した場合、「充電完了時にメッセージを表示する」にチェックを付けると、充電完了時に充電完了のメッセージが表示されます。

2.9.5　バッテリの状態を確認する

バッテリの情報の確認は、「バッテリーユーティリティ」で行うことができます。

■ バッテリの情報を確認する

1 次の操作を行います。

●Windows 8.1の場合

1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」の「バッテリーの情報」をタップします。

●Windows 7の場合

1.「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリーユーティリティ」→「バッテリーの情報」の順にタップします。

「サイクル数」、「残量」、「消耗状態」などを確認できます。

2.10 通信

ここでは本パソコンの通信機能について説明しています。
ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「8.1 本体仕様」（→P.169）をご覧ください。

POINT

- 本パソコンには、ネットワーク環境を簡単に切り替えられるユーティリティ「Plugfree NETWORK」が添付されています。「Plugfree NETWORK」の詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
  - ・Windows 8.1の場合
    1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「Plugfree NETWORK」の「使用場所管理の使い方」をタップします。
  - ・Windows 7の場合
    1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Plugfree NETWORK」→「ヘルプ」→「使用場所管理の使い方」の順にタップします。

2.10.1 有線LAN

対 象　キーボード・ドッキングステーション／クレードル使用時

重要

- 有線LANでネットワークに接続する場合は、パソコン本体とキーボード・ドッキングステーション／クレードルを接続してください。

LANケーブルを接続する方法については、「3.7.5 LANコネクタ」（→P.103）をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

2.10.2 無線LAN

無線LANについては、『内蔵無線LANをお使いになる方へ』をご覧ください。
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。
本パソコンは、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合し、技適マーク㊣を画面に表示することができます。
表示の操作方法は、「付録3 認定および準拠について」（→P.187）をご覧ください。

2.10.3　無線WAN

対　象　無線WANモデル

ドコモminiUIMカードを取り付けることにより、高速パケット通信が可能になります。
ドコモminiUIMカードを取り付ける方法については、「3.5　ドコモminiUIMカード」（→P.96）をご覧ください。
無線WANについては、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

2.10.4　Bluetoothワイヤレステクノロジー

対　象　Bluetoothワイヤレステクノロジー搭載機種

Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

■ Bluetoothワイヤレステクノロジーの特徴

本パソコンに搭載されているBluetoothワイヤレステクノロジーの主な特徴は、次のとおりです。

- 出力 Class2、Bluetooth v4.0+ HS に準拠しています。Bluetooth v4.0 + HSおよびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。
- 最大通信速度は 24Mbps（Bluetooth v4.0 + HSの理論上の最大値）です。ただし、実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

POINT

- Windows 7でインテル® vPro™テクノロジー対応の場合
  Bluetoothワイヤレステクノロジーの主な特徴は、次のようになります。
  ・出力 Class2、Bluetooth v4.0 に準拠しています。Bluetooth v4.0 およびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。
  ・最大通信速度は 2.1Mbps（Bluetooth v4.0 の理論上の最大値）です。ただし、実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

重要

- プロファイルについて
  Bluetoothワイヤレステクノロジーには「プロファイル」という仕様があり、同じプロファイルをもつBluetoothワイヤレステクノロジー機器どうしを接続し、そのプロファイルの機能を使用することができます。
  本パソコンでは、本パソコンがサポートしているプロファイルに対応したBluetoothワイヤレステクノロジー機器を使用することができます。本パソコンがサポートしているプロファイルは次のとおりです。

Windows 8.1	HID、HCRP、DUN、SPP、OPP、PAN、A2DP、AVRCP、HSP、HFP、FTP、BIP、HOGP
Windows 7	HID、HCRP、DUN、SPP、OPP、PAN、A2DP、AVRCP、HSP、HFP、FTP、BIP

■ Bluetoothワイヤレステクノロジーを使用する

Bluetoothワイヤレステクノロジーを使用する方法です。
また、お使いになるBluetoothワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

□Windows 8.1の場合

パソコンとBluetoothワイヤレステクノロジー対応機器との接続は、「Bluetoothデバイスの管理」で行います。

1. 「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。
2. 「PC設定の変更」をタップします。
3. 画面左側のメニューで「PCとデバイス」をタップします。
4. 画面左側のメニューで「Bluetooth」をタップします。
   「Bluetoothデバイスの管理」が表示されます。
5. 接続可能なデバイスが表示されますので、接続したいデバイスを選んでペアリングします。

□Windows 7の場合

次の手順で表示されるヘルプをご覧ください。

1. 「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」の順にタップします。
2. ウィンドウ右上の「オプション」をタップし、「ヘルプの参照」をタップします。
3. 「ハードウェア、デバイス、ドライバー」→「Bluetooth」の順にタップします。

■ 注意事項

ここでは、Bluetoothワイヤレステクノロジーをお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明します。

□セキュリティ

重要

- お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

Bluetoothワイヤレステクノロジーでは、電波を利用して周辺機器や他のパソコンとの間で情報のやりとりを行うため、電波の届く範囲であれば自由に接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
  悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワード、その他の個人情報などの通信内容を盗み見る可能性があります。
- 不正に使用される
  悪意ある第三者が、無断で個人や会社内の周辺機器やパソコンへアクセスし、次の行為をする可能性があります。
  ・個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
  ・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
  ・傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
  ・コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

本パソコンおよび一部の周辺機器や他のパソコンに搭載されているBluetoothワイヤレステクノロジーは、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。
そのため、別途ご購入されたBluetoothワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンがセキュリティのしくみをもっている場合、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。しかし、Bluetoothワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンは、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、周辺機器や他のパソコンに添付されているマニュアルに従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。
なお、Bluetoothワイヤレステクノロジーの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。
セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『取扱説明書』をご覧になり「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。
当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。
セキュリティ対策を施さず、あるいは、Bluetoothワイヤレステクノロジーの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□通信

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径10m以内（出力Class2の最大値）です。
  ただし、Bluetoothワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。
  また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- 本パソコンのBluetoothワイヤレステクノロジー用アンテナは、パソコン本体に内蔵されています。本パソコンの使用中、特にBluetoothワイヤレステクノロジーの通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。Bluetoothワイヤレステクノロジー用アンテナの場所については、「1章　各部名称」（→P.13）をご覧ください。
  また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- BluetoothワイヤレステクノロジーはIEEE 802.11b、IEEE 802.11gやIEEE 802.11nの2.4GHz帯規格の無線LANと同じ周波数帯の電波を使用します。そのため、ご使用の状態によっては無線LANとBluetoothワイヤレステクノロジーの電波が干渉し、他のパソコンなどとの通信速度が低下したり、Bluetoothワイヤレステクノロジーで接続したワイヤレスヘッドホンなどの音質が悪くなったりする場合があります。
- 無線LAN機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。無線LANについては『内蔵無線LANをお使いになる方へ』をご覧ください。
  ・無線LAN機器とパソコン本体との間を10m以上離して使用する。
  ・無線LAN機器の電源を切る。
  ・無線LAN機器の電波を、ユーティリティを使って停止する。
  ・無線LANの5GHz帯を利用する（ただし利用できるのは屋内のみ）。
- 本パソコンにUSBアダプタ型などの他のBluetoothワイヤレステクノロジー機器を取り付けて、同時に使用しないでください。

□電波放射の環境への影響

- 本パソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、本パソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- 本パソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、本パソコンの使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、本パソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
  ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前に本パソコンの使用許可について問い合わせをしてください。

□電波放射の人体への影響

- 本パソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、本パソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中は本パソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

□ 干渉

- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- 本パソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（本パソコンの電源をオン／オフすることで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
  ・本パソコンと受信機の距離を離す
  ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントに本パソコンを接続する
  ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- 本パソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任を負いません。

2.10.5　無線通信機能の電波を発信する／停止する

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。

■ ステータスパネルスイッチで電波を発信／停止する

ステータスパネルスイッチで、電波の発信／停止を切り替えます。
詳しくは、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.70）をご覧ください。

1 ショートカットボタンを押します。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

2 「ワイヤレスオフモード」ボタンをタップします。
ボタンをタップするたびに、ON／OFFが切り替わります。

■ ユーティリティで電波を発信／停止する

対 象　Windows 8.1

すべての無線通信機能の電波が発信されている状態で、特定の無線通信機能の電波の発信／停止だけを切り替えます。
特定の無線通信機能の電波を発信／停止するには、次の操作を行います。

1 「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。

2 「PC設定の変更」をタップします。

3 画面左側のメニューで「ネットワーク」をタップします。

4 画面左側のメニューで「機内モード」をタップします。

5 画面右側のメニューでそれぞれの設定を切り替えます。

●機内モード

・「オン」：すべての無線通信機能を停止する

・「オフ」：すべての無線通信機能を発信する

●ワイヤレスデバイス

・「オン」：電波を発信する

・「オフ」：電波を停止する

重要

- 機内モードは、パソコンに搭載されている無線通信機能の電波を停止する機能です。

POINT

- Bluetoothワイヤレステクノロジーは、次の操作でも設定することができます。
  1. 「チャーム」（→P.10）を表示し、「設定」をタップします。
  2. 「PC設定の変更」をタップします。
  3. 画面左側のメニューで「PCとデバイス」をタップします。
  4. 画面左側のメニューで「Bluetooth」をタップします。
  5. 画面右側のメニューで設定を切り替えます。
     ・「オン」：電波を発信する
     ・「オフ」：電波を停止する

2.11 ステータスパネルスイッチ

画面上のボタンを操作してモードを切り替えるだけで、画面の明るさやCPUのパフォーマンスなどを一括で変更し、パソコンを使用する状況に最適なモードに変更することができる機能です。

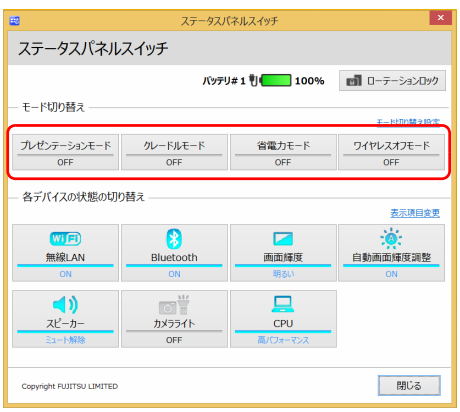
2.11.1 注意事項

- CPUを次の設定にしていると動画の再生時にコマ落ちが発生する場合があります。
  ・低パフォーマンス
  ・中間パフォーマンス
  このような場合には、CPU パフォーマンスを次の設定にしてください。
  ・高パフォーマンス
  ・「モード切り替え設定」で、CPUパフォーマンスのチェックを外す（→P.72）
- 各デバイスの状態を「ON」から「OFF」に切り替える場合、切り替え前にそのデバイスの利用を中止し、接続または挿入されているデバイスをすべて取り外してから切り替えてください。デバイスを使用中に切り替えると、デバイスを停止できない場合があります。
  また、各デバイスの状態を「OFF」から「ON」に切り替える場合は、切り替え後に各デバイスをパソコンに装着してください。
- Windows へサインインした直後は、各デバイスの状態を切り替えると、切り替えに失敗する場合があります。
  各デバイスの状態の切り替えは、Windows へサインインした後、しばらくしてから実行してください。

2.11.2　ステータスパネルスイッチでモードを切り替える

1 **ショートカットボタンを押します。**
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

2 **「モード切り替え」から、使用したいモードのボタンをタップします。**
選択したモードに切り替わります。



設定モード	
プレゼンテーションモード	パソコンを使ってプレゼンテーションなどを行うのに適したモードです。
クレードルモード	本体をクレードルに取り付けて使用するときのモードです。 ご購入時の設定では、クレードルに本体を取り付けると自動的にクレードルモードが「ON」になり、クレードルから本体を取り外すと自動的にクレードルモードが「OFF」になります。
ワイヤレスオフモード	無線LAN やBluetooth ワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を停止するモードです。
省電力モード	画面の明るさやCPU のパフォーマンスを下げることで、パソコンの消費電力を抑えることができるモードです。

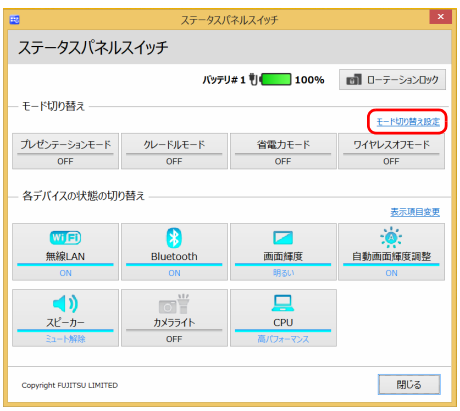
POINT

- 「各デバイスの状態の切り替え」で、それぞれの機能のボタンをタップすると、個別に状態を変更することができます。
  また、「表示項目変更」をタップすると、「各デバイスの状態の切り替え」に表示する項目を変更することができます。
- 画面の明るさを、省電力モードで設定された画面の明るさよりも暗くしている場合は、省電力モードにしても画面が暗くならない場合があります。

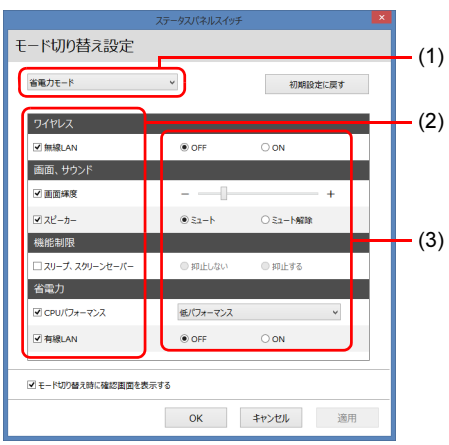
2.11.3　各モードの設定を変更する

各モードで制御するデバイスを選択したり、各デバイスの状態を個別に変更したりすることができます。

1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え設定」をタップします。



2 設定を変更します。



1. モードを選択します。
2. 制御するデバイスを選択します。
3. デバイスの状態や値を設定します。

3 「適用」をタップします。

4 「OK」をタップします。

2.12 ダイレクト・メモリースロット

ここでは、ダイレクト・メモリースロットに、SDメモリーカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。
メモリーカードの取り扱いについては、お使いのメモリーカードのマニュアルをご覧ください。メモリーカードを周辺機器で使用する場合は、お使いの周辺機器のマニュアルもご覧ください。また、ダイレクト・メモリースロットの仕様については、「8.1 本体仕様」（→P.169）をご覧ください。

2.12.1 注意事項

- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。

2.12.2 使用できるメモリーカード

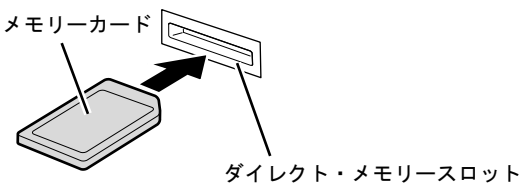
すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

メモリーカード		対応
SDメモリーカード注	miniSDカード	○
	microSDカード	○
	microSDHCカード	○
	microSDXCカード	○

注　：・著作権保護機能には対応していません。
　　・マルチメディアカード（MMC）、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

2.12.3　メモリーカードをセットする

1 メモリーカードのラベル面を上に、端子側を奥にして「カチッ」と音がするまでダイレクト・メモリースロット（→P.15）に差し込みます。



POINT

- Windows 8.1で画面右上にメッセージが表示された場合は、そのメッセージをタップし、必要に応じて動作を選択するか、メッセージを閉じてください。
- Windows 7で「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、必要に応じて動作を選択するか、ウィンドウを閉じてください。

2.12.4　メモリーカードを取り出す

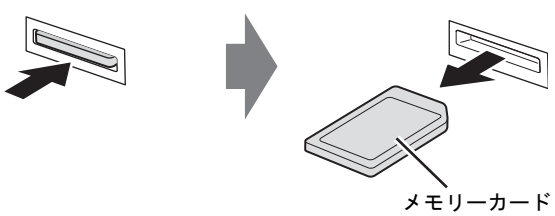
1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン をタップします。

2 取り外すメモリーカードをタップし、表示されるメッセージに従います。

3 メモリーカードを一度押し、少し出てきたメモリーカードを引き抜きます。

重要

- メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり衝撃で破損したりするおそれがあります。また、ダイレクト・メモリースロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出すと、けがの原因になります。



2.13 タブレットボタン

ここでは、タブレットボタン（Windowsボタン／ボリュームダウンボタン／ボリュームアップボタン／ショートカットボタン）の使い方について説明しています。

2.13.1 タブレットボタンを使う

タブレットボタン（Windowsボタン／ボリュームダウンボタン／ボリュームアップボタン／ショートカットボタン）を押すことにより次の動作を簡単に実行できます。

タブレットボタンの操作	動作
Windowsボタン（ ）を押す	・Windows 8.1の場合 スタート画面または直前のアプリを表示します。 ・Windows 7の場合 「スタート」メニューを表示します。
Windowsボタン（ ）を押しながら、電源ボタンを押す	【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押したときの動作をします。
ボリュームダウンボタン（−）を押す	音量を小さくします。
ボリュームアップボタン（＋）を押す	音量を大きくします。
ショートカットボタン（▬）を押す	・短く押したとき 「ステータスパネルスイッチ」（→P.70）を起動 ・長く押したとき 画面をキャプチャし、選択したアプリケーションで開く

2.14 暗号化機能付フラッシュメモリディスク

対 象 暗号化機能付フラッシュメモリディスク搭載機種

「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、OSやプログラムを含むフラッシュメモリディスク上の全データについて、書き込み時には自動的に暗号化し、読み出し時には自動的に復号します。そのため、暗号化を意識せずにセキュリティを確保できます。
BIOSセットアップでハードディスクパスワードを設定することにより、フラッシュメモリディスクへのアクセスはパスワードで管理され、認証された使用者のみが復号されたデータを入手できます。
また、本パソコンからフラッシュメモリディスクを抜き取り、他のパソコンに接続してデータを読み取ろうとした場合にも、パスワードの入力が必要になるため不正な使用を防ぐことができます。

重要

- ハードディスクパスワードを設定していない場合はハードディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。必ずハードディスクパスワードを設定してください。ハードディスクパスワードの設定方法は「5.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.122）をご覧ください。

2.15 セキュリティチップ

対 象　セキュリティチップ搭載機種

セキュリティチップは、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをハードディスクに残さないため、ハードディスクが盗まれても暗号を解析できません。
セキュリティチップに格納したデータにアクセスするには専用のインターフェースが必要です。
詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

重要

- Windows 8.1の場合、Windowsのセットアップ後の再起動時に、ご購入時「無効」のセキュリティチップが「有効」となり、所有者パスワードが自動的に設定されます。「セキュリティ」メニューの「TPM（セキュリティチップ）設定」で設定を確認してください。
  詳しくは、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。
  セキュリティチップをご利用になる前に、必ず所有者パスワードを変更し、パスワードのファイルを保存してください（自動的に設定されたパスワードは、わからなくても変更できます）。
  所有者パスワードがわからないままセキュリティチップを使用し修理などした場合、セキュリティチップで暗号化したファイルが読めなくなるなどの不具合が生じることがあります。パスワードの変更、ファイルの保存方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

POINT

- セキュリティチップを使った、SMARTACCESS/Basicの機器監査機能は使用できません。

2.16 Webカメラ

対 象　Webカメラ搭載機種

本パソコンにはWebカメラが搭載されています。Webカメラを使うと次のことができます。
・「Skype」（→P.108）で、インターネットを経由したテレビ会議などをする

2.16.1 注意事項

- 蛍光灯の下ではWebカメラの画像がちらつく場合があります。「2.16.2 Webカメラの設定を変更する」（→P.78）をご覧になり、「ちらつき防止」をお使いの地域の商用電源周波数に設定してください。
- 暗い場所ではWebカメラの画像のノイズが増えたり、色むらが発生したりする場合があります。また、非常に暗い場所では画面が黒くなる場合があります。この場合は、通常の室内の明るさ（150ルクス程度以上）でお使いください。
- 「Skype」を使用するには、Skype IDの取得が必要です。

2.16.2 Webカメラの設定を変更する

通常はご購入時の設定のままお使いください。
「Skype」のWebカメラの設定を変更するには、次の操作を行います。

1 次の操作を行います。

●Windows 8.1の場合
1. スタート画面で「Skype」をタップします。

●Windows 7の場合
1.「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Skype」→「Skype」の順にタップします。

2 サインインしていない場合はサインインします。

3 「ツール」メニュー→「設定」の順にタップします。

4 左側の項目から「ビデオ設定」をタップします。

5 「Webカメラ設定」をタップします。
Webカメラの設定を変更します。

6 設定するWebカメラを選択します。
「FJ Camera」が表面のカメラ、「FJ 5M Camera」が裏面のカメラです。
必要に応じてオーディオ設定やサウンドを変更します。

7 「保存」をタップします。

2.17 防水性能

端子キャップとスロットキャップをしっかりと閉じた状態で、IPX5、IPX7、IPX8の防水性能を有しています。

・IPX5とは、内径6.3mmの注水ノズルを使用し、約3mの距離から12.5L／分の水を最低3分間注水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、パソコンとしての機能を有することを意味します。
・IPX7とは、常温で水道水、かつ静水の水深1.0mのところに本パソコンを静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときにパソコンとしての機能を有することを意味します。
・IPX8とは、常温で水道水、かつ静水の水深1.5mのところに本パソコンを静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときにパソコンとしての機能を有することを意味します。

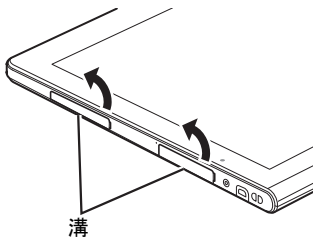
2.17.1 防水性能でできること

- 1時間の雨量が20mm程度の雨の中で、傘をささずに通信ができます。
  - ・手が濡れているときやパソコンに水滴がついているときには、端子キャップやスロットキャップの開閉はしないでください。
- 水深1.5mのプールの中に沈めることができます。
  - ・水中で操作しないでください。
  - ・プールの水につけるときは、30分以内としてください。
  - ・プールの水がかかったり、プールの水に浸けたりした場合は、洗い流して水抜きしてください（→P.82）。
- お風呂場で使用できます。
  - ・湯船にはつけないでください。また、お湯の中で使用しないでください。故障の原因となります。万が一、湯船に落としてしまった場合には、すぐに拾って水抜きしてください（→P.82）。
  - ・温泉や石けん、洗剤、入浴剤の入った水には絶対につけないでください。万が一、水道水以外が付着してしまった場合は、ただちに洗い流して水抜きしてください（→P.82）。
  - ・お風呂場では、温度は5℃～35℃、湿度は20%～80%RH、使用時間は2時間以内の範囲でご使用ください。
  - ・急激な温度変化は結露の原因となります。寒い所から暖かいお風呂などに本パソコンを持ち込むときは、本パソコンが常温になるまで待ってください。
  - ・蛇口やシャワーから水やお湯などをかけないでください。
- 洗面器などに張った静水につけて、ゆすりながら汚れを洗い流すことができます。
  - ・洗うときは、端子キャップとスロットキャップが開かないように押さえたまま、ブラシやスポンジなどは使用せず洗ってください。

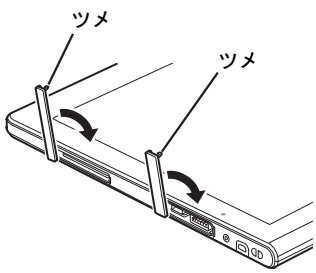
2.17.2　防水性能を維持するために

水の浸入を防ぐために、必ず次の点を守ってください。

- 常温の水道水以外の液体をかけたり、つけたりしないでください。
- microSDカードの取り付け／取り外し時や外部接続端子を使用するときには、次の図に示す溝に指を掛けてすこし引き出し、矢印の方向にキャップを開けてください。



また、microSDカードの取り付け／取り外し後や外部接続端子使用後は、矢印のように動かしてキャップを閉じ、ツメを押し込んでキャップの浮きがないことを確認してください。



- 端子キャップとスロットキャップはしっかりと閉じてください。接触面に微細なゴミ（髪の毛1本、砂粒1つ、微細な繊維など）がはさまると、浸水の原因となります。
- スピーカーなどを綿棒やとがったものでつつかないでください。
- 落下させないでください。傷の発生などにより防水性能の劣化を招くことがあります。
- 端子キャップ、スロットキャップのゴムパッキンは防水性能を維持する上で重要な役割を担っています。ゴムパッキンをはがしたり傷つけたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。

POINT

- **防水性能を維持するため、異常の有無にかかわらず必ず2年に1回、部品の交換が必要となります。**
  部品の交換はパソコンをお預かりして有料にて承ります。「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。

2.17.3　防水性能をお使いになるうえでの注意

次のような行為は行わないでください。

- 石けん、洗剤、または入浴剤をつける
- ブラシやスポンジで洗う
- 洗濯機で洗う
- 強すぎる水流を当てる
- 海水につける
- 温泉で使う
- 砂や泥をつける

また、次の注意事項を守って正しくお使いください。

- 付属品は防水性能を有していません。クレードルや専用キーボードにパソコンを差し込んだ状態で動画再生などをする場合、ACアダプタを接続していない状態でも、お風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りでは使用しないでください。
- 防水性能以上の強い水流（例えば、蛇口やシャワーから肌に当てて痛みを感じるほどの強さの水流）を直接当てないでください。本パソコンはIPX5の防水性能を有していますが、内部に水が入り、感電や電池の腐食などの原因となります。
- 熱湯につけたり、サウナで使用したり、温風（ドライヤーなど）を当てたりしないでください。
- 本パソコンを水中で移動させたり、水面に叩きつけたりしないでください。
- 水道水やプールの水につけるときは、30分以内としてください。
- プールで使用するときは、その施設の規則を守って、使用してください。
- 本パソコンは水に浮きません。
- 水滴が付着したまま放置しないでください。電源端子がショートしたり、寒冷地では凍結したりして、故障の原因となります。
- スピーカーに水滴を残さないでください。
  動作不良となるおそれがあります。
- 端子キャップやスロットキャップが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切り、「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。
- 端子キャップやスロットキャップのゴムパッキンが傷ついたり、変形したりした場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。

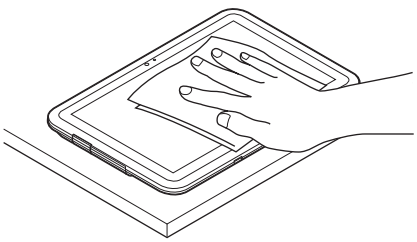
POINT

- **実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。また、調査の結果、お客様の取り扱いの不備による故障と判明した場合、保証の対象外となります。**

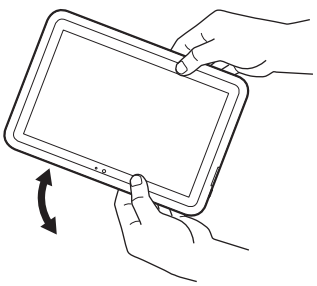
2.17.4　水抜き

本パソコンを水に濡らすと、拭き取れなかった水が後からもれてくることがありますので、下記の手順で水抜きを行ってください。

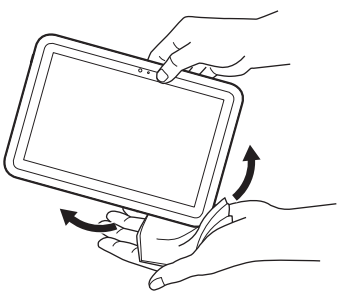
1 **本パソコンを安定した台などに置き、表面、裏面を乾いた清潔な布などでよく拭き取ってください。**



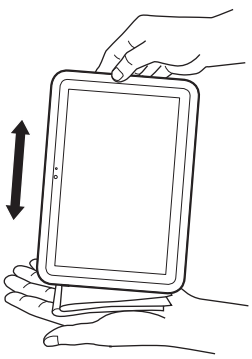
2 **本パソコンのディスプレイ面を下にして、長い辺を両手でしっかりと持ち、10回程度水滴が飛ばなくなるまで振ってください。その後、180度持ち替えて同様に10回程度水滴が飛ばなくなるまで振ってください。**



3 **外周部の隙間にたまった水は、乾いた清潔な布などに本パソコンの四隅を各10回程度振るように押し当てて拭き取ってください。**



4　スピーカーなどの隙間にたまった水は、乾いた清潔な布などに本パソコンを10回程度振るように押し当てて拭き取ってください。



5　本パソコンから出てきた水分を乾いた清潔な布などで充分に拭き取り、自然乾燥させてください。

・水を拭き取った後に本体内部に水滴が残っている場合は、水が染み出ることがあります。
・隙間にたまった水を綿棒などで直接拭き取らないでください。

2.17.5　充電のときの注意

充電時および充電後には、必ず次の点を確認してください。

- 充電時は、本パソコンが濡れていないか確認してください。本パソコンが濡れている状態では、絶対に充電しないでください。
- 付属品は防水性能を有していません。
- 本パソコンが濡れている場合や水に濡れた後に充電する場合は、よく水抜きをして乾いた清潔な布などで水を拭き取ってから、付属のクレードルやスリムキーボードに差し込んだり、端子キャップを開いたりしてください。
- 端子キャップを開いて充電した場合には、充電後はしっかりとキャップを閉じてください。なお、外部接続端子からの浸水を防ぐため、クレードルを使用して充電することをお勧めします。
- ACアダプタやクレードル、スリムキーボードは、お風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りや水のかかる場所で使用しないでください。
  火災や感電の原因となります。
- 濡れた手でACアダプタやクレードル、スリムキーボードに触れないでください。
  感電の原因となります。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に 85
3.2 クレードル 86
3.3 キーボード・ドッキングステーション 88
3.4 スリムキーボード 93
3.5 ドコモminiUIMカード 96
3.6 アタッチメント／ストラップ 98
3.7 コネクタの接続／取り外し 101

3.1　周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1　注意事項

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源ケーブルを抜いた後、充分に待ってから作業を始めてください。
  やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、パソコン本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 クレードル

対 象　クレードル使用時

パソコン本体にクレードルを取り付けると、クレードルに搭載されているコネクタを使用できるようになります。
ここでは、クレードルの取り付け、取り外し方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.85）をお読みになってから作業をしてください。

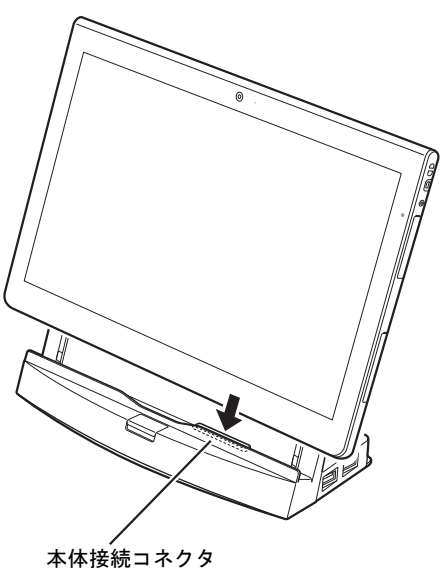
3.2.1　注意事項

- クレードルを取り付けた状態では、本パソコンを持ち運ばないでください。パソコン本体およびクレードルのコネクタの破損の原因となります。
- クレードルをお使いになる場合は、必ずクレードルのDC-INコネクタ（→P.20）に、パソコン本体に添付のACアダプタを接続してください。

3.2.2　クレードルを取り付ける

1 パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.101）。

2 本体接続コネクタの位置を合わせてパソコン本体をクレードルに沿って下ろし、しっかりと取り付けます。

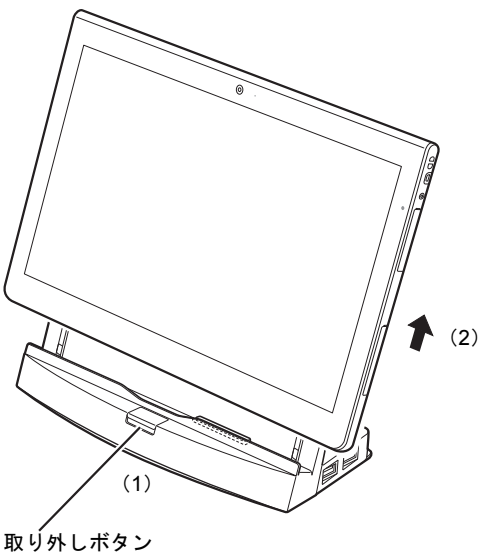


3.2.3　クレードルを取り外す

1 クレードルのコネクタに接続されている周辺機器の電源を切ります。

2 パソコン本体をクレードルから取り外します。

(1) 本体に手を添えて、クレードルの取り外しボタンを押し、(2) クレードルに沿ってパソコン本体を持ち上げます。



3.3 キーボード・ドッキングステーション

対 象　キーボード・ドッキングステーション使用時

パソコン本体とキーボード・ドッキングステーションを接続することで、ノートパソコンのようにキーボードとフラットポイントで操作することができます。
ここでは、キーボード・ドッキングステーションの取り付け、取り外し方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.85）をお読みになってから作業をしてください。
また、バッテリの充電時間や駆動時間など、バッテリの仕様については「8.1 本体仕様」（→P.169）をご覧ください。

3.3.1 注意事項

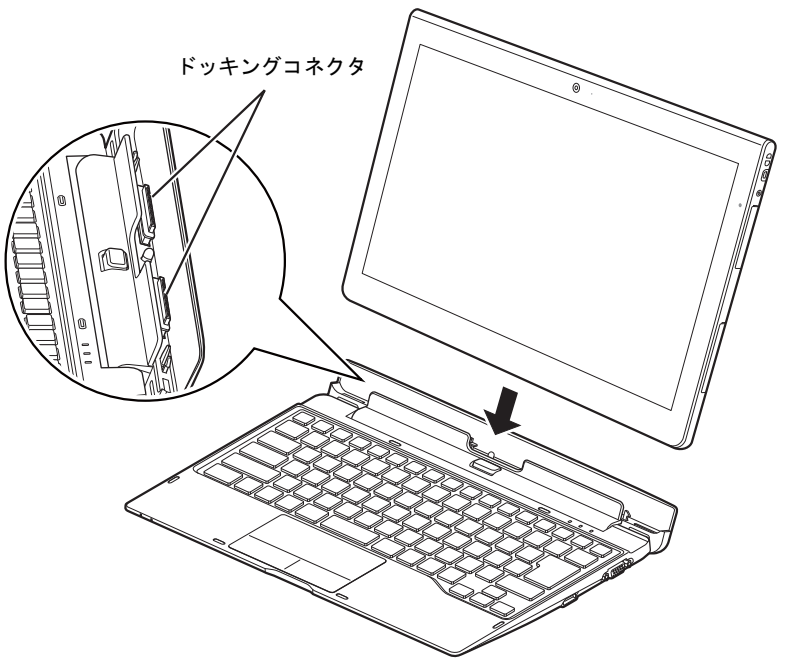
■ バッテリで運用するとき

- キーボード・ドッキングステーションを接続してバッテリ運用を行うと、先にキーボード・ドッキングステーション側のバッテリから電源が供給されます。キーボード・ドッキングステーション側のバッテリ残量がなくなると、パソコン本体のバッテリに切り替わります。
- バッテリの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリの残量に注意してお使いください。パソコン本体のバッテリの残量を確認するには、「2.9.3 バッテリの残量を確認する」（→P.60）をご覧ください。
- 本パソコンの機能を多用したり負荷の大きいソフトウェアを使用したりすると、多くの電力を消費するためバッテリの駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
- 本パソコンを省電力モードにすることにより、バッテリ駆動時間を長くすることができます。詳しくは、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.70）をご覧ください。
- バッテリは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリ駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力が低下します。

3.3.2　キーボード・ドッキングステーションを取り付ける

1 パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.101）。

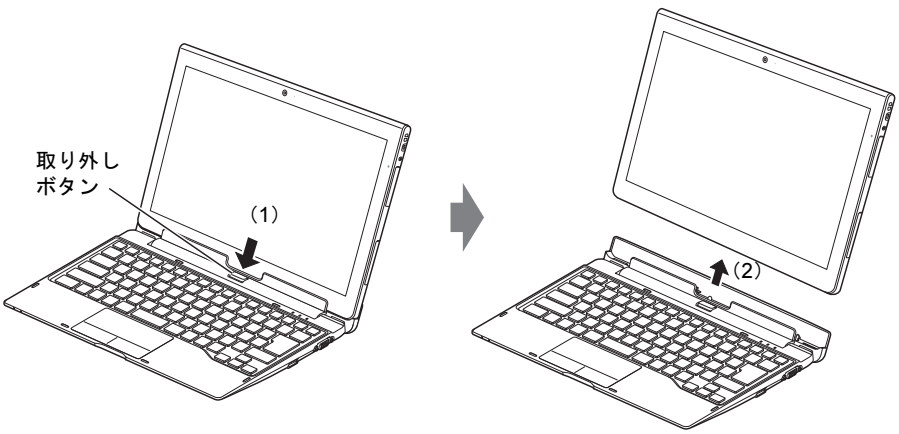
2 本体接続コネクタ（→P.20）とドッキングコネクタの位置を合わせて、パソコン本体をまっすぐ下ろし、しっかりと取り付けます。



3.3.3　キーボード・ドッキングステーションを取り外す

1 キーボード・ドッキングステーションに接続されている周辺機器の電源を切ります。

2 パソコン本体をキーボード・ドッキングステーションから取り外します。
(1) キーボード・ドッキングステーションの取り外しボタンを押して、(2) パソコンを持ち上げます。



3.3.4　キーボード・ドッキングステーションのバッテリを充電する

■ キーボード・ドッキングステーションのバッテリ充電

1 **キーボード・ドッキングステーション本体にACアダプタを接続します。**

充電が始まります。バッテリの充電状態は、バッテリ充電ランプ（→P.22）で確認できます。

バッテリ充電ランプ	バッテリの充電状態
オレンジ色[注]	充電中
白色	充電完了
消灯	ACアダプタが接続されていない

注 ：点滅している場合は、バッテリの温度が高すぎる、または低すぎるなどの理由でバッテリの保護機能が働き充電が停止している状態です。バッテリの温度が正常に戻れば点灯し、充電を再開します。

POINT

- バッテリを保護するため、バッテリの残量が90%以上の場合は充電は始まりません。バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

■ キーボード・ドッキングステーション接続時のバッテリ充電

パソコン本体とキーボード・ドッキングステーションを接続したまま充電をすることができます。

パソコン本体の状態	バッテリの充電状態
電源オン 電源オフ／省電力状態	パソコン本体側のバッテリから充電します。 パソコン本体側バッテリの充電完了後、キーボード・ドッキングステーション側のバッテリを充電します。

ACアダプタは、パソコン本体側、キーボード・ドッキングステーション側のどちらに接続しても充電できます。

重要

- バッテリ充電中で、キーボード・ドッキングステーション側のバッテリが90%以上充電されたときに次のことが起こると、バッテリ充電が終了します。
  - ・パソコン本体の電源がオンからオフに切り替わったとき
  - ・パソコン本体の電源がオフからオンに切り替わったとき
  - ・パソコン本体が省電力状態になったとき
  - ・パソコン本体がレジュームしたとき

3.3.5　キーボード・ドッキングステーションのバッテリの残量を確認する

バッテリの残量は、バッテリ残量ランプ（→P.22）で確認できます。
なお、表示されるバッテリの残量は、バッテリの特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により実際のバッテリの残量とは異なる場合があります。

バッテリ残量ランプ	バッテリの残量
白色[注]	100%～50%
オレンジ色[注]	49%～13%
赤色[注]	12%以下
消灯	バッテリが接続されていない

注：本パソコンの電源の状態により次のようになります。なお、「充電中」とは、バッテリ充電ランプがオレンジ色に点灯している状態です。
・電源オン：点灯
・電源オフ／省電力状態（スリープ、休止状態）：点灯（充電中）または消灯（非充電中）

重要

- 短い間隔で赤色に点滅している場合は、バッテリが正しく充電されていません。パソコン本体をキーボード・ドッキングステーションから取り外してからバッテリを取り付け直してください。それでも状態が変わらない場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。

■ バッテリ残量ランプが赤色に点灯したら

バッテリの残量はわずかになっています。パソコン本体のバッテリ残量を確認してください（→P.62）。

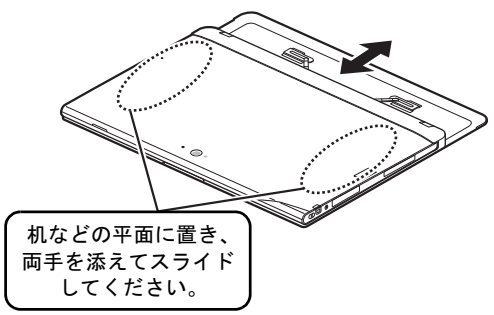
3.4 スリムキーボード

対 象　スリムキーボード使用時

パソコン本体とスリムキーボードを接続することで、ノートパソコンのようにキーボードとフラットポイントで操作することができます。
ここでは、スリムキーボードの取り付け、取り外し方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.85）をお読みになってから作業をしてください。

3.4.1　スリムキーボードをお使いになるうえでの注意

- スリムキーボードをスライドする場合は、必ず机などの平らな場所に置き、イラストの点線部に両手を添えて矢印の方向に動かしてください。
  平らな場所に置かずにスリムキーボードをスライドすると、スライド部の破損の原因となります。



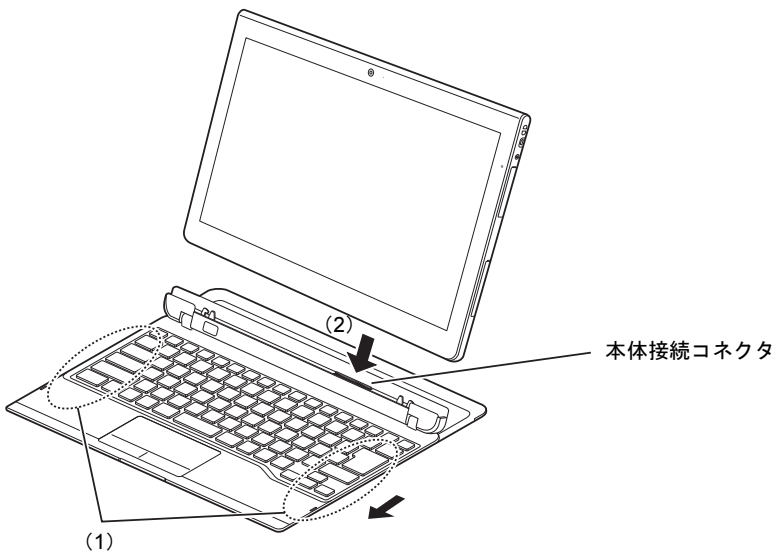
- スライド部を開いたまま、持ち運ばないでください。破損の原因となります。

3.4.2　スリムキーボードを取り付ける

1 パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.101）。

2 スリムキーボードとパソコン本体を接続します。

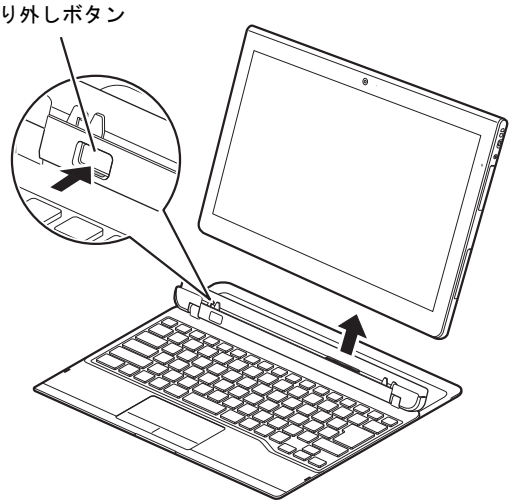
1. スリムキーボードを平らな場所に置き、イラストの点線部に両手を添えて手前にスライドします。
2. 本体接続コネクタと、パソコン本体のドッキングコネクタ（→P.14）の位置を合わせて、パソコン本体をまっすぐ下ろし、「カチッ」と音がするまでしっかりと取り付けます。



3.4.3　スリムキーボードを取り外す

1 スリムキーボードの取り外しボタンを押し、パソコン本体をまっすぐ持ち上げます。

取り外しボタン



重要

- スリムキーボードをスライドして収納する場合は、「3.4.1 スリムキーボードをお使いになるうえでの注意」（→P.93）をご覧ください。

3.5 ドコモminiUIMカード

対 象　無線WANモデル

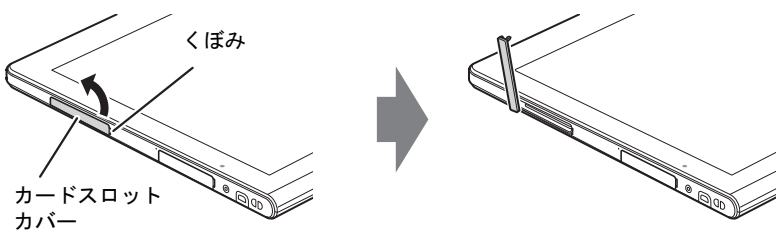
本パソコンの無線WAN用のカードスロットにドコモminiUIMカードを取り付けると、無線WANによる通信ができるようになります。
ここでは、ドコモminiUIMカードの取り付け、取り外しについて説明しています。
無線WANの使い方については、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.85）をお読みになってから作業をしてください。

3.5.1 注意事項

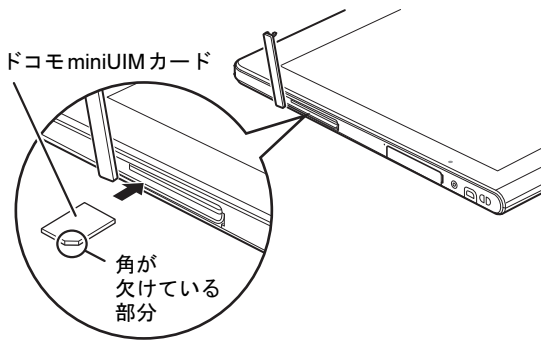
- ドコモminiUIMカードの表面にテープなどを貼らないでください。故障の原因となります。
- ドコモminiUIMカードを取り付ける、または取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。電源の切り方については、「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧ください。

3.5.2 ドコモminiUIMカードを取り付ける

1 くぼみに指をかけ、矢印の方向にカードスロットカバーを開きます。



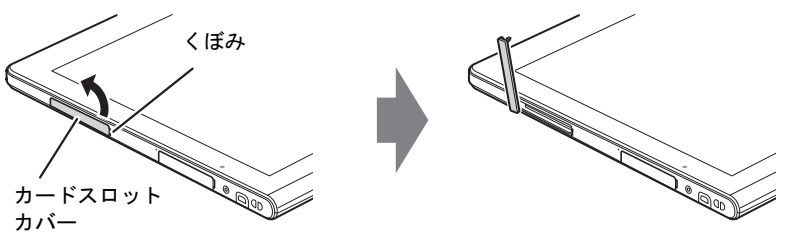
2 ドコモminiUIMカードの角が欠けている部分を図のようにし、端子が露出している面を下側にして「カチッ」と音がするまで無線WAN用のカードスロットに押し込みます。



3 カードスロットカバーを閉じます。

3.5.3　ドコモminiUIMカードを取り外す

1 くぼみに指をかけ、矢印の方向にカードスロットカバーを開きます。



2 ドコモminiUIMカードを一度押します。
ドコモminiUIMカードが少し出てきます。

3 ドコモminiUIMカードを引き抜きます。

4 カードスロットカバーを閉じます。

3.6 アタッチメント／ストラップ

対 象　スマートカード、VESAマウント搭載機種

パソコン本体とアタッチメント、ハンドストラップ、ショルダーストラップを接続することで、パソコンを快適にお使いいただけます。
ここでは、アタッチメント、ハンドストラップ、ショルダーストラップの取り付け、取り外し方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.85）をお読みになってから作業をしてください。

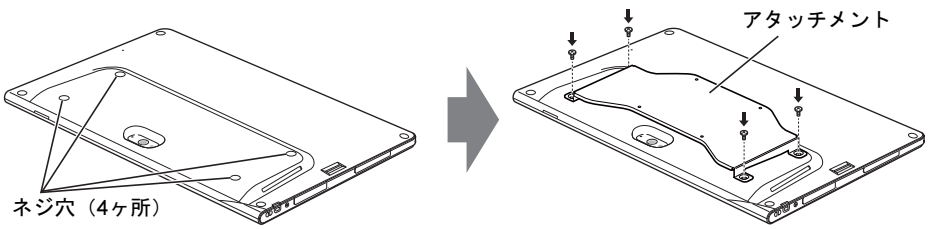
3.6.1 注意事項

- 必ずパソコン本体の電源を切ってください。電源の切り方については、「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧ください。
- 添付のネジやDリングは幼児が飲み込むと大変危険です。幼児の手が届かない場所に置いてください。
- ハンドストラップで手を固定しパソコン本体を持っているときは、次の点に注意してください。
  ・パネル側から強い力で押さないでください。手首が曲がり捻挫するおそれがあります。
  ・腕を強く振らないでください。手から滑って本体が落下するおそれがあります。
- ネジをしっかり取り付けていないと、ご使用中にネジが外れパソコン本体が落下するおそれがあります。
- 本製品はパソコンを携帯するためのストラップです。他の用途で使用しないでください。
- ネジの取り付けには、寸法の合う工具をお使いください。

3.6.2　アタッチメントを取り付ける

1 パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.101）。

2 アタッチメントのネジ穴と、パソコン本体ネジ穴を合わせ、ネジ（4ヶ所）で固定します。



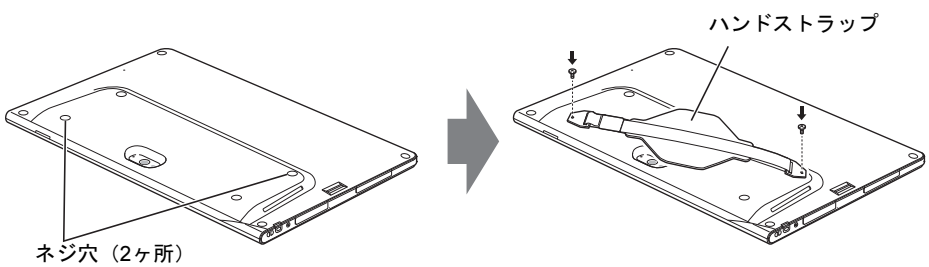
POINT

- 本パソコンは、VESAマウント（75㎜×75㎜）に対応しています。

3.6.3　ハンドストラップを取り付ける

1 パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.101）。

2 パソコン本体のネジ穴（2ヶ所）に、ハンドストラップの穴を合わせ、ハンドストラップ付属のネジ（6mm）で固定します。



POINT

- ハンドストラップとショルダーストラップをいっしょに取り付けることができます。
- 付属のネジについて
  - ・2種類添付されている場合は、必ず6mmを使用してください。
    ハンドストラップの取り付けには、8mmのネジは使用しないでください。
  - ・1種類のみ添付されている場合は、そのまま使用してください。

3.6.4　ショルダーストラップを取り付ける

POINT

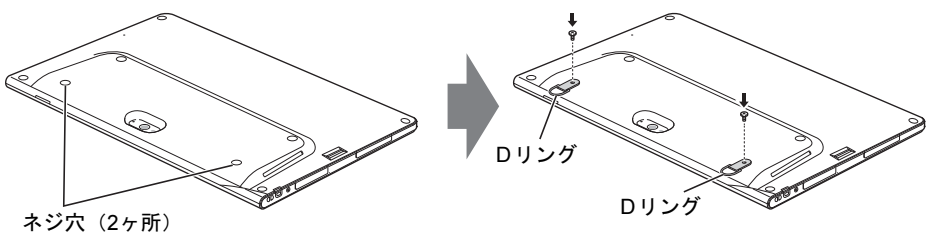
- ショルダーストラップに付属のスペーサーは、本パソコンには使用しません。

1 パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.101）。

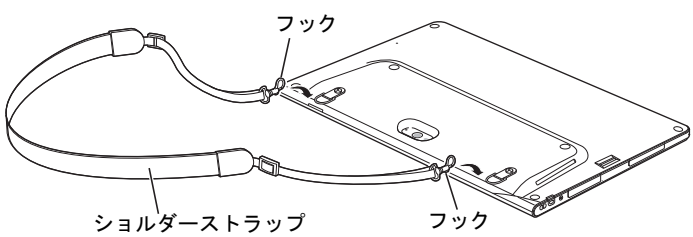
2 ショルダーストラップ付属のDリングをネジ穴（2ヶ所）に合わせ、ショルダーストラップ付属のネジ（6mm）で固定します。

重要

- 本パソコンには、ショルダーストラップに付属の6mmネジを使用してください。

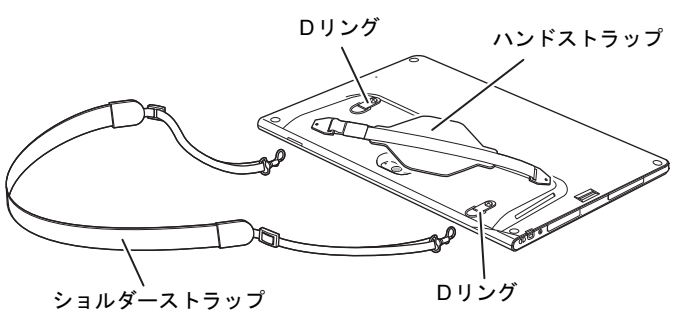


3 ショルダーストラップのフックを、Dリングにひっかけます。



POINT

- ショルダーストラップは、図のようにハンドストラップといっしょに取り付けることができます。



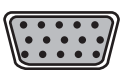
3.7 コネクタの接続／取り外し

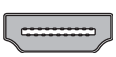
ここでは、パソコン本体やクレードルに周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「8.1 本体仕様」（→P.169）をご覧ください。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.85）をお読みになってから作業をしてください。

3.7.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかったり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前にご確認ください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずパソコン本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイに表示されるまで、しばらく時間がかかることがあります。

3.7.2 ディスプレイコネクタ

 　アナログディスプレイコネクタ

 　デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）

外部ディスプレイを接続します。パソコン本体の電源を切ってから接続してください。

POINT

- アナログディスプレイ、またはデジタルディスプレイどちらか一方に表示します。
  両方のコネクタに接続している場合は、デジタルディスプレイが優先されます。

■ 接続する

1 パソコン本体の電源を切ります。

2 ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
次のコネクタをお使いの場合、コネクタのネジを締めてください。
・アナログディスプレイコネクタ

3 ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

■ 取り外す

重要

- マルチディスプレイ機能（→P.40）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

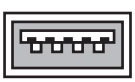
□アナログディスプレイコネクタ

1. パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
2. ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。
   コネクタのネジを緩めてからケーブルを引き抜いてください。

□デジタルディスプレイコネクタ（HDMI）

1. パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
2. ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.7.3　USBコネクタ



USB3.0コネクタ

micro USBコネクタ

USB対応周辺機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

1. USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
   コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

重要

- USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

1. 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
   1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをタップします。
   2. 取り外すデバイスをタップし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。
2. ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.7.4　オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重要

- マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

■ 接続する

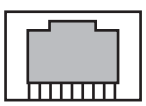
1. マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。
   まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1. ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.7.5　LANコネクタ

対 象　クレードル使用時



LANケーブルを接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

重要

- 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。

■ 接続する

1. LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。
   コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1. コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

4

第4章

ソフトウェア

本パソコンにプレインストール（添付）されているソフトウェアの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

4.1 ソフトウェアの紹介 105
4.2 インストール 112
4.3 アンインストール 115

4.1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本パソコンにプレインストールまたは添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。
ご購入時にインストールされているソフトウェアは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「ドライバーズディスク」などに格納されています。
また、ご購入時にはインストールされておらず、お使いになる前にCドライブなどからインストールするソフトウェアもあります。
各ソフトウェアの格納場所は、次ページ以降の一覧表でご確認ください。

その他の情報については次をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方
  ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
  ヘルプは、【F1】キーを押したり「ヘルプ」をタップしたりすることで表示されます。
- インストール方法
  「4.2 インストール」（→P.112）をご覧ください。
- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア
  インターネット上のマニュアル（http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual/）の機能別のマニュアルをご覧ください。

4.1.1　一覧表の見かた

ソフトウェア一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

- OSについて
  お使いのパソコンに該当するOSの欄をご覧ください。
  ・Win8.1：Windows 8.1
  ・Win7　：Windows 7
- 提供形態について
  ●：ご購入時にインストール済み
  ◇：Cドライブに格納（ご購入時にはインストールされていません）
  ▲：「ドライバーズディスク」または各ソフトウェアのディスクに格納
  ■：「トラブル解決ナビディスク」に格納
  －：搭載されていないか、対象となる機種がありません

  「ドライバーズディスク」や各ソフトウェアのディスクは、本パソコンのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

4.1.2　セキュリティ関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.105）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8.1	Win7
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。有害サイトへアクセスしようとすると、表示できない主旨のメッセージ画面が自動的に表示されます。フリーソフトのため、サポートは行っておりません。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から90日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。	◇	◇
Portshutter Premium	USBポート（Webカメラや NFCポート（FeliCa）など内蔵USBデバイスを含む）や光学ドライブなどの接続ポートの有効・無効を設定します。不要な機器の使用を制限することで、情報漏えいを防止できます。詳しくは、「トラブル解決ナビ」内のマニュアルをご覧ください。	▲	▲
SMARTACCESS/Basic	対 象 **セキュリティチップ、スマートカードスロット、NFCポート搭載機種** セキュリティチップ、スマートカードスロット、NFCポートを使用するためのソフトウェアです。	▲	▲
マカフィー マルチアクセス	コンピューターウイルスを検出・駆除します。無償サポート、無償アップデートの期間は、使用開始から90日間です。 インストールの方法については「4.2.2 「マカフィー マルチアクセス」のインストール」（→P.113）を、その他のお問い合わせは「7.3.1 お問い合わせ先」（→P.166）をご覧ください。	◇	◇
ハードディスクデータ消去	ハードディスク内のデータを消去します。 詳しくは、「フラッシュメモリディスクデータ消去」（→P.182）をご覧ください。	■	■

4.1.3　サポート関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.105）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8.1	Win7
UpdateAdvisor（本体装置）	お使いのパソコンのドライバー、添付ソフトウェアのアップデート版が、弊社アップデートサイトに公開されているかを調査し、適用することができます。 アプリ画面（Windows 8.1）またはスタートメニュー（Windows 7）から起動します。 また、「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」を利用してお使いのパソコンの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	●	●
サポートナビ	本パソコンを快適にお使いいただくためのナビゲーションツールを目的別に分類したランチャーです。 デスクトップの「サポートナビ」アイコンから起動できます。	●	●
パソコン乗換ガイド	今までお使いになっていたパソコンから、現在お使いのパソコンへ必要なデータを移行することができます。 ・「パソコン乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	▲	▲
富士通ハードウェア診断ツール	ハードウェアに障害が発生していないか診断できます。 詳しくは、「7.1.7 診断プログラムを使用する」（→P.142）をご覧ください。	■	■

4.1.4　ユーティリティ

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.105）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8.1	Win7
Adobe Reader	PDFファイルを表示、閲覧、印刷できます。 フリーソフトのため、サポートはしておりません。お問い合わせは、「7.3.1 お問い合わせ先」（→P.166）をご覧ください。	－	●
AirCard Watcher	対 象 **無線WANモデル** XiサービスおよびFOMA® HIGH-SPEEDサービスへ接続、また接続するために必要な設定を行うソフトウェアです。	●	●
Auto Rotation Utility	画面の回転に合わせて、縦方向または横方向に自動的に表示を切り替えます。例えば、ソフトキーボードを縦方向で表示するとキーが小さく表示されるのでタップしづらい場合は、画面を横方向に回転させて大きく表示することにより、キー入力しやすくなります。	－	●
DataShare	ネットワークを経由して、他のパソコンとの間で、共有フォルダー内にあるファイルを受け渡しできるようにするソフトウェアです。	▲	▲
Easy Backup2	お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできます。 インストールの方法については、「4.2 インストール」（→P.112）をご覧ください。	▲	▲
Finger Zoom	タップまたはドラッグで画面の一部を拡大表示できます。詳しくは、「2.3.5 タッチパネルの補助機能を使う」（→P.35）をご覧ください。	－	●
F-Launcher	目的のソフトウェアを素早く起動するためのツールです。よく使用するソフトウェアを登録して使用します。	▲	－
Fujitsu Display Manager	パソコンの画面表示設定の組み合わせを「プロファイル」として保存し、必要に応じて保存した設定を復元することができます。	●	●
IndicatorUtility	音声ボリュームや画面の明るさを操作した場合に、デスクトップ上にインジケーターを表示します。	－	●
Plugfree NETWORK	無線LANや有線LAN、およびダイヤルアップネットワークに接続するための設定を統合的に管理するソフトウェアです。 「Plugfree NETWORK」が接続したネットワークを判定し、会社、通勤中、自宅など、パソコンを使う場所が変わっても、自動で最適な設定に切り替えます。「ネットワーク診断」でネットワークの状態を確認し、トラブル解決のサポートをします。	●	●

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.105）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8.1	Win7
Skype	ユーザーどうしの通話、ビデオ通話、インスタントメッセージやファイル送信ができます。 詳しくは、「7.3.1 お問い合わせ先」（→P.166）をご覧ください。	●	●
Systemwalker Desktop Patrol Lite	パソコンの使用状況（電力量、電力料金、CO_2排出量）の概算を計算したり、省電力設定やセキュリティ設定を確認したりすることができます。例えばスリープに移行するまでの時間設定が非常に長いなど、あらかじめ決められた設定と異なった場合には、そのことを利用者に通知し、設定を変更することもできます。 省電力設定については、「国際エネルギースタープログラム」のエネルギースター適合基準を基に、モニターの電源を切る時間、およびスリープに移行する時間を設定します。	▲	▲
かんたんサイズ設定	デスクトップの文字やアイコンのサイズを簡単に変更できるソフトウェアです。詳しくはソフトウェアのヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。	－	▲
ステータスパネルスイッチ	パソコンの環境設定や各デバイスの設定を、画面上のボタン操作で可能にするソフトウェアです。詳しくは、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.70）をご覧ください。	●	●
タッチ文字入力	画面に表示された文字をタッチしたり、入力したい文字を画面に手書きしたりして文字を入力するソフトウェアです。	▲	▲
ディスプレイの電源を切る	簡単な操作でディスプレイの電源を入れたり、切ったりできます。詳しくは、「2.8.7 「ディスプレイの電源を切る」」（→P.58）をご覧ください。	●	●
ドライバーズディスク検索ツール	ドライバーやアプリケーションをインストールするときに使用するソフトウェアです。	●	●
パソコン節電設定	節電関連のユーティリティを、まとめてメニューから呼び出し設定することができます。詳しくは、「2.8.3 本パソコンの節電機能」（→P.55）をご覧ください。	●	●
バッテリーユーティリティ	バッテリの情報を表示したり、充電モードの変更やECO Sleep機能を設定できます。機種によって利用できる機能が異なります。詳しくは、「2.9 バッテリ」（→P.59）をご覧ください。	●	●
ピークシフト設定	設定した時間にあわせて、ACアダプタ運用とバッテリ運用を切り替えることができます。ピークシフト設定の設定方法については、「2.8.5 ピークシフト」（→P.57）をご覧ください。	●	●
富士通システムマネージャー	タブレットボタンの制御や、ポートリプリケータの着脱の判別を行い、他のユーティリティ（富士通タブレットコントロールなど）と連携します。	●	●

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.105）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8.1	Win7
ゆったり設定mini	タイトルバーやスクロールバーのサイズを変更することができます。サイズを大きくすると、「最大化」ボタン、「最小化」ボタン、「閉じる」ボタンやスクロールバーが操作しやすくなります。	－	●

4.1.5　CD/DVD関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.105）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8.1	Win7
Roxio Creator	パソコンのデータをCDやDVDに保存できます。 使用方法についてはソフトウェアのヘルプをご覧ください。	●	●

4.1.6　メールソフト

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.105）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8.1	Win7
Windows Live メール	Eメール、カレンダー、アドレス帳、フィード、およびニュースグループをすべて1ヶ所で管理するためのソフトウェアです。 詳しくは、「7.3.1 お問い合わせ先」(→P.166) をご覧ください。	－	●

4.1.7　Office製品

カスタムメイドで選択したソフトウェアをご覧ください。
ご購入時にOfficeはインストールされています。Officeをお使いになる場合は、プロダクトキーの入力とライセンス認証が必要です。詳しくは、「4.2.5 Office製品のインストール」（→P.114）またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

POINT

- お客様が作成したリカバリデータディスクでリカバリを実行した場合、Officeはインストールされます。
- ご購入時に添付されているリカバリデータディスクを使用してリカバリを実行した場合、Officeはインストールされません。マイクロソフト社のホームページ（http://www.office.com/jppipcsetup/）からOffice製品をダウンロードしてください。

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.105）をご覧ください。

名称	含まれるソフトウェア	概要／提供形態	Win8.1	Win7
Microsoft Office Professional 2013	Microsoft Word 2013	ワープロ	●	●
	Microsoft Excel 2013	表計算		
	Microsoft Outlook 2013	情報管理		
	Microsoft PowerPoint 2013	プレゼンテーション		
	Microsoft OneNote 2013	デジタルノート		
	Microsoft Access 2013	データベース		
	Microsoft Publisher 2013	ビジネスパブリッシング		
Microsoft Office Home and Business 2013	Microsoft Word 2013	ワープロ	●	●
	Microsoft Excel 2013	表計算		
	Microsoft Outlook 2013	情報管理		
	Microsoft PowerPoint 2013	プレゼンテーション		
	Microsoft OneNote 2013	デジタルノート		
Microsoft Office Personal 2013	Microsoft Word 2013	ワープロ	●	●
	Microsoft Excel 2013	表計算		
	Microsoft Outlook 2013	情報管理		

4.2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。
データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアル、ソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認のうえ、手順に従ってインストールしてください。

重要

- 誤ったドライバーをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ずOSや機種名を確認し、正しいドライバーを使用してください。
- すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。
- 管理者アカウントでWindowsにサインイン（ログオン）してからインストールしてください。

4.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール

次のディスクまたはハードディスクのリカバリ領域に格納されているソフトウェアまたはドライバーは、「ドライバーズディスク検索ツール」を使ってインストールできます。

・ドライバーズディスク（「SMARTACCESS/Basic」を除く）
・トラブル解決ナビディスク

重要

- これらのディスクは、本パソコンのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ドライバーやソフトウェアのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。必要に応じてインストールしてください。なお、本パソコンに搭載されているすべてのドライバーやソフトウェアが公開されているわけではありません。

1 次の操作を行います。

●ディスクからインストールする場合

1. ディスクをセットします。

「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

POINT

- Windows 8.1で画面右上にメッセージが表示された場合は、そのメッセージをタップし、続けて「DRVCDSRC.exeの実行」をタップしてください。
- Windows 7で「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exeの実行」をタップしてください。
- 「ドライバーズディスク検索ツール」が起動しない場合は、次のように操作してください。
  1. 次の操作を行います。
     - Windows 8.1の場合
       1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「Windows システムツール」の「PC」をタップします。

- Windows 7の場合
  1.「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にタップします。
  2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右タップし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をタップします。
  3.「DRVCDSRC.exeの実行」をタップします。

●ハードディスクのリカバリ領域からインストールする場合

1. アプリ画面（→P.10）を表示し、「ドライバーズディスク検索（ハードディスク）」をタップします。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

4 「種別」に「すべて」を選択します。

5 インストールするソフトウェアを選択します。

「内容」に、インストールするソフトウェアのフォルダーが表示されます。

6 「インストール」をタップします。

インストーラー、またはテキストファイルが起動されます。テキストファイルが起動された場合は、テキストファイルに従って、ドライバーをインストールしてください。ドライバーのインストール完了後、本パソコンが再起動します。

次のソフトウェアはインストール方法が異なりますのでご注意ください。

●Portshutter Premium

「Manual」フォルダーにある「操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

4.2.2　「マカフィー マルチアクセス」のインストール

POINT

- 「マカフィー マルチアクセス」をインストールしていると、ご使用のソフトウェアによっては正常にインストールされなかったり、不具合が発生したりすることがあります。

1 デスクトップにある「マカフィー マルチアクセスをインストール」アイコンをダブルタップします。

Windows 7の場合、「マカフィー マルチアクセスをインストール」アイコンは、本パソコンのセットアップ後「必ず実行してください」を実行すると表示されます。

2 インストールが完了したら本パソコンを再起動します。

重要

- ウイルス定義ファイルは、常に最新の状態でお使いください。詳しくは「マカフィー マルチアクセス」のヘルプをご覧ください。
- ウイルス定義の更新は、システム管理者の指示に従って実行してください。
- 定義を更新するには、インターネットに接続できる環境が必要です。

4.2.3　「i-フィルター」のインストール

Cドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。

C:¥Fujitsu¥Bundle¥I-Filter¥Readme.txt

4.2.4　「SMARTACCESS/Basic」のインストール

「SMARTACCESS/Basic」は「ドライバーズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のソフトウェアとは異なります。「SMARTACCESS/Basic」のインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

4.2.5　Office製品のインストール

1　Officeを起動します。

・Windows 8.1の場合
アプリ画面（→P.10）を表示し、「Microsoft Office」をタップします。

・Windows 7の場合
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」の順にタップします。

2　この後は、画面に従って操作します。

・プロダクトキーの入力
プロダクトキーは、パッケージの中のプロダクトキーカードに貼付されています。

・使用許諾契約の同意
ライセンス条項を表示して必ずお読みください。

インストール後は「Windows Update」を利用するなどして、ソフトウェアを最新の状態に更新してください。

重要

- ご購入時に添付のディスクを使ってリカバリを行った場合、Office 製品はインストールされません。マイクロソフト社のホームページからOffice製品をダウンロードしてください。インストール方法については、次のホームページをご覧ください。
http://www.office.com/jppipcsetup/

4.3 アンインストール

4.3.1　注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始めること
- DLLファイルは削除しないこと
  アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。
  「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」
  このDLLファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

4.3.2　アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
  ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
  「コントロールパネル」ウィンドウ→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは、各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

重要

- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールするときは、
  「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  アンインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド』をご覧ください。
  ・NFCポート
  ・スマートカードスロット
  ・セキュリティチップ

5

第5章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

5.1 BIOSセットアップ 117
5.2 BIOSセットアップの操作のしかた 118
5.3 設定事例集 122
5.4 ME BIOS Extension 130

5.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやフラッシュメモリディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。
本パソコンご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

・特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワードを設定するとき
・起動デバイスを変更するとき
・セキュリティチップの設定を変更するとき（セキュリティチップ搭載機種）
・Wakeup on LANの設定を変更するとき
・起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

重要

- BIOSセットアップの設定は、必ず電源を切ってから行ってください。電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧ください。
- BIOSセットアップは正確に設定してください。
  設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを再起動してください。
- 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

5.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

5.2.1 BIOSセットアップを起動する

1 ボリュームダウンボタンを押したまま、本パソコンの電源を入れます。

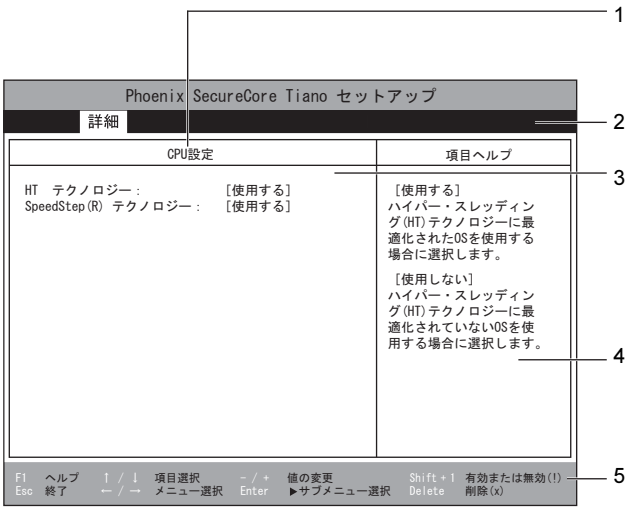
2 ビープ音が鳴ったら、ボタンを離します。
パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.124）してください。
指紋を登録した場合は、認証を行ってください。
BIOSセットアップ画面が表示されます。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧ください。

5.2.2 BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。
各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「キー一覧」をご覧ください。



1 サブメニュー
サブメニューのタイトルをタップすると、1階層上のメニューに戻ることができます。

2 メニューバー
メニュー名が表示されます。

3 設定フィールド
選択しているメニューの設定項目と、現在の設定値が表示されます。

4 項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

5 キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。
項目をタップすると、各キーを押したときの動作が 実行されます。
「/」で区切られた項目は2つの項目を示します。

- BIOSセットアップ画面で設定を変更する場合は、項目をタップして選択した後、もう一度タップします。または、項目をタップして選択した後、「キー一覧」にある「Enter」をタップします。
- サブメニューからメインメニューに戻る場合は、サブメニューのタイトルをタップするか、または、「キー一覧」にある「Esc」をタップします。
- 文字や数値の入力が必要な場合は、入力用ウィンドウをタップするとソフトウェアキーボードが表示されるので、値を入力します。

5.2.3 BIOSセットアップメニュー

BIOSの各種設定を行います。
本パソコンのBIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

5.2.4　BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する

1 「終了」メニューをタップします。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで「Esc」を2～3回タップしてください。

2 「変更を保存して終了する」または「変更を保存して電源を切る」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
BIOSセットアップが終了します。「変更を保存して終了する」を選択した場合はWindowsが起動し、「変更を保存して電源を切る」を選択した場合はパソコンの電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する

1 「終了」メニューをタップします。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで「Esc」を2～3回タップしてください。

2 「変更を保存せずに終了する」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
確認メッセージが表示されます。

POINT

- 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

3 「いいえ」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
BIOSセットアップが終了し、Windows が起動します。

重要

- 「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。必ず「いいえ」を選択してください。

5.2.5　起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本パソコンを起動します。「トラブル解決ナビディスク」から本パソコンを起動する場合などに使用します。

重要

- BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。

1 ショートカットボタンを押したまま、本パソコンの電源を入れます。

2 ビープ音が鳴ったら、ボタンを離します。

パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.124）してください。
指紋を登録した場合は、認証を行ってください。
起動メニュー（Boot Menu）が表示されます。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧ください。

3 アプリケーションメニューのタブをタップします。

アプリケーションメニューが表示されます。

POINT

- 次の手順で、アプリケーションメニューを直接表示することもできます。
  1. Windowsボタンを押したまま、本パソコンの電源を入れます。
  2. ビープ音が鳴ったら、ボタンを離します。
     パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.124）してください。
     アプリケーションメニューが表示されます。

4 起動するデバイスをタップして選択し、もう一度タップします。

選択したデバイスから本パソコンが起動します。

POINT

- 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブにディスクをセットしてから操作してください。
- 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから「Enter」をタップしてください。
  光学ドライブのデータの読み出し中に「Enter」をタップすると、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、「Esc」をタップしてください。

5.3 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況にあわせてご覧ください。

・BIOSのパスワード機能を使う（→P.122）
・起動デバイスを変更する（→P.125）
・セキュリティチップの設定を変更する（→P.126）
・Wakeup on LANを有効にする（→P.128）
・イベントログを確認する（→P.128）
・イベントログを消去する（→P.129）
・ご購入時の設定に戻す（→P.129）

5.3.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次のとおりです。

□ 管理者用パスワード

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

□ ユーザー用パスワード

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。
ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合は、設定変更のできる項目が制限されます。制限された設定項目はグレー表示になり、変更できません。

POINT

- 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

□ ハードディスクパスワード

本パソコンのフラッシュメモリディスクを、他のユーザーが使用したり、他のコンピューターで使用したりできないようにするためのパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。

■ パスワードを設定／変更／削除する

重要

- 「管理者用パスワード」またはハードディスクパスワードを変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- 「ユーザー用パスワード」やハードディスクパスワードを設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。
- 「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、全データを自動的に暗号化、復号していますが、ハードディスクパスワードを設定していない場合はフラッシュメモリディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。

1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。

1. 本パソコンの電源が入っている場合は、シャットダウンします。
2. BIOSセットアップを起動します（→P.118）。

2 「セキュリティ」メニューで次の項目をタップして選択し、「Enter」をタップします。

●管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合

- 「管理者用パスワード設定」
- 「ユーザー用パスワード設定」

●ハードディスクパスワードを設定する場合

- 「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「マスターパスワード設定」
- 「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「ユーザーパスワード設定」

POINT

- ハードディスクの「マスターパスワード」を設定するためには、「管理者用パスワード」とハードディスクの「ユーザーパスワード」が設定されている必要があります。

3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。

「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。
「新しいパスワードを入力して下さい。」をタップすると、ソフトウェアキーボードが表示されます。

4 新しいパスワード（1～32桁）を入力します。

パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移ります。

POINT

- パスワードには、アルファベットと数字を使用できます。大文字、小文字は区別されません。
- 数字だけでなく英字を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫してください。
- 入力した文字は表示されず、代わりに「＊」が表示されます。
- BIOSセットアップを「ユーザー用パスワード」で起動した場合、「ユーザー用パスワード」を削除できるのは「ユーザー用パスワード文字数」の設定が0のときだけです。0以外のときは、「パスワード文字数不足」のメッセージが表示されます。
- コンピューターの修理が必要な場合は、必ずパスワードを解除してください。パスワードがかかった状態では、保証期間にかかわらず、修理は有償となります。

5 手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。

「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

POINT

- 再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。「Enter」をタップしてウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.120）

■ パスワードを使用する

設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

POINT

- パスワード入力時にソフトウェアキーボードが表示されます。
- 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されて警告音が鳴ります。この場合は、電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

● 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード

・BIOSセットアップを起動するとき

・本パソコンを起動するとき

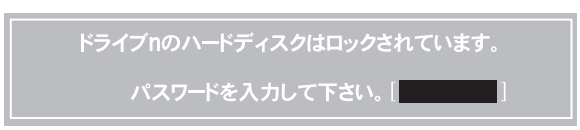
・休止状態からレジュームするとき

次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。

● ハードディスクパスワード

・本パソコンを起動するとき

次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。



■ パスワードを忘れてしまったら

重要

- ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしてもフラッシュメモリディスク内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

□ 対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった
  管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。
- ハードディスク用ユーザーパスワードを忘れてしまった
  ハードディスク用マスターパスワードが設定されている場合のみ、マスターパスワードを削除するとユーザーパスワードも削除されます。
  マスターパスワードを設定していなかった場合は、修理が必要です。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

□ 対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

- 管理者用パスワードを忘れてしまった
- ハードディスク用マスターパスワードを忘れてしまった

5.3.2　起動デバイスを変更する

本パソコンの起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。
「起動デバイスの優先順位」に設定されている順にOSを検索します。
変更したデバイスの順序は、再起動後に反映されます。

1. 「起動」メニューをタップします。
2. 優先順位を変更したいデバイスをタップして選択します。
3. 次の項目をタップして、優先順位を変更します。

「＋」	選択したデバイスを1つ上に移動します。
「－」	選択したデバイスを1つ下に移動します。
「Shift＋1」	選択したデバイスを有効または無効に設定します。

4. 「起動デバイスの優先順位」が希望する順番になるまで、手順2～3を繰り返します。
5. 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
   「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.120）

5.3.3　セキュリティチップの設定を変更する

対 象　セキュリティチップ搭載機種

■ セキュリティチップの状態を変更する

管理者用パスワードを設定してから、次の手順でセキュリティチップの設定を変更してください。

1. 「セキュリティ」メニューをタップします。
2. 「TPM（セキュリティチップ）設定」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
3. 「TPM状態の変更」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
4. 「有効かつ使用可」もしくは「無効かつ使用不可」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
5. 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.120）

■ セキュリティチップをクリアする

管理者用パスワードを設定してから、次の手順でセキュリティチップの設定を変更してください。

1. 「セキュリティ」メニューをタップします。
2. 「TPM（セキュリティチップ）設定」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
3. 「セキュリティチップのクリア」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
確認画面が表示されます。

POINT

- セキュリティチップの状態が「無効かつ使用不可」の場合、「セキュリティチップのクリア」はグレー表示され選択できません。この場合は、セキュリティチップの状態を「有効かつ使用可」に変更してから改めて操作してください。

4. 「はい」をタップします。
5. 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.120）

■ ソフトウェアからの変更を反映する

Windows上のソフトウェアを使ってセキュリティチップの状態を変更する場合、本パソコンの再起動後に、変更が有効になっていることがあります。
再起動を要求するメッセージが表示されたら、次の手順に従って操作してください。

1 **本パソコンの電源を入れるまたは再起動します。**
起動時の自己診断が実行された後、TPM設定変更の確認画面が表示されます。

2 **ボリュームアップボタンを押します。**
セキュリティチップの状態が変更されます。

5.3.4　パスワードの代わりに指紋認証を使う

対 象　**指紋センサー搭載機種**

パスワードを入力する代わりに、指紋センサーを使用して本パソコンの起動時の認証を行うことができます。次の手順で設定を変更してください。

1 **管理者用パスワードとユーザー用パスワードを設定します。**
「BIOSのパスワード機能を使う」（→P.122）

2 **「起動時のパスワード」を「毎回」に設定します。**

3 **SMARTACCESSで指紋の登録と設定を行います。**
詳しくは『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

POINT

- ハードディスクパスワードの代わりに指紋認証を使用することはできません。

5.3.5 Wakeup on LANを有効にする

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本パソコンを起動・レジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からレジュームする機能があります。ここでは、電源オフ状態から起動するための設定について説明します。
電源を切る方法については、「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧ください。
省電力状態からレジュームする機能については、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.53）をご覧ください。

1. 「詳細」メニューをタップします。
2. 「各種設定」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
3. 「LANによるウェイクアップ」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
4. 「使用する」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
5. 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
   「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.120）
   Windows 8.1の場合は、続けて次の操作を行います。
6. コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
   「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」
7. ウィンドウ左の「スリープ解除のパスワード保護」、または「電源ボタンの動作を選択する」をタップします。
8. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をタップします。
9. 「シャットダウン設定」の「高速スタートアップを有効にする（推奨）」のチェックを外します。
10. 「変更の保存」をタップします。

5.3.6 イベントログを確認する

1. 「詳細」メニューをタップします。
2. 「イベントログ設定」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
3. 「イベントログの表示」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
   記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「7.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.160）の「■BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

5.3.7 イベントログを消去する

1 「詳細」メニューをタップします。

2 「イベントログ設定」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

3 「イベントログの消去」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

4 「はい」をタップして選択し、「Enter」をタップします。

5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.120）

5.3.8 ご購入時の設定に戻す

1 「終了」メニューをタップします。

2 「標準設定値を読み込む」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
次の項目を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。

- 「標準設定値を読み込む」で変更されない項目
  - ・日時の設定
  - ・言語設定
  - ・互換性サポートモジュール
  - ・管理者用パスワード
  - ・ユーザー用パスワード
  - ・ハードディスクパスワード
  - ・セキュアブート機能
  - ・所有者情報

POINT

- 「セキュアブート機能」が「使用する」の場合には、「互換性サポートモジュール」設定が自動的に「使用しない」に固定され、「標準設定値を読み込む」は対象外となります。

4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.120）

5.4 ME BIOS Extension

お使いのパソコンにインテル® Core™ i7 プロセッサーまたはインテル® Core™ i5 プロセッサーが搭載されている場合は、インテル® AMT機能などを提供するME（Management Engine）BIOS Extensionが搭載されています。ここでは、ME BIOS Extensionの設定を行うMEセットアップについて説明します。

MEセットアップは、本パソコンにおいて動作確認済みの管理ソフトウェア（別売の「Systemwalker」など）を搭載している場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。AMT機能などをお使いにならない場合は、初期パスワードのみ変更してください。本パソコンご購入時のパスワードのままでいると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。

重要

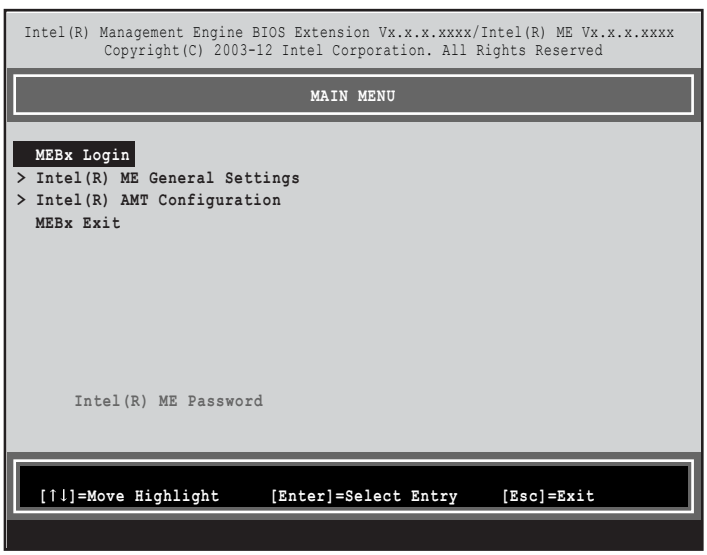
- 「FUJITSU」ロゴ画面下に「<CTRL-ALT-F1> Remote Assistance」と表示されることがあります。通常は、本機能をお使いになれませんので操作しないでください。
  なお、Remote Assistanceをご利用になる場合は、管理者の指示に従ってください。
- 修理などによりメインボードを交換された場合は、パスワードを含むMEセットアップの設定値が出荷時の状態に戻る場合があります。その場合は、MEセットアップを設定し直してください。

5.4.1 初期パスワードを変更する

重要

- パスワードは、必ず変更してください。ご購入時のパスワードのままでいると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。
- 変更したパスワードを忘れるとMEセットアップの設定が変更できなくなります。その場合、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「Intel(R) Management Engine設定」の「Intel(R) ME 設定のクリア」でご購入時の状態に戻してから、パスワードを設定し直してください。
  なお、「Intel(R) ME設定のクリア」は、管理者用パスワードを設定した場合に有効になります。

1 起動メニューで「Intel(R) MEセットアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
起動メニューについては、「5.2.5 起動メニューを使用する」（→P.121）をご覧ください。
MEセットアップログイン画面が表示されます。



POINT

- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール」を「使用する」に設定している場合、次の操作で「Intel(R) Management Engine BIOS Extentionsメニュー」に入ることもできます。
  ・本パソコンの電源を入れる、または再起動し、「FUJITSU」ロゴ画面下に「<CTRL-P> MEセットアップ」と表示されたら、【Ctrl】＋【P】キーを押す。
- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「Intel(R) Management Engine設定」の「Intel(R) MEセットアップ」の「Enter」を押すことにより、次回起動時Intel(R) Management Engine BIOS Extentionsメニューに入ることもできます。BIOSセットアップについては、「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.118）をご覧ください。

2 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。
パスワード入力画面が表示されます。

3 「admin」と入力し、【Enter】キーを押します。
出荷時のパスワードは「admin」に設定されています。

POINT

- 「Invalid Password - Try Again」と表示された場合、入力したパスワードが間違っています。【Enter】キーを押してメッセージを消去し、キーボードのCapsLockインジケーターを確認して、手順2からやり直してください。
- パスワードを3回間違えると「Max password attempts exceeded, system will reboot」と表示され、【Enter】キーを押すと本パソコンが再起動します。手順1からやり直してください。

4 「Intel(R) ME New Password」と表示されたら、新しいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
パスワードは、次の条件をすべて満たすもので設定してください。
・8文字以上32文字以下
・1文字以上の数字を含む
・1文字以上の特殊文字（例：@、$、&）を含む
・1文字以上の小文字のアルファベットを含む
・1文字以上の大文字のアルファベットを含む

POINT

- MEセットアップでは、次のような特殊文字をキーボードの刻印どおりに入力することはできません。
  ・次の文字を入力する場合は、対応するキーを単独で押してください。

入力する文字	＝	[	]	'	＼
対応するキー	^	@	[	:	]

  ・次の文字を入力する場合は、【Shift】キーを押しながら対応するキーを押してください。

入力する文字	@	^	&	*	(	)	_	+	{	}	:	"	|
対応するキー	2	6	7	8	9	0	-	^	@	[	;	:	]

- 「:」「,」「"」は使用できません。また、「_」および「 」（スペース）は使用できますが特殊文字の条件を満たしません。

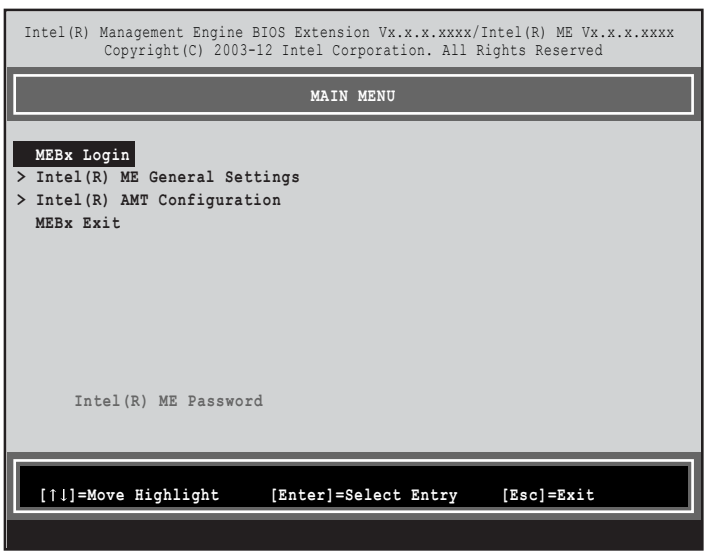
5 「Verify password」と表示されたら、手順4で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

POINT

- 「Error - Intel(R) ME password change rejected」と表示された場合、新しいパスワードが手順5の条件を満たしていません。文字数と使用している文字を確認して、手順2からやり直してください。
- 「Password Mismatch - Abort Change」と表示された場合、手順5と手順6で入力したパスワードが一致していません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、キーボードのCapsLockインジケーターを確認して、手順2からやり直してください。

5.4.2 MEセットアップを起動する

1 起動メニューで「Intel(R) MEセットアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
起動メニューについては、「5.2.5 起動メニューを使用する」（→P.121）をご覧ください。
MEセットアップログイン画面が表示されます。

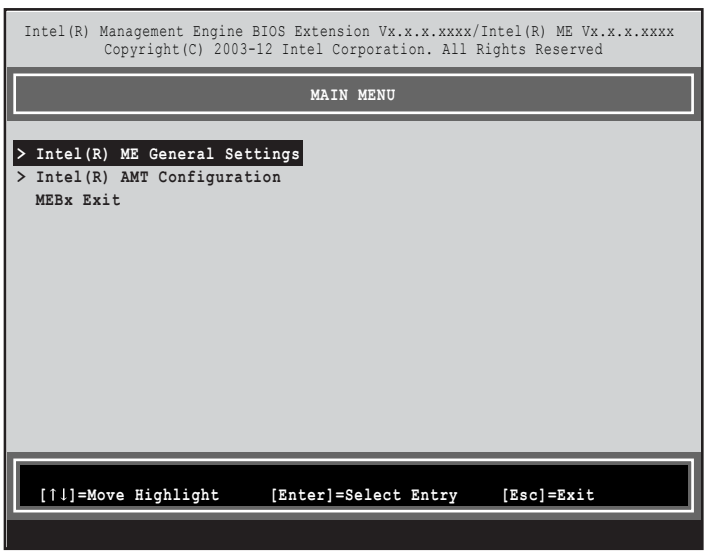


POINT

- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール」を「使用する」に設定している場合、次の操作で「Intel(R) Management Engine BIOS Extentionsメニュー」に入ることもできます。
  ・本パソコンの電源を入れる、または再起動し、「FUJITSU」ロゴ画面下に「<CTRL-P> MEセットアップ」と表示されたら、【Ctrl】＋【P】キーを押す。
- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「Intel(R) Management Engine設定」の「Intel(R) MEセットアップ」の「Enter」を押すことにより、次回起動時Intel(R) Management Engine BIOS Extentionsメニューに入ることもできます。BIOSセットアップについては、「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.118）をご覧ください。

2 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。
パスワード入力画面が表示されます。

3 パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
MEセットアップ画面が表示されます。



重要

- MEセットアップを初めて起動したときは、パスワードの変更画面が表示されます。ご購入時のパスワードを変更しないと、MEセットアップは利用できません。

4 画面上部のメニューからME BIOS Extensionの設定を行います。

5.4.3 MEセットアップを終了する

1 「MAIN MENU」を表示します。
「MAIN MENU」が表示されるまで【Esc】キーを押してください。

2 カーソルキーで「MEBx Exit」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「Are you sure you want to exit? (Y/N)」と表示されたら、【Y】キーを押します。
MEセットアップが終了し、OSが起動します。

5.4.4 メニュー詳細

ここでは、MEセットアップの主なメニュー項目について説明します。

■「Intel(R) ME General Settings」メニュー

設定項目	備考
Change ME Password	MEセットアップのパスワードを変更します。 パスワード入力画面でパスワードを入力後、「5.4.1 初期パスワードを変更する」（→P.131）の手順4以降をご覧になり、パスワードを変更してください。

■「Intel(R) AMT Configuration」メニュー

設定項目		備考
Manageability Feature Selection		本機能を使用しない場合は「Disabled」に設定します。
Network Setup		Intel® MEのネットワーク設定を変更します。お客様の環境にあわせて設定してください。
Activate Network Access 注1		ネットワークアクセスを有効にし、Intel® MEのネットワークインターフェースを使用可能にします。
Unconfigure Network Access		
	Full Unprovision	ネットワークアクセスを無効にし、すべてのネットワーク設定をご購入時の状態に戻します。
	Partial Unprovision	・ネットワーク設定を残したまま、ネットワークアクセスを無効にします。 ・ネットワークアクセスが有効になっている場合のみ表示されます。
Power Control 注2		
	Intel(R) AMT ON in Host Sleep States ☐Mobile: ON in S0 ■Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5 (AC only)	省電力状態（スリープ、休止状態）や電源オフ状態におけるME機能の有効／無効を設定します。 ・Mobile: ON in S0 本パソコンが動作状態のときにのみME機能が有効になります。 ・Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5（AC only） 本パソコンが省電力状態および電源オフの状態でも、pingなどを受信した場合にはME機能が有効になります。
	Idle Timeout 注3	「Intel(R) AMT ON in Host Sleep States」が「Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5（AC only）」に設定されている場合に、本パソコンが省電力状態または電源オフに移行してからIntel® ME機能がオフ状態になるまでの時間を、分単位で設定します。

注1：・「Activate Network Access」を実行しない場合、「Network Setup」で設定した内容は有効になりません。
・「Activate Network Access」を実行した後は、本メニューは表示されなくなります。

注2：「Activate Network Access」を実行した後、本メニュー設定は有効になります。

注3：本設定を変更すると一部の管理ソフトウェアで正常に動作しなくなる場合があります。管理ソフトウェアにて動作が確認できている場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。

6

第6章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

6.1　日常のお手入れ 137

6.1　日常のお手入れ

パソコン本体や周辺機器を長時間ご使用になると、汚れが付いたり、ほこりがたまったりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

6.1.1　パソコン本体、キーボード・ドッキングステーション、スリムキーボード、クレードルの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重要

- 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重要

- ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

6.1.2　液晶ディスプレイ／タッチパネル

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

重要

- 液晶ディスプレイ／タッチパネルの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイ／タッチパネルが破損するおそれがあります。
- 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
  ・アルカリ性成分を含んだもの
  ・界面活性剤を含んだもの
  ・アルコール成分を含んだもの
  ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  ・研磨剤を含むもの
- 液晶ディスプレイ／タッチパネル表面を激しくこすると、静電気が発生することがあります。ご注意ください。

7

第7章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

7.1 トラブル発生時の基本操作 140
7.2 よくあるトラブルと解決方法 145
7.3 それでも解決できないときは 166

7.1　トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

7.1.1　状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在のパソコンの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずパソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？また緩んだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか？
  ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。

このほか、「7.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.146）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

7.1.2　以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

7.1.3　セーフモードで起動する（Windows 7の場合）

セーフモードで起動できるか確認してください。セーフモードは、Windowsが正常に起動できないとき、必要最低限の機能で起動するモードです。そのためトラブルの原因を突き止めるのに適しています。
起動方法は次のとおりです。

重要

- セーフモードで起動する場合は、完全に電源を切った状態から操作してください。
  電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧ください。

1 本パソコンの電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
「詳細ブートオプション」が表示されます。
【F8】キーは一度押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。

4 管理者アカウントでログオンします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
Windowsがセーフモードで起動し、「Windowsヘルプとサポート」ウィンドウが表示されます。

POINT

- セーフモードでも起動できない場合
  手順3で「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択して、Windowsを「前回正常起動時の構成」に戻してください。

7.1.4　トラブルシューティングで調べる

「7.2 よくあるトラブルと解決方法」（→P.145）は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

7.1.5　Windowsのヘルプで調べる

Windowsの機能については、Windowsのヘルプをご覧ください。

7.1.6　インターネットで調べる

よくあるQA一覧ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/qalist/index.html）では、本パソコンで発生したトラブルの解決方法を提供しています。
また、富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）では、本パソコンに関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しております。
注意事項や補足情報も公開していますので、解決方法がないかご覧ください。

7.1.7　診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。
まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。
診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
診断時間は5～10分程度ですが、診断する内容やパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

重要

- 診断プログラムを使用する場合は、完全に電源を切った状態から操作してください。
  電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧ください。
- BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
  診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「5.3.8 ご購入時の設定に戻す」（→P.129）をご覧ください。
- 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
  USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

***1*　ショートカットボタンを押したまま、本パソコンの電源を入れます。**

POINT

- 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。指紋を登録した場合は、認証を行ってください。
- Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧ください。

2 起動メニューが表示されたら、指を離します。

3 アプリケーションメニューをタップして画面を切り替えます。

4 「診断プログラム」をタップして選択し、もう一度タップします。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

5 「実行」をタップします。
ハードウェア診断が始まります。
ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。「再起動」をタップしてください。診断結果が表示される前に、自動的にパソコンが再起動する場合があります。

6 次の操作を行います。

● トラブルが検出されなかった場合
続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。ボリュームアップボタンを押してください。
起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順7に進んでください。

● トラブルが検出された場合
手順7以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、ボリュームアップボタンを押してパソコンの電源を切ってください。
電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して（電源スイッチの場合は、スライドさせて）電源を切ってください。

7 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をタップして閉じます。

8 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をタップします。
ハードウェア診断が始まります。

POINT

- 「[ハードウェア名]に［媒体］をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリデータディスク」や「トラブル解決ナビディスク」など、『リカバリガイド』に従って作成したディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。
診断を取りやめる場合は、「スキップ」をタップしてください。

9 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。
表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

10 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をタップします。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

11 「終了」をタップします。
「終了」ウィンドウが表示されます。

12 「はい」をタップします。
「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

13 「トラブル解決ナビ」ウィンドウで「終了」をタップし、終了を確認する画面で「OK」をタップします。
パソコンが再起動します。

7.1.8　サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「7.3 それでも解決できないときは」（→P.166）をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

7.2 よくあるトラブルと解決方法

7.2.1 トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

●「電源が入らない」（→P.146）
●「ビープ音が鳴った」（→P.147）
●「メッセージが表示された」（→P.147）
●「画面に何も表示されない」（→P.147）
●「Windowsが起動しない」（→P.148）
●「Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない」（→P.149）

■ Windows・ソフトウェア関連のトラブル

●「Windowsにサインイン（ログオン）できない」（→P.149）
●「ソフトウェアが動かなくなってしまった」（→P.149）
●「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」（→P.150）
●「「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある」（→P.150）
●「「Windowsエラー回復処理」が起動する」（→P.151）

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

●「BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった」（→P.151）

□ メモリ

●「仮想メモリが足りない」（→P.152）

□ LAN

●「ネットワークに接続できない」（→P.153）
●「通信速度が遅い」（→P.153）

□ デバイス

●「機器が使用できない」（→P.154）

□ FeliCa（NFCポート搭載機種）

●「FeliCaが反応しない」（→P.154）

□ スマートカード（スマートカードスロット搭載機種）

●「スマートカードが使えない」（→P.154）

□バッテリ

●「バッテリが充電されない」（→P.155）

□ディスプレイ

●「画面に何も表示されない」（→P.155）
●「表示が乱れる」（→P.156）
●「画面がくもる、水滴がつく」（→P.156）

□サウンド

●「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」（→P.157）
●「マイクからうまく録音ができない」（→P.157）

□ポインティングデバイス

●「タッチパネルが使えない／タッチの誤入力が発生する」（→P.158）

□USB

●「USBデバイスが使えない」（→P.158）
●「USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」（→P.159）

□プリンター

●「プリンターを使用できない」（→P.159）

□その他

●「「ジー」「キーン」という音がする」（→P.159）

7.2.2　起動・終了時のトラブル

Q 電源が入らない

● **ACアダプタは接続されていますか？**
次のような場合には、ACアダプタを接続してください。
・ご購入後最初にお使いになる場合
・バッテリ運用時にバッテリが充電されていない場合
「2.9.3 バッテリの残量を確認する」（→P.60）
・長期間未使用状態の場合

● **ACアダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外してください。**
ACアダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外し、2～3分放置後、再び取り付けてください。
それでも電源が入らない場合は、AC アダプタを取り外してから音量調節ボタン（＋）を押しながらショートカットボタンを4 秒以上押してください。その後20 ～ 30 秒待ち、再度電源ボタンを押してください。電源が入らない場合は、この操作を 2 ～ 3 回繰り返してください

- **電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？**

ビープ音が鳴った

- **電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。**
  ビープ音によるエラー通知は、「ピーッ」「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。
  「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージが表示された

- **電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「7.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.160）の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。**
  一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「7.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.160）の「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。
- **周辺機器の取り付けを確認してください。**
  拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込み要求など正しく設定されているかも確認してください。このとき、拡張カードやユーティリティソフトのマニュアルがある場合は、それらもあわせてご覧ください。

上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

画面に何も表示されない

- **電源ランプが点灯していますか？**
  - ・点灯している場合
    【Fn】＋【F6】キーまたは【Fn】＋【F7】キーを押して明るさを調節してください。
  - ・点滅または消灯している場合
    電源ボタンを押して動作状態にしてください。それでも、画面が表示されない場合は「電源が入らない」（→P.146）をご覧ください。
- **外部ディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。**
  - ・パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
    必ずパソコン本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
    パソコン本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
  - ・外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？
    外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、パソコン本体の液晶ディスプレイには表示されません。
    「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.40）をご覧になり、設定をパソコン本体の液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。

・解像度やリフレッシュレートは、外部ディスプレイにあった設定になっていますか？
そのまま15秒程度待っても本パソコンの液晶ディスプレイが表示されない場合は、本パソコンを強制終了してください。その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、本パソコンの液晶ディスプレイに表示されます。「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.40）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、外部ディスプレイの表示に切り替えてください。

POINT

- **クローン表示の場合、解像度の設定が1366 × 768になっていると正常に表示できないことがあります。「8.3.2 クローン表示の解像度」（→P.179）に記載されている解像度に変更してください。**

・クレードルのコネクタをお使いの場合、パソコンにクレードルが正しく取り付けられていることを確認してください。また、クレードルのDC-INコネクタにACアダプタが接続されていることを確認してください。クレードルを取り付けている場合は、パソコン本体ではなくクレードルのコネクタにディスプレイケーブルを接続してください。

Windowsが起動しない

- **Windows 起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。**

  Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。

- **次の認証デバイスのドライバーをアンインストールしましたか？**

  ・指紋センサー
  ・NFCポート
  ・スマートカードスロット
  ・セキュリティチップ

  認証デバイスを使用してWindowsにサインイン（ログオン）している場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。
  認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  アンインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。
  Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にご連絡ください。

- **OSを変更しましたか？**

  OSを変更した場合、BIOSの設定も変更する必要があります。BIOSの設定については、『リカバリガイド』－「ハードディスク全体をリカバリする、またはOSを切り替える」をご覧ください。

Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順でWindowsを終了させてください。
  1. Windowsボタンを押しながら電源ボタンを押します。
  2. 画面右下の「シャットダウン」アイコンをタップします。

  この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れてください。

重要

- 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- 強制終了した場合は、フラッシュメモリディスクのチェックをお勧めします。

7.2.3　Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。

Windowsにサインイン（ログオン）できない

- セキュリティチップを使用してWindowsにサインイン（ログオン）している場合、BIOSセットアップの設定を「使用しない」にすると、Windowsにサインイン（ログオン）できなくなります。BIOSセットアップの設定を「使用する」に設定し直してください。
  セキュリティ」メニューの「TPM（セキュリティチップ）設定」の「セキュリティチップ」を「使用する」に設定します。
- 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにサインイン（ログオン）できないときは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド』をご覧ください。

ソフトウェアが動かなくなってしまった

- 「Windowsタスクマネージャー」から、動かなくなったソフトウェアを強制終了してください。

POINT

- ソフトウェアを強制終了した場合、ソフトウェアでの作業内容を保存することはできません。
- ソフトウェアを強制終了した場合は、フラッシュメモリディスクのチェックをお勧めします。

頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。
  - ・ウイルス対策ソフトウェアでフラッシュメモリディスクをスキャンする
    定期的にフラッシュメモリディスクをスキャンすることをお勧めします。
  - ・C ドライブの空き容量が充分か確認する
    Windowsのシステムファイルが格納されているC ドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。
    C ドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。
    ・ごみ箱を空にする
    ・不要なファイルやソフトウェアを削除する
    ・ディスクのクリーンアップを行う
  - ・フラッシュメモリディスクのエラーチェックを行う

  それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。

「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある

- Windows 7の場合、「IndicatorUtility」で使用される「FUJ02B1デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。
  「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02B1 Device Driver」が表示されているかを確認してください。
  表示されていない場合は、「FUJ02B1デバイスドライバー」をインストールしてください。
  インストール方法は、「ドライバーズディスク」に格納されている「FUJ02B1.txt」をご覧ください。
  1. 「ドライバーズディスク」をセットします。
     「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。
  2. 「機種名」にお使いの機種を、「OS」にお使いのOSを設定します。
  3. 「種別」に「必須」を設定します。
  4. 「一覧」の「ソフトウェア」で「FUJ02B1 Device Driver」を選択します。
  5. 「内容」の「driver」フォルダー→「ja」フォルダー→「FUJ02B1.txt」をご覧ください。
- 「FUJ02E3デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。
  「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02E3 Device Driver」が表示されているかを確認してください。
  表示されていない場合は、「FUJ02E3デバイスドライバー」をインストールしてください。
  インストール方法は、「ドライバーズディスク」に格納されている「FUJ02E3.txt」をご覧ください。
  1. 「ドライバーズディスク」をセットします。
     「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。
  2. 「機種名」にお使いの機種を、「OS」にお使いのOSを設定します。
  3. 「種別」に「必須」を設定します。
  4. 「一覧」の「ソフトウェア」で「FUJ02E3 Device Driver」を選択します。

5.「内容」の「driver」フォルダー→「ja」フォルダー→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。
6.「インストール」をタップします。

POINT

- リカバリ領域を削除していない場合、ハードディスクからドライバーをインストールすることもできます。
  アプリ画面（→P.10）を表示し、「ドライバーズディスク検索（ハードディスク）」をタップすると、「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

「Windowsエラー回復処理」が起動する

- **パソコンの電源を切るときに、「シャットダウン」をタップして正しく終了せず、電源ボタンを4秒以上押すなどして電源を切ると、次回の起動にWindowsエラー回復処理が起動する場合があります。**

Windowsエラー回復処理において、各ボタンは以下のとおりに動作します。

ボタン	動作
ボリュームアップボタン	【↑】キーを押したときの動作
ボリュームダウンボタン	【↓】キーを押したときの動作
Windowsボタン	【Enter】キーを押したときの動作

Windowsエラー回復処理が表示された場合は、以下の操作を実行します。
・「Windowsを通常起動する」を選択して、Windowsボタンを押します。
Windowsが起動して、通常どおりに操作できれば問題はありません。
・パソコンを起動すると再度「Windowsエラー回復処理」が表示される場合は、「Windowsを通常起動する」以外の項目を選択して、表示されるメッセージやヘルプに従って問題を解決してください。

7.2.4　ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS

BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった

- **管理者用パスワードを忘れると、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。**
  ハードディスクパスワードを忘れると、フラッシュメモリディスクが使えなくなったり、フラッシュメモリディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。

いずれの場合も修理が必要となります。
ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。
詳しくは、「■ パスワードを忘れてしまったら」（→P.125）をご覧ください。

■ メモリ

仮想メモリが足りない

- **仮想メモリ（ページングファイル）を設定してください。**
  仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。
  ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得するには、システムドライブに最低でも物理メモリ＋1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

  POINT

  - **搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、ページングファイルを保存するドライブを変更してください。**
  - **仮想メモリを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。最良のシステム効率を得るには、「初期サイズ」に、「すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ」の「推奨」に表示されている数値以上の値を設定してください。システムの搭載メモリ総量の1.5倍の値に設定することをお勧めします。**
    ただし、メモリを大量に消費するソフトウェアを定期的に使用する場合は、必要に応じてサイズを大きい値に設定してください。

  仮想メモリのサイズは次の手順で変更します。

  1. コントロールパネルの「システム」を開きます。
     「システムとセキュリティ」→「システム」
  2. ウィンドウ左の「システムの詳細設定」をタップします。
  3. 「パフォーマンス」の「設定」をタップします。
  4. 「詳細設定」タブをタップし、「仮想メモリ」の「変更」をタップします。
  5. 「すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する」のチェックを外します。
  6. ページングファイルを保存するドライブを変更する場合は、「ドライブ」で保存するドライブをタップします。
     システムドライブに充分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
  7. 「カスタムサイズ」をタップします。
  8. 「初期サイズ」および「最大サイズ」を入力し、「設定」をタップします。
     「初期サイズ」には「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」に表示されている「推奨」の値より大きい値を設定してください。また、「最大サイズ」には「初期サイズ」に設定した値より大きい値を設定してください。
  9. 「OK」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。
  10. 再起動のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って本パソコンを再起動します。

■ LAN

ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
- クレードルのコネクタをお使いの場合、パソコンにクレードルが正しく取り付けられていますか？
  また、クレードルのDC-INコネクタにACアダプタが接続されていますか？クレードルを取り付けている場合は、パソコン本体ではなくクレードルのコネクタにLANケーブルを接続してください。
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
  ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
  ・使用するネットワーク環境に合ったケーブルを使っていますか？
- 省電力モードになっていませんか？
  省電力モードになると、消費電力を抑えるために、デバイスの動作を制限する場合があります。詳しくは、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.70）をご覧ください。
- 「機内モード」が「オフ」、「ワイヤレスデバイス」が「オン」に設定されていますか？
  「機内モード」が「オン」、または「ワイヤレスデバイス」が「オフ」に設定されていると、電波が発信されません。設定方法については、『内蔵無線LANをお使いになる方へ』または『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

通信速度が遅い

- ネットワーク機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、本パソコンをご使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。
  ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。
  例：1Gbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる
  ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本パソコンとネットワーク機器が接続されていることを確認後、パソコン本体を再起動してください。
- クレードルやキーボードドックとの接続が不安定になっていませんか？
  一度取り外して、接続し直してみてください。状況が改善することがあります。

■ デバイス

機器が使用できない

- 「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？
  次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter Premium」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。システム管理者に確認してください。
  ・USB（WebカメラやNFCポート（FeliCa）など内蔵USBデバイスを含む）
  ・NFCポート（FeliCa）
  ・SDメモリーカード
- 省電力モードになっていませんか？
  省電力モードになると、消費電力を抑えるために、デバイスの動作を制限する場合があります。詳しくは、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.70）をご覧ください。

■ FeliCa（NFCポート搭載機種）

FeliCaが反応しない

- NFCポートのドライバーは正しくインストールされていますか？
  「4.2 インストール」（→P.112）をご覧になり、NFCポートのドライバーを再インストールしてください。
- 「Portshutter Premium」で、USBの設定は有効になっていますか？（→P.154）

■ スマートカード（スマートカードスロット搭載機種）

スマートカードが使えない

- スマートカードが正しくセットされていますか？
- 「Portshutter Premium」のUSBのポート設定は、有効になっていますか？（→P.154）

■ バッテリ

バッテリが充電されない

- **ACアダプタは接続されていますか？**
  ACアダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- **バッテリが熱くなっていませんか？**
  バッテリ充電ランプが赤点滅します。
  周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
- **パソコン本体が冷えていませんか？**
  バッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。
  バッテリの温度が5℃以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
  本体が10℃以下になるとバッテリの充電に時間がかかることがあります。
- **バッテリの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）ではありませんか？**
  バッテリの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）の場合は、バッテリを保護するため、充電が始まりません。
  バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

■ ディスプレイ

画面に何も表示されない

- **「7.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.146）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。**
- **省電力状態になっていませんか？**
  本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間入力がないと省電力状態に移行します。
  詳しくは「2.8 省電力」（→P.51）をご覧ください。

表示が乱れる

- **解像度、発色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？**
  「2.4.5 解像度を変更する」（→P.37）をご覧になり、正しく設定してください。
  外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- **ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。**
  1. ソフトウェアを最小化します。
  2. 最小化したソフトウェアを元のサイズに戻します。

POINT

- 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
  - Windows起動時および画面の切り替え時
  - DirectXを使用した一部のソフトウェア使用時

- **近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありませんか？**
  強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください。
- **ドライバーが正しくインストールされていますか？**
  「4.2 インストール」（→P.112）をご覧になり、ディスプレイドライバーを再インストールしてください。
  Windows 7の場合、Windowsが起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください（→P.141）。

画面がくもる、水滴がつく

- **急激な温度・湿度変化で結露が発生することがあります。**
  結露が発生した場合は、電源を切り、風通りの良い場所に設置し、結露が乾いた後ご使用ください。設置場所については『取扱説明書』をご覧ください。

■ サウンド

スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- **内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。**
  - ・スピーカーの出力はONになっていますか？
    スピーカーの出力を確認してください。
  - ・ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、またはヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- **外付けスピーカーに関して、次の項目を確認してください。**
  - ・パソコン本体と正しく接続されていますか？
  - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
  - ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
  - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
  - ・ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、またはヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- **ミュートや音量などを確認してください。**
  詳しくは、「2.7 サウンド」（→P.47）をご覧ください。
- **省電力モードになっていませんか？**
  省電力モードになると、消費電力を抑えるために、ミュートに設定されている場合があります。詳しくは、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.70）をご覧ください。
- **音が割れる場合は、音量を小さくしてください。**
- **サウンドドライバーが正しくインストールされていますか？**
  必要に応じて、「4.2 インストール」（→P.112）をご覧になり、再インストールしてください。

マイクからうまく録音ができない

- **音量は調節されていますか？**
  音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「2.7 サウンド」（→P.47）をご覧ください。
- **オーディオ端子の機能が正しく設定されていますか？**
  「2.7.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.50）をご覧になり、オーディオ端子の機能を正しく切り替えてください。

■ ポインティングデバイス

タッチパネルが使えない／タッチの誤入力が発生する

- 次のような状況では、タッチパネルがタッチ入力を誤検出する場合があります。
  ・大きな電力を必要とする機器の近くなど電源ノイズの多い場所でお使いになる場合や、環境の変化（温度や使用する電源や電波環境など）が生じた場合
  このような場合には、バッテリでの運用またはその場を離れて操作するか、タッチの調整を行ってください。
- タッチパネルの調整は、「2.3.6 タッチパネルの設定を変更する」（→P.35）をご覧ください。

■ USB

USBデバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- クレードルのコネクタをお使いの場合、パソコンにクレードルが正しく取り付けられていますか？
  また、クレードルのDC-INコネクタにACアダプタが接続されていますか？
- USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？
  USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- USBデバイスに不具合はありませんか？
  USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。パソコンを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.154）
- USB3.0コネクタにUSB3.0に対応していないUSBデバイスを接続していませんか？
  USB3.0コネクタにはUSB3.0に対応したUSBデバイスの接続をお勧めします。

USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- **デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？**
  必要なドライバーをインストールしてください。
- **外部から電源が供給されないUSBデバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？**
  次の手順でUSBコネクタの電力使用状況を確認してください。
  1. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
     「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
  2. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラー」をダブルタップし、「USB Root Hub」または「USBルートハブ」をダブルタップします。
     「USB Root Hubのプロパティ」ウィンドウまたは「USBルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
  3. 「電力」タブをタップし、USBバスの電力使用状況がデバイスマネージャーで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
- **「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.154）**

■ プリンター

プリンターを使用できない

- **「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.154）**

プリンターの使用方法については、プリンターのマニュアルをご覧ください。

■ その他

「ジー」「キーン」という音がする

- **静かな場所では、「ジー」「キーン」というパソコン本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。**
  故障ではありませんので、そのままお使いください。
  BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」に「ハードウェア省電力機能」が表示されている機種の場合、「ハードウェア省電力機能」を「使用する」に変更すると、音の聞こえ方が変わる場合があります。

7.2.5　エラーメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。
エラーメッセージ一覧には、お使いのパソコンに搭載されているハードウェアによっては、表示されないメッセージも含まれています。
本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常がみつかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。
BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

メッセージ	説明
記号	
＜F1＞キーを押すと継続、＜F2＞キーを押すとBIOSセットアップを起動します。	起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視してOSの起動を開始し、【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更することができます。
C	
CPUファンエラー。システムの電源が切れます。	CPUファンのテストでエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
I	
Invalid system disk Replace the disk, and then press any key	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
N	
Non-System disk or disk error Replace and press any key when ready	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NTLDR is missing Press any key to restart	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NVRAMデータが正しくありません。	NVRAMデータのテストでエラーが発見されたことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
O	
Operating system not found	OSが見つからなかったことを示しています。 BIOSセットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブにOSが正しくインストールされているかを確認してください。
P	
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ	説明
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「起動」メニューの「ネットワークサーバーからの起動」または「詳細」メニューの「起動設定」の「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
R	
Remove disks or other media. Press any key to restart	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
か	
拡張メモリエラー。アドレス行：nn	メモリのテスト中に、アドレスnnでエラーが発見されたことを示しています。 メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品であるかを確認してください。 それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
キーボードエラーです。	キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
キーボード接続エラーです。	キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。 テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
起動可能なデバイスが見つかりませんでした。	OSが見つからなかった場合に表示されます。 BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか確認してください。 また、セキュアブートに対応していないOSから起動する場合は、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「セキュアブート設定」－「セキュアブート機能」を「使用しない」、「詳細」メニューの「起動設定」－「互換性サポートモジュール」を「使用する」に変更してください。
このスマートカードは使用できません。	読み取りに必要な情報がないときに表示されます。この場合、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧になり、正常なカードをお使いになるか、サインイン（ログオン）情報を登録してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
このスマートカードはロックされています。	スマートカードがすでにロックされているときや、読み取りに必要な情報がロックされているとき、アクセス権がないときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。
このスマートカードはロックされました。	スマートカードがロックされたときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。

メッセージ	説明
さ	
サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。	温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムCMOSのチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。	CMOS RAMのテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。 【F2】キーを押してBIOSセットアップを起動し、標準設定値を読み込んだ後、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAMに設定内容が保存されていないことが考えられます。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムタイマーのエラーです。	システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムは使用できません。	スマートカードに登録されているBIOSロック用パスワードが、BIOSセットアップで設定した管理者用パスワードおよびユーザー用パスワードのどちらとも一致しない場合に表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。
スマートカードが挿入されていません。	スマートカードがセットされていないときに表示されます。
スマートカードに接続できませんでした。	スマートカードスロットやスマートカードに異常がある場合に表示されます。この場合、スマートカードが正常にセットされているか、カードに損傷がないか確認してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
セキュアブートに失敗しました。 **アクセス拒否**	セキュアブートに対応していないOSから起動しようとしたときに表示されます。 セキュアブートに対応していないOSから起動する場合は、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「セキュアブート設定」－「セキュアブート機能」を「使用しない」、「詳細」メニューの「起動設定」－「互換性サポートモジュール」を「使用する」に変更してください。
セキュリティチップが見つかりません。	セキュリティチップが見つからなかったことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
セキュリティボタン異常	電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。	前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。 起動途中に電源を切ってしまった、またはBIOSセットアップで誤った値を設定して起動できなかった、または3回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOSセットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。
前回の起動中にCPUファンエラーが発生しました。	前回の起動時にCPUファンエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。	前回の起動時にサーマルセンサエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
前回の起動中にファンエラーが発生しました。	前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
選択したデバイスから起動できませんでした。	起動メニューで選択された起動デバイスから、起動できなかった場合に表示されます。 起動デバイスが正しく接続されているか確認してください。また、セキュアブートに対応していないOSから起動する場合は、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「セキュアブート設定」－「セキュアブート機能」を「使用しない」、「詳細」メニューの「起動設定」－「互換性サポートモジュール」を「使用する」に変更してください。

メッセージ	説明
た	
ディスクのエラーです。: ハードディスクn	フラッシュメモリディスクドライブの設定にエラーがあることを示しています。 BIOSセットアップを起動し、「システム」メニューの「ドライブn」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
な	
入力されたPINは間違っています。あとnn回PINを間違えるとスマートカードがロックされます。	PINの入力を間違えたときに、PINを入力できる残り回数を表示します。
入力されたPINは間違っています。再度PINを間違えるとスマートカードがロックされます。	PINを入力できる残り回数が1回のときに表示されます。
は	
日付と時刻の設定を確認してください。	日付と時刻の設定値が正しくありません。 設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
ファンエラー。システムの電源が切れます。	冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ら	
リアルタイムクロックのエラーです。	リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOSイベントログに記録されます。
BIOSイベントログは、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「イベントログ設定」の「イベントログの表示」から確認できます。
BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。
BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	説明
A	
ACアダプタ無しで起動されました	ACアダプタなしで起動されました。
C	
CPUファンエラーが発生した	CPUファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
P	
POSTエラー：BIOSセットアップ不正による起動エラー	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定しな直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：CMOSチェックサム不正	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した（ヘッダー情報）	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：PCIデバイスで割り込み番号競合	PCカードの割り込み番号が重複しています。 PCカードの設定を確認してください。
POSTエラー：nnnnnnnn nnnnnnnn	nには数字が表示されます。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：キーボードエラー	キーボードテストでエラーが発生しました。 キーが押されたままになっていないか、またはキーボードが正しく接続されているか、確認してください。
POSTエラー：日付/時刻不正	日付、時刻が正しく設定されていません。 「システム時刻」「システム日付」の設定を確認してください。
あ	
イベントログがクリアされた	イベントログがクリアされました。
か	
強制終了が実行されました	強制終了が実行されました。
キーボード接続エラーです	キーボードテストでエラーが発生しました。 キーボードが正しく接続されているか、確認してください。
さ	
サーマルセンサーエラーが発生した	サーマルセンサエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
システムが起動された	イベントログ設定の「システム起動」を「保存する」に設定した場合に、起動ごとに記録されます。
システム設定が変更された	システム設定が変更されました。
システムファンエラーが発生した	システムファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
診断プログラムが異常を検出（詳細コード＝nnnnnnnn）	診断プログラム実行結果でエラーを検出しました。

メッセージ	説明
は	
パスワード入力不正	誤ったパスワードが3回入力されました。
ファンエラーが発生した	ファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ま	
メモリ容量が前回起動時から変更された	メモリ容量が前回起動時から変更されました。

7.3 それでも解決できないときは

7.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本パソコンに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。
電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

- **マカフィー® マルチアクセスーインターネットセキュリティ期間限定版**
  マカフィー株式会社
  URL：http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/
  （1）テクニカルサポートセンター
  インストール方法、製品削除など技術に関するお問い合わせ窓口
  電話：0570-060-033（携帯電話からの場合：03-5428-2279）
  受付時間：9:00 ～ 21:00（年中無休）
  お問い合わせフォーム：
  http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/tspc_email.asp
  （2）カスタマーサービスセンター
  ご契約の更新、ご契約期間の確認など、ご契約に関するお問い合わせ窓口
  電話：0570-030-088（携帯電話からの場合：03-5428-1792）
  受付時間：9:00 ～ 17:00（土・日・祝祭日を除く）
  お問い合わせフォーム：
  http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/cs_email.asp
  90 日間の試用期間中、サポートいたします。
- **i-フィルター**
  デジタルアーツ株式会社
  サポートセンター
  電話：0570-00-1334
  受付時間：10:00～18:00（指定休業日を除く）
  URL：http://www.daj.jp/faq/
  お問い合わせフォーム：http://www.daj.jp/ask/
  90日間の試用期間中、サポートいたします。
- **Adobe Reader**
  ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

- Skype
  日本マイクロソフト株式会社
  URL：https://support.skype.com/ja/
- Windows Live メール
  日本マイクロソフト株式会社
  マイクロソフトコミュニティからお問い合わせください。
  URL：http://answers.microsoft.com/ja-jp/
  情報を探す、質問を投稿する方法は「マイクロソフトコミュニティを初めてご利用になる方へ」ページでご確認いただけます。
  URL：http://support.microsoft.com/gp/microsoft-answers/

8

第8章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

8.1 本体仕様 169
8.3 ディスプレイ 177

8.1 本体仕様

8.1.1 Q704/H

製品名称			ARROWS Tab Q704/H		
CPU[注1]	名称		インテル® Core™ i7-4600U プロセッサー	インテル® Core™ i5-4300U プロセッサー	インテル® Core™ i3-4010U プロセッサー
	動作周波数		2.10GHz（最大3.30GHz[注2]）	1.90GHz（最大2.90GHz[注2]）	1.70GHz
	コア数／スレッド数		2／4		
	キャッシュメモリ		2次：256KB×2 3次：4MB	2次：256KB×2 3次：3MB	
システムバスクロック			5GT/s DMI[注3]		
メインメモリ			標準8GB（オンボード）（LPDDR3 ）	標準4GB（オンボード）（LPDDR3 ）	
メモリスロット			×0（空きメモリスロット×0）		
表示機能	グラフィックスアクセラレータ		Intel® HD Graphics 4400（CPUに内蔵）		
	ビデオメモリ[注4]	Windows 8.1	最大1792MB（メインメモリと共用）		
		Windows 7	最大1696MB（メインメモリと共用）		
	液晶ディスプレイ[注5]		12.5型ワイドIPS液晶（グレア処理）		
	解像度／発色数[注6]		フルHD（1920×1080ドット／1677万色）		
フラッシュメモリディスクドライブ[注7]			暗号化機能付フラッシュメモリーディスク128GB（シリアルATA）[注8]		
オーディオ機能	オーディオコントローラー		チップセット内蔵＋High Definition Audioコーデック		
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）[注9] サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）[注9] 同時録音再生機能		
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート		
	スピーカー		ステレオスピーカー		
	マイク		デジタルマイク内蔵		
Webカメラ			裏面：有効画素数 約500万画素 表面：有効画素数 約200万画素		
ポインティングデバイス[注10]			タッチパネル（静電容量方式/電磁誘導方式）、スタイラスペン		
通信機能	無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠（5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi® 準拠）[注11]		
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式[注12]		
	無線WAN[注13]	無線WANモデル	Xi対応（LTE） 受信時最大100Mbps、送信時最大37.5Mbps[注14]		
		標準モデル	なし		
	Bluetooth ワイヤレステクノロジー[注15]		Bluetooth v4.0+HS準拠		
インテル® vPro™テクノロジー／AMT			○／V9.5[注16]	—	
セキュリティ機能		指紋センサー	スライド方式		
		NFCポート[注17]	あり		
		スマートカード[注17]	×1（専用スロット）[注18]		
		セキュリティチップ[注17]	TCG Ver 1.2準拠[注19]		

製品名称				ARROWS Tab Q704/H
インターフェース	本体	microSDメモリーカード[注20]		×1スロット
		USB[注21]		USB3.0準拠×1（右側面）[注22] microUSB2.0準拠×1（右側面）[注23]
		オーディオ	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用[注24]	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1
		クレードル／スリムキーボード／キーボード・ドッキングステーション		×1（専用コネクタ）
		状態表示		LED
	クレードル[注25]	外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1 解像度/発色数[注6]：最大1366×768ドット／最大1677万色
			HDMI[注26]	×1 解像度/発色数[注6]：最大1920×1080ドット／最大1677万色
		USB[注21]		USB3.0準拠×4（右側面×2、背面×2）[注22]
		LAN		RJ-45×1 1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注27]、Wakeup on LAN対応[注28]
	キーボード・ドッキングステーション[注25]	キーボード		日本語キーボード （キーピッチ約19mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠）
		ポインティングデバイス		フラットポイント
		外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1 解像度/発色数[注6]：最大1366×768ドット／最大1677万色
			HDMI[注26]	×1 解像度/発色数[注6]：最大1920×1080ドット／最大1677万色
		USB[注21]		USB3.0準拠×2（左側面×1、右側面×1）[注22]
		LAN		RJ-45×1 1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注27]、Wakeup on LAN対応[注28]
		バッテリ		リチウムイオン46Wh（取り外し不可）
		状態表示		LED
	スリムキーボード[注25]		キーボード	日本語キーボード （キーピッチ約19mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠）
			ポインティングデバイス	フラットポイント
			状態表示	LED
電源供給方式		ACアダプタ[注29]		入力AC100V～240V、出力DC19V（3.42A）
		バッテリ		リチウムポリマー 46Wh（取り外し不可）
バッテリ駆動時間（JEITA1.0）[注30]		パソコン本体	Windows 8.1	約16時間
			Windows 7	約14時間
		キーボード・ドッキングステーション装着時	Windows 8.1	約20時間
			Windows 7	約18時間
		スリムキーボード装着時	Windows 8.1	約13時間
			Windows 7	約11時間
バッテリ充電時間[注31]		パソコン本体		約2.5時間
		キーボード・ドッキングステーション装着時		約5時間

製品名称			ARROWS Tab Q704/H
消費電力[注32]（最大時）	パソコン本体	Windows 8.1	約5W（約70W）
		Windows 7	約6W（約70W）
	キーボード・ドッキングステーション装着時	Windows 8.1	約7W（約71W）
		Windows 7	約7W（約71W）
	スリムキーボード装着時	Windows 8.1	約6W（約71W）
		Windows 7	約6W（約71W）
	クレードル装着時	Windows 8.1	約7W（約71W）
		Windows 7	約7W（約71W）
外形寸法（突起部含まず）	パソコン本体		W309.6×D199.3×H11.9mm
	キーボード・ドッキングステーション装着時		W309.6×D214.8×H27.9～29.9mm
	スリムキーボード装着時		W309.6×D212.7×H20.0mm
	クレードル装着時		W309.6×D214.0×H108.0mm
質量	パソコン本体		約980g
	キーボード・ドッキングステーション装着時		約2.14g
	スリムキーボード装着時		約1.67kg
	クレードル装着時		約1.28kg
電波障害対策			VCCIクラスB
省エネ法に基づくエネルギー消費効率			富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にある、製品情報の仕様をご覧ください。
温湿度条件			温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
プレインストールOS[注33][注34]		無線WANモデル	Windows 8.1 Pro（64ビット版）正規版、 Windows 7 Professional（64ビット版）正規版[注35]、 Windows 7 Professional（32ビット版）正規版[注35]
		標準モデル	Windows 8.1 Pro（64ビット版）正規版、 Windows 8.1（64ビット版）正規版、 Windows 7 Professional（64ビット版）正規版[注35]、 Windows 7 Professional（32ビット版）正規版[注35]
サポートOS[注33][注36]			Windows 8.1 Enterprise（64ビット版）正規版[注37]、 Windows 8.1 Pro（64ビット版）正規版[注37]、 Windows 8.1（64ビット版）正規版[注37]、 Windows 8 Enterprise（64ビット版）正規版[注37]、 Windows 8 Pro（64ビット版）正規版[注37]、 Windows 8（64ビット版）正規版[注37]、 Windows 7 Enterprise（64ビット版）正規版[注35][注37]、 Windows 7 Enterprise（32ビット版）正規版[注35][注37]、 Windows 7 Professional（64ビット版）正規版[注35][注37]、 Windows 7 Professional（32ビット版）正規版[注35][注37]

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 ：・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「8.2 CPU」（→P.174）をご覧ください。

注2 ：インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0（→P.174）動作時。

注3 ：DMIはDirect Media Interfaceの略です。

注4 ：本パソコンの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。
最大容量はメインメモリの使用可能な領域によって決定するため、お使いの環境によって記載された値から増減する場合があります。ビデオメモリの容量を任意に変更することはできません。

注5 ：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。
また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。また、スクリーンセーバーの設定については、Windowsのヘルプをご覧ください。
・表示する条件によってはムラおよび微少なはん点が目立つことがあります。

注6 ：・グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。

注7 ：容量は、1GB=1000^3バイト換算値です。

注8 ：カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが搭載されています。
・暗号化機能付フラッシュメモリディスク256GB（シリアルATA）

注9 ：使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注10：カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式／レーザー式）が添付されています。

注11：Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。

注12：IEEE 802.11n準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。

注13：無線 WAN をご利用になるには、当社が提供する企業向けネットワークサービス「 FENICS II ユニバーサルコネクト」の契約、または NTT ドコモとの回線契約およびプロバイダーとの契約が必要です。

注14：Xi エリア外であっても FOMA のエリア内であれば受信時最大 14Mbps 、送信時最大 5.7Mbps となります。
また、ベストエフォート方式による提供となります。これら通信速度とは、技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。実際の通信速度は、通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。エリアの詳細については、NTT ドコモのホームページ（http://www.nttdocomo.co.jp/support/area/index.html）をご覧ください。

注15：すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。

注16：「セキュリティチップ追加」を選択した場合、本パソコンはインテル® vPro™テクノロジー／AMT 9.5対応となります。

注17：カスタムメイドの選択によって搭載されています。

注18：BIOSパスワードをスマートカード認証に置き換えることはできません。

注19：ご購入時のセキュリティチップの状態は、無効になっています。
Windows 8.1の場合は、Windowsのセットアップ後の再起動時に、ご購入時「無効」のセキュリティチップが「有効」となり、所有者パスワードが自動的に設定されます。セキュリティチップをご利用になる前に、「セキュリティ」メニューの「TPM（セキュリティチップ）設定」で、パスワードを変更してください。

注20：・すべてのmicroSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
・著作権保護機能には対応していません。
・2GBを超えるmicroSDカードには対応していません。2GBを超え32GBまでの場合はmicroSDHCカードをお使いください。

注21：すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。

注22：USB3.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき900mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

注23：microUSB2.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

注24：ご購入時はヘッドホン出力に設定されています。設定を変更するには「2.7.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.50）をご覧ください。

注25：カスタムメイドの選択によって添付されています。

注26：・HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・市販のテレビとの連動機能はありません。

注27：・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。

注28：・1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wakeup on LAN機能は使用できません。
・Wakeup on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
・本パソコンの有線LANインターフェース
・本パソコンの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本パソコンが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWakeup on LAN機能が動作しない場合があります。
・Wakeup on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリの駆動時間が短くなります。Wakeup on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・省電力状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.53）をご覧ください。
・電源オフ状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「5.3.5 Wakeup on LANを有効にする」（→P.128）をご覧ください。

注29：標準添付されている電源ケーブルはAC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源など）に接続されると故障する場合があります。

注30：社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver1.0）」（http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=84&ca=14）に基づいて測定。
なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の駆動時間は使用条件により異なります。

注31：・電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
・バッテリーユーティリティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。

注32：・当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリディスク容量、無線WAN／無線LAN／Bluetooth ワイヤレステクノロジー OFF、LCD輝度最小）。
・電源オフ時の消費電力（満充電時）は、約0.17W以下（パソコン本体）、約2.6W以下（キーボード・ドッキングステーション／クレードル装着時）です。
電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

注33：日本語版。

注34：いずれかのOSがプレインストールされています。

注35：Windows 7 Service Pack 1。

注36：富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。

注37：Windowsを新規にインストールする場合は、「付録2 Windowsの新規インストールについて」（→P.184）をご覧ください。

8.2 CPU

本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

お使いのパソコン本体に搭載されているCPUの欄をご覧ください。

機能	インテル® Core™ i7-4600U プロセッサー	インテル® Core™ i5-4300U プロセッサー	インテル® Core™ i3-4010U プロセッサー
インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0	○	○	×
インテル® ハイパースレッディング・テクノロジー	○	○	○
インテル® バーチャライゼーション・テクノロジー	○	○	○
拡張版Intel SpeedStep® テクノロジー（EIST）	○	○	○
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	○	○	○

■ インテル(R)ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0

インテル®ターボ・ブースト・テクノロジー2.0は、従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

POINT

- OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力量は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル(R) ハイパースレッディング・テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させる機能です。複数のソフトウェアを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。
この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

■ インテル(R) バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。
この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

■ 拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー（EIST）

拡張版Intel SpeedStep® テクノロジーは、実行中のソフトウェアのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。
この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

POINT

- この機能により本パソコンの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能の低下が気になる場合は、電源プランを「高パフォーマンス」に切り替えてください。電源プランを切り替えるには、「■ 電源プランを切り替える」（→P.56）をご覧ください。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用すること（バッファー・オーバーフロー脆弱性）を防ぎます。
データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「［ソフトウェア名称］は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をタップし、表示される対処方法に従ってください。

■ インテル（R）スマート・コネクト・テクノロジー

インテル® スマート・コネクト・テクノロジーは、パソコンがスリープ状態のときに、スケジュールされた時間にシステムを起動してネットワーク接続を行い、メールなどの情報を更新する機能です。
この機能はご購入時には無効に設定されています。次の手順で設定を変更できます。

重要

- 液晶ディスプレイを閉じた状態では、インテルスマート・コネクト・テクノロジーを使用しないでください。液晶ディスプレイを閉じた状態では、無線LANが受信できなくなるため使用できなくなります。インテルスマート・コネクト・テクノロジーを使用する場合は液晶ディスプレイを開いた状態でお使いください。
- パソコン本体を持って移動する場合は、インテルスマート・コネクト・テクノロジーを無効に設定してください。
- インターネットにつながっていない状態では、情報を更新することはできません。

□ 有効／無効を切り替える

1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「インテル® スマート・コネクト・テクノロジー」アイコン を右タップし、「設定ユーティリティを開く」をタップします。
   「インテル® スマート・コネクト・テクノロジー」画面が表示されます。
2. 画面右にある切り替えをタップします。
   有効にする場合は「ON」を、無効にする場合は「OFF」をタップしてください。
3. 有効にした場合は、「保存」をタップします。
4. 画面右上の「閉じる」ボタンをタップして画面を閉じます。

POINT

- 次の場合はパソコンが休止状態になってしまうため、インテル・スマート・コネクト テクノロジーを実行することができません。
  ・「電源オプション」設定にある 「スリープ」の「次の時間が経過後休止状態にする。」の設定時間を8時間以下に設定しているとき
  インテル・スマート・コネクト・テクノロジーをスケジュール通りに実行させるには、次の手順で設定を変更してください。
  1. コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
     「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」
  2. 現在選択されている電源プランの「プラン設定の変更」をタップします。
  3. 「詳細な電源設定の変更」をタップします。
  4. 「スリープ」をダブルタップし、「次の時間が経過後休止状態にする」をダブルタップします。
  5. 「バッテリー駆動」、「電源に接続」を「なし」または「夜間モードより長く」に設定します。
  6. 「OK」をタップします。

□ 更新頻度やスケジュールを設定する

1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「インテル® スマート・コネクト・テクノロジー」アイコン を右タップし、「設定ユーティリティを開く」をタップします。
   「インテル® スマート・コネクト・テクノロジー」画面が表示されます。
2. 「設定を変更」をタップします。
3. 「スケジュールをカスタマイズ」をタップし、更新頻度、更新日時を設定します。
4. 「保存」をタップします。
5. 画面右上の「閉じる」ボタンをタップして画面を閉じます。

8.3 ディスプレイ

8.3.1　シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

パソコン本体の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのシングル表示の場合、拡張デスクトップ表示の場合に、本パソコンが出力可能な解像度です。
外部ディスプレイの場合、お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
発色数はWindows 8.1の場合は「32ビット」（約1677万色）、Windows 7の場合は「16ビット」（約6万5千色）または「32ビット」（約1677万色）が選択できます。

POINT

- お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ パソコン本体の液晶ディスプレイ

解像度	対応
800×600[注]	○
1024×768	○
1280×1024	○
1920×1080	○

注 ：Windows 7の場合のみ表示できます。

■ アナログディスプレイ

解像度	対応
800×600[注]	○
1024×768	○
1280×1024	○
1360×768	○
1440×900	未サポート
1600×1200	未サポート
1680×1050	未サポート
1920×1080	未サポート

注 ：Windows 7の場合のみ表示できます。

■ デジタルディスプレイ（HDMI）

解像度	対応
800 × 600 注1	○
1024 × 768	○
1280 × 720	○
1360 × 768	○
1920 × 1080	○

注1：Windows 7の場合のみ表示できます。

8.3.2　クローン表示の解像度

クローン表示の場合に本パソコンが出力可能な解像度です。
お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
発色数はWindows 8.1の場合は「32ビット」（約1677万色）、Windows 7の場合は「16ビット」（約6万5千色）または「32ビット」（約1677万色）が選択できます。

POINT

- お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ パソコン本体の液晶ディスプレイ＋アナログディスプレイ

解像度	対応
800×600[注]	○
1024×768	○
1280×800	○
1280×1024	○
1360×768	○
1440×900	未サポート
1600×900	未サポート
1680×1050	未サポート
1920×1080	未サポート

注　：Windows 7の場合のみ表示できます。

■ パソコン本体の液晶ディスプレイ＋デジタルディスプレイ（HDMI）

解像度	対応
800×600[注1]	○
1024×768	○
1280×720	○
1360×768	○
1920×1080	○

注1：Windows 7の場合のみ表示できます。

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- **フラッシュメモリディスクのデータを消去していますか？**
  パソコン本体に搭載されているフラッシュメモリディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。パソコンを廃棄するときは、フラッシュメモリディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。
  フラッシュメモリディスク内のデータ消去については、「付録1 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.181）をご覧ください。
- **本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。**
  ・法人、企業のお客様へ
  本製品の廃棄については、弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」（http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/products/recycleinfo/）をご覧ください。
  ・個人のお客様へ
  本製品を廃棄する場合は、弊社ホームページ「富士通パソコンリサイクル」（http://azby.fmworld.net/recycle/）をご覧ください。

付録1　パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意

ここでは、パソコンを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

パソコンの廃棄・譲渡時のフラッシュメモリディスク上のデータ消去に関する注意

パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンの中のフラッシュメモリディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。
ところが、このフラッシュメモリディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に
① データを「ごみ箱」に捨てる
②「削除」操作を行う
③「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
④ ソフトで初期化（フォーマット）する
⑤ リカバリし、ご購入時の状態に戻す
などの作業を行うと思います。
まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元することができてしまいます。さらに②～⑤の操作をしても、フラッシュメモリディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。
つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。したがいまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのフラッシュメモリディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
パソコンユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、フラッシュメモリディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、フラッシュメモリディスクに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、フラッシュメモリディスク上のデータを物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、フラッシュメモリディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、充分な確認を行う必要があります。

フラッシュメモリディスクデータ消去

本パソコンには、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。
「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、フラッシュメモリディスクの全領域に固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はあります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- パソコン本体にUSBメモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、「ハードディスクデータ消去」を実行する前に必ず取り外してください。
- データ消去を実行するとフラッシュメモリディスクのリカバリ領域も消去されます。
  必要があれば「ハードディスクデータ消去」の前にリカバリデータディスクを作成してください。作成方法は『リカバリガイド』をご覧ください。
- 「トラブル解決ナビディスク」を起動してから、72時間経過すると、本パソコンが自動的に再起動されます。そのため、「トラブル解決ナビディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してから「ハードディスクデータ消去」を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去中に電源を切らないでください。フラッシュメモリディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中に「トラブル解決ナビディスク」を取り出さないでください。処理を継続できなくなる場合があります。
- 光学ドライブが搭載されていない機種をお使いの場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。外付け光学ドライブは、添付のACアダプタを接続した状態で使用します。
  外付け光学ドライブについては、富士通製品情報ページ内の「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

■ データ消去方法

「トラブル解決ナビディスク」を用意してください。

1 **「トラブル解決ナビディスク」をセットします。**

2 **「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧になり、パソコン本体の電源を切ります。**

3 **「5.2.5 起動メニューを使用する」（→P.121）をご覧になり、光学ドライブから起動します。**
「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

4 **「ユーティリティ」タブをタップし、「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をタップします。**
「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。

5 画面の指示に従って「ハードディスクデータ消去」を実行します。

データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。

重要

- フラッシュメモリディスク搭載機種の場合、ハードディスクデータを消去する方式は、必ず「SSD対応（フラッシュメモリディスク用）」を選択してください。それ以外の方式を選択すると、完全にデータを消去することができませんのでご注意ください。

6 「トラブル解決ナビディスク」を取り出します。

付録2　Windowsの新規インストールについて

Windows を新規にインストールするときに気を付けていただきたいことについて説明します。

注意事項

- Windowsを新規にインストールすると、フラッシュメモリディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- Windowsをインストールすることにより､今までお使いになっていた機能が使えなくなることがあります。
- ご購入後に増設・接続された周辺機器は、必ず取り外してください（カスタムメイドオプションを除く）。OSの新規インストールが完了してから、1つずつ取り付けてください。
- 「ドライバーズディスク」の「種別」－「必須」に表示されるドライバーはすべてインストールしてください。また、ご購入時に選択したカスタムメイドに合わせて、「カスタムメイド」に表示されるドライバーも必ずインストールしてください。インストールしなかった場合、パソコンが正常に動作しません。
- 最新版のドライバーやユーティリティは、富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）にて提供されている場合があります。必要に応じて適用してください。
  Windows 8の場合は、必須のドライバーやユーティティを富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）で提供しています。必ずご覧になり、必要なドライバーやユーティティを適用してください。
- 光学ドライブが搭載されていない場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。
- USB3.0コネクタがOSのインストール時に使用できない場合があります。BIOS　SetUpにてUSBポートの設定を変更の上、USBキーボード、USBマウス、スーパーマルチドライブユニットなどのUSB機器をご使用ください。
- OSのインストール中は、タッチパネルでは操作できません。USBキーボードとUSBマウスを接続してください。USBコネクタが不足する場合は、USBハブを接続してください。

新規インストールの準備

■ BIOSの設定をご購入時の状態に戻す（→P.129）

■ フラッシュメモリディスクデータを消去する（→P.182）

■ Windowsをインストールする前にBIOSの設定を変更する

次の表のとおりに変更します。

□Windows 8.1（64ビット版）またはWindows 8（64ビット版）を新規にインストールする場合

メニュー	設定項目	設定値
詳細	起動設定	
	高速起動	使用する
	互換性サポートモジュール[注1]	使用しない
セキュリティ	セキュアブート設定	
	セキュアブート機能[注2]	使用する

注1 ：「セキュアブート機能」の設定が「使用する」の場合、「互換性サポートモジュール」の設定は自動的に「使用しない」になり、変更できなくなります。
注2 ：「セキュアブート機能」の設定は「管理者パスワード」が設定されているときのみ変更可能です。

□Windows 7（64ビット版／32ビット版）を新規にインストールする場合

メニュー	設定項目	設定値
詳細	起動設定	
	高速起動	使用しない
	互換性サポートモジュール[注1]	使用する
	その他の内蔵デバイス設定	
	USB3.0[注2]	使用しない
セキュリティ	セキュアブート設定	
	セキュアブート機能[注3]	使用しない

注1 ：「セキュアブート機能」の設定が「使用する」の場合、「互換性サポートモジュール」の設定は自動的に「使用しない」になり、変更できなくなります。
注2 ：USB3.0コネクタを搭載している機種のみ設定します。
注3 ：「セキュアブート機能」の設定は「管理者パスワード」が設定されているときのみ変更可能です。

■ ディスクを用意する

- 正規のWindows 8.1、Windows 8、またはWindows 7のインストールディスク
- ドライバーズディスク

新規インストール手順

1 Windows 8.1、Windows 8、またはWindows 7のインストールディスクを起動します。

1. ショートカットボタンを押したまま、本パソコンの電源を入れます。
2. 起動メニューが表示されたら、指を離します。
3. インストールディスクをセットします。
4. CD/DVD を選択して【Enter】キーを押します。
   - 「選択したデバイスから起動できませんでした。」と表示された場合
     BIOSの設定が誤っている可能性があります。「■ Windowsをインストールする前にBIOSの設定を変更する」（→P.184）に戻り、設定を確認してください。
   - 「CD/DVDの起動モードを選択してください」と表示された場合
     - Windows 8.1（64ビット版）またはWindows 8（64ビット版）の場合
       BIOSの設定が誤っている可能性があります。「■ Windowsをインストールする前にBIOSの設定を変更する」（→P.184）に戻り、設定を確認してください。

・Windows 7（64ビット版）の場合
「BIOSモードで起動」を選択してください。
・「Press any key to boot from CD or DVD…」と表示された場合は、何かキーを押してください。

2 OSのインストールとセットアップを行います。

・Windows 7をインストールした場合（USB3.0コネクタ搭載機種のみ）
OSのインストール後、次のBIOSの設定を変更してください。

メニュー	設定項目		設定値
詳細	その他の内蔵デバイス設定		
		USB3.0	使用する

3 Service Packをインストールします（Windows 7の場合）。

4 ドライバーおよびユーティリティをインストールします。

1.「ドライバーズディスク」をセットします。
「ドライバーズディスク検索（DRVCDSRC.exe）」が起動します。
自動的に起動しない場合は、「DRVCDSRC.exe」を実行してください。
2.「種別」から「必須」を選択します。
3. 表示されたドライバーを、上から順にすべてインストールします。
4.「種別」から「任意」または「すべて」を選択し、ご購入時に選択したカスタムメイドにあわせて必要なドライバーをインストールします。

付録3　認定および準拠について

本パソコンに固有の認定および準拠マークに関する詳細（認証・認定番号を含む）は、次の手順で表示される画面で確認できます。

1. BIOS セットアップを起動します。
   「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.118）
2. 「情報」メニューをタップします。
3. 「認証表示」をタップして選択し、「Enter」をタップします。
   「認証表示（Display Regulatory Compliance）」が表示されます。

索引

A

Adobe Reader 108, 166
AirCard Watcher 108

B

BIOS
　ーイベントログ 128, 164
　ーエラーメッセージ 160
　ーパスワード 122
BIOSセットアップ 117
　ー起動する 118
　ー終了する 120
Bluetoothワイヤレステクノロジー 64

C

CPU 174

D

DataShare 108
DEP 175

E

Easy Backup2 108
ECO Sleep 58
EIST 175

F

Finger Zoom 108
F-Launcher 108
Fujitsu Display Manager 42, 108

I

IndicatorUtility 47, 108
i-フィルター 106, 114, 166

L

LAN 63
LANコネクタ 103

M

ME BIOS Extension 130
MEセットアップ
　ー起動する 133
　ー終了する 134
Microsoft Office 111, 114

P

Plugfree NETWORK 63, 108
Portshutter Premium 106

R

Roxio Creator 110

S

SDメモリーカード 73
Skype 109, 167
SMARTACCESS/Basic 106, 114
Systemwalker Desktop Patrol Lite 109

U

UpdateAdvisor 107
USBコネクタ 102

W

Wakeup on LAN 52, 53, 128
Windows Live メール 110, 167

あ行

アタッチメント 98
アンインストール 115
暗号化機能付
　フラッシュメモリディスク 76
イベントログ 128, 164
インストール
　ーi-フィルター 114
　ーMicrosoft Office 114
　ーSMARTACCESS/Basic 114
　ーマカフィー マルチアクセス 113
インテル（R）スマート・コネクト・
　テクノロジー 175

インテル(R)ターボ・ブースト・
テクノロジー2.0. 174
インテル(R) バーチャライゼーション・
テクノロジー. 174
インテル(R) ハイパースレッディング・
テクノロジー. 174
エグゼキュート・ディスエーブル・
ビット機能. 175
エラーメッセージ. 147, 160
オーディオ端子. 103
ー切り替え. 50
お問い合わせ先. 166
音量調節
ー機器／項目. 48
ー全体. 47
ーソフトウェア. 48
音量ミキサー. 48

か行

解像度. 37, 177, 179
拡大表示設定. 38
拡張デスクトップ表示. 40
拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー
（EIST）. 175
かんたんサイズ設定. 109
キーボード・
ドッキングステーション. 88
ーお手入れ. 137
起動デバイス. 125
起動メニュー. 121
キャリブレーション. 31
ーペン. 31
ー指. 31
クレードル. 86
ーお手入れ. 137
クローン表示. 40

さ行

サポートナビ. 107
指紋センサー. 127
シャットダウン. 54
省電力
ー省電力状態. 51
ー省電力設定. 56
シングル表示. 40
診断プログラム. 142
ステータスパネルスイッチ. 109
ストラップ. 98
スリムキーボード. 93
ーお手入れ. 137
静音モード. 70
セーフモード. 141
セキュリティチップ. 77, 126

た行

タッチパネル. 29
ーキャリブレーション. 31
タブレットボタン. 75
ディスプレイ. 36
ー明るさの変更. 36, 37
ーお手入れ. 138
ー解像度. 177, 179
ー解像度の変更. 37
ー拡大表示設定の変更. 38
ー画面表示の向きの変更. 44
ーマルチディスプレイ機能. 40
ディスプレイコネクタ. 101
ディスプレイの電源を切る. 58, 109
データ実行防止（DEP）機能. 175
電源プラン. 56
電源を切る. 54
ドライバーズディスク
検索ツール. 109, 112

は行

ハードディスクデータ消去. 182
ハードディスクパスワード. 122
廃棄. 180, 181
パスワード
ーBIOS. 122
ーME BIOS Extension 131
パソコン節電設定. 55, 109
パソコン乗換ガイド. 107
バッテリ. 59
ー残量. 60, 92
ー充電. 60, 91
ー充電モード. 61
ー状態. 62
バッテリー
ユーティリティ. 58, 61, 62, 109
バッテリ残量ランプ. 92
バッテリ充電ランプ. 60, 91
ピークシフト. 57
ピークシフト設定. 109
ビープ音. 147
富士通システムマネージャー. 109
富士通ハードウェア診断ツール. 107

フラットポイント. 25
プロファイル. 64
ペン
　ーペン機能の設定. 35
防水性能. 79

ま行

マウス. 28
マカフィー
　マルチアクセス. 106, 113, 166
マルチディスプレイ機能. 40
　ー拡張デスクトップ表示. 40
　ークローン表示. 40
　ーシングル表示. 40
無線LAN 63
無線WAN. 64
メモリーカード. 73

や行

ゆったり設定mini. 110

ら行

リサイクル. 180
レジューム. 52

ARROWS Tab
Q704/H

製品ガイド
B5FK-3191-02-05

発 行 日　2014年6月
発行責任　富士通株式会社

〒105-7123　東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

●このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。
●落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。